

上和田遺跡
上並榎仲沖遺跡 2
剣崎大塚南遺跡
西明屋法峯寺前遺跡
正観寺弁財遺跡

—学校施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2017

高崎市教育委員会

序

高崎市には、ユネスコ「世界の記憶」登録を目指す国指定特別史跡山上碑、多胡碑、金井沢碑の上野三碑をはじめ、数多くの文化財が市内各所に所在しています。こうした貴重な文化財の中には、普段は地中に埋もれて人の目に触れない遺跡があり、埋蔵文化財と称されます。

本書は、高崎市内の学校施設整備工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。上和田遺跡や劍崎大塚南遺跡、正観寺弁財遺跡では古墳時代～平安時代の住居跡が調査され、上並榎仲沖遺跡2では水田跡が見つかっています。また、西明屋法峯寺前遺跡では箕輪城との関連が考えられる掘立柱建物跡等を確認しています。

最後に、これら遺跡の発掘調査ならびに報告書作成に多大なるご協力をいただいた地元の皆様、関係機関や各氏の方々に厚くお礼を申し上げます。本書が高崎市の多様な歴史を知る一助となれば幸いと存じます。

平成29年 3月

高崎市教育委員会
教育長 飯野眞幸

例 言

1. 本書は学校関連施設の整備事業等に伴い実施した「上和田遺跡」「上並榎沖遺跡2」「剣崎大塚南遺跡」「西明屋法峯寺前遺跡」「正観寺弁財遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 各遺跡の遺跡番号、所在地、ならびに事業内容・事業主体者は以下のとおりである。

遺跡番号／遺跡名	所在地	事業内容	事業主体者
627 上和田遺跡	群馬県高崎市上和田町80-1他 (高崎市立第一中学校)	校舎増設 屋内運動場増設	高崎市 (教育総務課)
645 上並榎沖遺跡2	群馬県高崎市内並榎町字沖384-2 (高崎市立並榎中学校)	屋内運動場増設	
644 剣崎大塚南遺跡	群馬県高崎市剣崎町大字塚南557	サッカー場整備	
659 西明屋法峯寺前遺跡	群馬県高崎市箕郷町西明屋法峯寺前206-4 (高崎市立箕郷小学校)	校舎建替	
650 正観寺弁財遺跡	群馬県高崎市正観寺町字弁財666-2	-	-

3. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。
調査組織は以下のとおりである。

職名／年度	平成27年度	平成28年度	調査・整理担当	平成27年度	平成28年度
教育長	飯野 眞幸	飯野 眞幸	上和田遺跡	山本 ジェームズ 南雲 博文	南雲 博文
教育部長	上原 正男	上原 正男	上並榎沖遺跡2	山本 ジェームズ 南雲 博文	山本 ジェームズ
文化財保護課長	若狭 徹	若狭 徹	剣崎大塚南遺跡	田辺 芳昭	飯島 克巳
埋蔵文化財担当係長	角田 真也	角田 真也 矢島 浩	西明屋法峯寺前遺跡	田辺 芳昭	金子 智一
庶務担当	加藤 志津代 針井 修	加藤 志津代 金井英一・針井 修	正観寺弁財遺跡	(平成24年度) 神戸 聖語	神戸 聖語 島田 孝紀

4. 発掘調査期間は以下のとおりである。

遺跡名	発掘調査期間	整理期間
627 上和田遺跡	平成27年 3月17日 ～ 平成27年 5月11日	平成28年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日
645 上並榎沖遺跡2	平成27年 7月21日 ～ 平成27年 8月21日	平成28年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日
644 剣崎大塚南遺跡	平成27年 7月22日 ～ 平成27年 7月31日	平成28年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日
659 西明屋法峯寺前遺跡	平成27年11月 9日 ～ 平成28年 3月 3日	平成28年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日
650 正観寺弁財遺跡	平成24年 8月 2日 ～ 平成28年 8月30日	平成27年10月1日 ～ 平成29年 3月31日

5. 本書の執筆は南雲、飯島、金子、神戸、山本の各担当が行い、編集は山本が行った。
6. 遺構・遺物出土状況の写真撮影は各調査担当者が行った。
7. 図版等の作成、遺物図版掲載用写真撮影は各担当者および担当者の指示の下、補助員が実施した。
8. 発掘調査において、表土掘削および埋め戻し作業は掘井ノ上が実施した。
9. 上和田遺跡・上並榎沖遺跡2・西明屋法峯寺前遺跡では、遺構平面図作成の一部は測測研に委託した。その他の遺構断面図、遺物実測図・拓本・写真撮影等の作業は各調査担当者および担当者の指示の下、補助員が実施した。剣崎大塚南遺跡・正観寺弁財遺跡では、すべての作業を各調査担当者および担当者の指示の下、補助員が実施した。
10. 各調査の出土遺物や記録図面、写真類は高崎市教育委員会文化財保護課で保管している。
11. 発掘調査にあたり、地元関係者および関係機関、所管部署にご協力をいただいた。
12. 発掘調査および整理作業には多くの補助員にご尽力いただいた。記して感謝する。

凡 例

1. 本書に使用した地図は、国土地理院発行1/50,000地形図（高崎、下室田、前橋、富岡）および1/10,000高崎市都市計画図を元に作成している。
2. 本書中の座標値は平面直角座標第IX系国家座標（世界測地系）を原則としており、方位は同座標北（G.N.）である。
3. 本書中の図版縮尺は、各図に表示している。
4. 断面図に付した標高はT.P.を基準とした。
5. 土層・遺物の色調および土壌の注記は、農水省農林水産技術会事務局および（財）日本色彩研究所監修『新版標準土色帖（1990年版）』を使用した。
6. 遺構には次の略号を使用した。
SA=掘立柱構列 SB=掘立柱建物 SD=溝状遺構 SE=井戸跡
SI=竪穴住居跡 SK=土坑 SP=ピット
7. テフラ等火山噴出物には次の略号を使用した。
浅間A軽石：As-A 1783（天明3）年 浅間B軽石：As-B 1108（嘉承3・天仁元）年
浅間C軽石：As-C 3世紀末～4世紀初頭
榛名FP：Hr-FP 6世紀中頃 榛名FA：Hr-FA 6世紀初頭
8. 遺構名称および遺構番号は、原則として調査時に付したものをを使用した。
9. 本書中で使用したスクリーンパターンは以下のとおりである。

正観寺弁財遺跡  黄土分布範囲  施軸

10. 遺物観察表中の数値は、以下のとおり表記した。
数値のみ：完存値 （ ）：欠損状態の残存値 【 】：復元による推定値
11. 遺物番号は、本書に掲載した遺物に対して遺跡ごとに連続した番号を付し、本文・遺物観察表・写真図版と一致させた。
12. 各遺構図内の●印は、遺物の出土地点を表している。
13. 土器底部の拓本は、鮮明に残存している箇所のみ掲載している。

目 次

序

例言・凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

上和田遺跡

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	1
第2章 調査の方法	
第1節 本調査	1
第2節 日誌抄	2
第3章 地理的・歴史的環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3節 基本土層	6
第4章 検出した遺構・遺物	
第1節 A区の遺構・遺物	8
第2節 B区の遺構・遺物	21
第3節 C区の遺構・遺物	48
第4節 まとめ	51

上並榎沖遺跡 2

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	55
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	55
第2節 歴史的環境	55
第3章 検出した遺構・遺物	
第1節 調査成果の概要および調査の方法	57
第2節 日誌抄	57
第3節 基本土層	57
第4節 検出した遺構	57
第5節 まとめ	58
第4章 自然科学分析	
上並榎沖遺跡2における プラント・オパール分析報告	59

剣崎大塚南遺跡

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	65
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	65
第2節 歴史的環境	65
第3章 検出した遺構・遺物	
第1節 検出した遺構・遺物	66

西明屋法峯寺前遺跡

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	83
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	83
第2節 歴史的環境	83
第3節 基本土層	83
第3章 検出した遺構・遺物	
第1節 調査の概要	84
第2節 検出した遺構・遺物	84
第3節 小結	86

正観寺弁財遺跡

第1章 調査に至る経緯	
第1節 調査に至る経緯	125
第2章 調査の方法	
第1節 試掘調査	125
第2節 本調査	125
第3節 日誌抄	125
第3章 遺跡の概要	
第1節 遺跡の位置と周辺の歴史的環境	126
第2節 遺跡の概要	127
第4章 検出した遺構・遺物	
第1節 住居跡	128
第2節 平安時代・中世以降井戸跡	142

抄録・奥付

西明屋法華寺前遺跡

第1図	周辺の遺跡	87
第2図	調査図位置図	87
第3図	基本土層柱状図	87
第4図	箕輪城跡全体図	88
第5図	西明屋法華寺前遺跡 全体図	89・90
第6図	A区SD全体図	91
第7図	A区SK全体図	92
第8図	A区ビット全体図	93
第9図	A区SD-1・2・3平面図・断面図	94
第10図	A区SD-4・8平面図・断面図	95
第11図	A区SK-1~3・6平面図・断面図	96
第12図	A区SK-4・5・7平面図・断面図	97
第13図	A区SK-8・9・10平面図・断面図	98
第14図	A区SB-1平面図・断面図	99
第15図	A区SAエレベーション図	100
第16図	A区ビット1~91平面図・断面図	101
第17図	A区ビット101~126・石垣遺構 平面図・断面図	102
第18図	A区出土遺物	105
第19図	B区 全体図	106
第20図	基本土層・南壁SD-2・鳥跡 断面図	107
第21図	SD-1 平面図・断面図・出土遺物	108
第22図	SK-1・2・3 平面図・断面図	109
第23図	B区 SB-1 平面図・断面図	110
第24図	B区 SB-2 平面図・断面図	111
第25図	C区 断面図(1)	112
第26図	C区 全体図・断面図(2)	113・114
第27図	C区 断面図(3)	115
第28図	C区 断面図(4)	116
第29図	C区 断面図(5)	117
第30図	C区 SD-5・6 出土遺物	118
第31図	C区 SK-1 平面図・断面図・ 出土遺物(1)	119
第32図	C区 SK-1 出土遺物(2)	120

正観寺弁財遺跡

第1図	正観寺弁財遺跡周辺遺跡分布図	126
第2図	正観寺弁財遺跡全体図	127
第3図	1号住居跡	128
第4図	1号住居跡出土遺物(1)	128
第5図	1号住居跡出土遺物(2)	129
第6図	2号住居跡	130
第7図	2号住居跡出土遺物	130
第8図	3号住居跡	131
第9図	3号住居跡出土遺物(1)	132
第10図	3号住居跡出土遺物(2)	133
第11図	3号住居跡出土遺物(3)	134
第12図	4号住居跡	134
第13図	4号住居跡出土遺物	135
第14図	5号住居跡	135
第15図	5号住居跡出土遺物	136
第16図	6号住居跡	137
第17図	6号住居跡出土遺物	138
第18図	7号住居跡	138
第19図	7号住居跡出土遺物(1)	138
第20図	7号住居跡出土遺物(2)	139
第21図	8号住居跡	139
第22図	8号住居跡出土遺物	139
第23図	9・10号住居跡	140
第24図	9号住居跡	141
第25図	9号住居跡出土遺物(1)	141
第26図	9号住居跡出土遺物(2)	142
第27図	11号住居跡	142
第28図	1号井戸跡	143
第29図	2号井戸跡	143
第30図	2号井戸跡出土遺物	143
第31図	遺構外出土遺物	143

挿 図 目 次

上和田遺跡

第1図	上和田遺跡 周辺位置図	4
第2図	上和田遺跡 調査区全体図	5
第3図	A区・B区基本土層	6
第4図	上和田遺跡 A区全体図	7
第5図	A区1号住居跡 平面図・断面図(1)	9
第6図	A区1号住居跡 平面図・断面図(2)	10
第7図	A区1号住居跡 出土遺物図	10
第8図	A区2号住居跡 平面図・断面図	11
第9図	A区2号住居跡 出土遺物図	12
第10図	A区3号住居跡 平面図・断面図	12
第11図	A区3号住居跡 出土遺物図	13
第12図	A区1号井戸 平面図・断面図	13
第13図	A区1～4号土坑 平面図・断面図	14
第14図	A区4号土坑 出土遺物図	15
第15図	A区1号溝 平面図・断面図	16
第16図	A区1号溝 出土遺物図	16
第17図	A区ビット1～14 平面図・断面図	18
第18図	A区ビット6 出土遺物図	19
第19図	A区遺構外 出土遺物図	19
第20図	上和田遺跡 B区・C区全体図	20
第21図	B区1号住居跡 平面図・断面図	22
第22図	B区1号住居跡 出土遺物図	23
第23図	B区2号住居跡 平面図・断面図	24
第24図	B区2号住居跡 掘り方平面図	25
第25図	B区2号住居跡 出土遺物図	25
第26図	B区3号住居跡 平面図・断面図	27
第27図	B区3号住居跡 出土遺物図	27
第28図	B区4号住居跡 平面図・断面図	28
第29図	B区4号住居跡 出土遺物図	29
第30図	B区5号住居跡 平面図・断面図	30
第31図	B区5号住居跡 掘り方平面図	31
第32図	B区5号住居跡 出土遺物図	31
第33図	B区6号住居跡 平面図・断面図	33
第34図	B区6号住居跡 出土遺物図	34
第35図	B区7号住居跡 平面図・断面図	35
第36図	B区8号住居跡 平面図・断面図	36
第37図	B区8号住居跡 掘り方平面図・断面図	37
第38図	B区8号住居跡 出土遺物図	37
第39図	B区9号住居跡 平面図・断面図(1)	38
第40図	B区9号住居跡 平面図・断面図(2)	39

第41図	B区9号住居跡 出土遺物図	40
第42図	B区10号住居跡 平面図・断面図	41
第43図	B区10号住居跡 出土遺物図	42
第44図	B区12号住居跡 平面図・断面図	43
第45図	B区12号住居跡 出土遺物図	44
第46図	B区1号溝 平面図・断面図	45
第47図	B区1号溝 出土遺物図	45
第48図	B区1号土坑 平面図・断面図	46
第49図	B区ビット1・2 平面図・断面図	46
第50図	B区ビット3 平面図・断面図	47
第51図	B区遺構外 出土遺物図	47
第52図	C区1・2号土坑 平面図・断面図	48
第53図	C区3号土坑 平面図・断面図	49
第54図	C区3号土坑 出土遺物図	49
第55図	C区遺構外 出土遺物	50

上並榎仲沖遺跡2

第1図	上並榎仲沖遺跡2 位置図・周辺遺跡図	55
第2図	上並榎仲沖遺跡2 調査区全体図	56
第3図	基本土層柱状図	58
第4図	1号土坑 平面図・断面図	58
第5図	上並榎仲沖遺跡の プラント・オパール分析結果	61
第6図	上並榎仲沖遺跡のプラント・オパール	62

剣崎大塚南遺跡

第1図	剣崎大塚南遺跡と周辺の遺跡	65
第2図	調査区全体図	66
第3図	S I - 1 平面図・断面図(1)	67
第4図	S I - 1 断面図(2)	68
第5図	S I - 2 平面図・断面図(1)	69
第6図	S I - 2 断面図(2)	70
第7図	S I - 1 出土遺物(1)	71
第8図	S I - 1 出土遺物(2)	72
第9図	S I - 1 出土遺物(3)	73
第10図	S I - 2 出土遺物(1)	74
第11図	S I - 2 出土遺物(2)	75
第12図	S I - 2 出土遺物(3)	76

目 次

上和田遺跡

第1表	A区1号住居跡	出土遺物観察表	11
第2表	A区2号住居跡	出土遺物観察表	12
第3表	A区3号住居跡	出土遺物観察表	13
第4表	A区4号土坑	出土遺物観察表	15
第5表	A区1号溝	出土遺物観察表	16
第6表	A区ビット6	出土遺物観察表	19
第7表	A区遺構外	出土遺物観察表	19
第8表	B区1号住居跡	出土遺物観察表	23
第9表	B区2号住居跡	出土遺物観察表	26
第10表	B区3号住居跡	出土遺物観察表	27
第11表	B区4号住居跡	出土遺物観察表	29
第12表	B区5号住居跡	出土遺物観察表	32
第13表	B区6号住居跡	出土遺物観察表	34
第14表	B区8号住居跡	出土遺物観察表	38
第15表	B区9号住居跡	出土遺物観察表	40
第16表	B区10号住居跡	出土遺物観察表	42
第17表	B区12号住居跡	出土遺物観察表	44
第18表	B区1号溝	出土遺物観察表	45
第19表	B区遺構外	出土遺物観察表	47
第20表	C区3号土坑	出土遺物観察表	50
第21表	C区遺構外	出土遺物観察表	50

上並榎沖遺跡2

第1表	上並榎沖遺跡の プラント・オパール分析結果	61
-----	--------------------------	----

剣崎大塚南遺跡

第1表	竪穴住居跡出土遺物観察表・土器(1)	77
第2表	竪穴住居跡出土遺物観察表・土器(2)	78
第3表	竪穴住居跡出土遺物観察表・土器(3)	79
第4表	竪穴住居跡出土遺物観察表・石製品	79

西明屋法峯寺前遺跡

第1表	掘立柱建物・竪穴遺構一覽	103
第2表	掘立柱建物一覽	111
第3表	遺物観察表	121

正観寺弁財遺跡

第1表	正観寺弁財遺跡周辺遺跡一覽表	126
第2表	1号住居跡出土遺物観察表	144
第3表	2号住居跡出土遺物観察表(1)	144
第4表	2号住居跡出土遺物観察表(2)	146
第5表	3号住居跡出土遺物観察表(1)	146
第6表	3号住居跡出土遺物観察表(2)	146
第7表	4号住居跡出土遺物観察表	146
第8表	5号住居跡出土遺物観察表	147
第9表	6号住居跡出土遺物観察表	147
第10表	7号住居跡出土遺物観察表(1)	147
第11表	7号住居跡出土遺物観察表(2)	148
第12表	8号住居跡出土遺物観察表	148
第13表	9号住居跡出土遺物観察表(1)	148
第14表	10号住居跡出土遺物観察表(2)	149
第15表	2号井戸跡出土遺物観察表	149
第16表	遺構外出土遺物観察表	149

写 真 図 版 目 次

上和田遺跡	PL. 1~11
上並榎沖遺跡2	PL. 12~14
剣崎大塚南遺跡	PL. 15~21

西明屋法峯寺前遺跡	PL. 22~26
正観寺弁財遺跡	PL. 27~36

かみわだ
上和田遺跡

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

平成26年度に高崎市教育委員会事務局教育総務課（以下、「教育総務課」）より高崎市立第一中学校において校舎増改築および屋内運動場建て替え事業が計画され、高崎市教育委員会事務局文化財保護課（以下、「文化財保護課」）に、事業予定地における埋蔵文化財の照会があった。文化財保護課は、事業予定地周辺部が広範囲にわたって周知の埋蔵文化財包蔵地となっていることから、試掘調査の必要性を提示した。これにより、教育総務課から要請を受けた文化財保護課は平成26年8月26日、27日に校舎増改築範囲および屋内運動場建て替え範囲における試掘調査を実施し、古墳時代から平安時代の集落跡を検出した。

試掘調査結果を受け、教育総務課と文化財保護課との間で埋蔵文化財保護について協議を行なったが、事業計画の変更は困難との回答を得た。文化財保護課では、工事による影響により埋蔵文化財の破壊は免れないと判断し、平成27年3月から記録保存を目的とした発掘調査を実施した。

第2章 調査の方法

第2節 本調査

本調査は校舎増改築部分と屋内運動場建て替え部分を対象に行なったが、屋内運動場に関しては既存の運動場を解体し施設を新築する計画であったため、今回の発掘調査では既存施設分を調査対象外とし、拡張予定の建物範囲を調査対象とした。校舎増改築における調査対象面積は約60㎡で、屋内運動場建て替えにおける調査対象面積は約240㎡となり、前者をA区、後者をB区と呼称した。

調査は平成27年3月からA区を中心に開始し、同年4月から5月上旬はB区の調査を実施した。さらに、A区範囲内の渡り廊下とB区北側の渡り廊下が撤去されたことを受けて6月にA区およびB区北側の約100㎡（C区とする）の追加調査を実施した。

発掘調査では、重機を用いて遺構確認面まで表土除去作業を行ない、その後、遺構確認面にて人力により遺構の形状や重複関係の確認を行なった。発掘調査中の掘削による排出土は、事業地内を仮置き場として管理した。その後、土層観察用ベルトの設定や半裁方向を決定し、順次人力により掘削を開始した。土層観察用ベルトは各遺構の覆土堆積状況を観察し、分層作業や写真撮影、断面図化作業を実施した後に取り除いた。完掘した遺構は35mmモノクロ・カラーリパーサルフィルムカメラおよびデジタルカメラを用いて記録図を作成後に光波測距儀や平面測量で平面図および断面図、遺物出土状況の記録図作成を行なった。全ての遺構の調査が完了した後に埋め戻しを行なった。

第3節 日誌抄

○平成26年度

- 平成27年3月17日 校舎増改築範囲（A区）の調査準備および表土掘削開始。
3月18日 1号・3号住居跡検出、3号住居跡から石製模造品未製品出土。
3月23日 2号住居跡、1号井戸等検出。
3月25日 1～3号住居跡等完掘。
3月30日 A区の埋め戻し。

○平成27年度

- 平成27年4月6日 屋内運動場建て替え範囲（b区）の調査準備（ガードフェンス設置等）
4月8日 表土掘削開始。1号・2号住居跡、1号溝跡検出。
4月9日 第一中学校からの要請で校内の技術室を事務所として使用開始。
4月10日 3～10号、12号住居跡検出。
4月23日 1号住居の完掘。
4月30日 2～7・12号住居完掘。
5月1日 8～10号住居完掘。B区調査完了状況写真撮影。
5月8・9日 埋め戻しおよびガードフェンス撤去。
- 平成27年6月18日 校舎増改築範囲（A区）にかかる渡り廊下の撤去が完了したため、A区の1号住居跡の西半分の調査を開始。1号住居跡の西半分の床面検出。
6月19日 床下面より3枚の古銭（熙寧元宝）が出土。掘り方の写真撮影・平面図作成後、重機による埋め戻し。
6月30日 屋内運動場建て替え範囲内の渡り廊下撤去されたことにより、B区の北側の追加調査（C区）を開始。重機による表土掘削後、土坑群を検出。
7月6日 土坑群の記録作業後、重機による埋め戻し。

第3章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

遺跡周辺の地形は榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地と呼称される火山山麓扇状地とそれに続く前橋台地から形成され、前橋台地の中央付近を流れる井野川流域には段丘と谷底平野からなる井野川低地帯が広がっている。この低地を境にした前橋台地の西城はおよそ2.1万年前に堆積した浅間火山起源の前橋泥流と呼ばれる堆積物や、この前橋泥流を土台とする約1.1万年前に堆積した高崎泥流が存在し、高崎台地と呼称されている。本遺跡は群馬県西部の角落火山に源流を發し、榛名山麓末端や高崎台地を侵食する烏川の左岸の台地上に立地している。烏川からは約400m離れており、標高は現地表面でおよそ96mである。

第2節 歴史的環境

旧石器時代：前橋泥流が堆積するため、痕跡は未確認である。

縄文時代：本遺跡周辺では遺構は検出されず、高崎城7次調査(18)から数点の中期土器片が出土する。

弥生時代：烏川左岸段丘上の微高地では中期後半を中心とした遺跡が列状に点在する。上並榎地域では上並榎南遺跡(5)、上並榎屋敷前遺跡(4)や巾遺跡(6)が分布し、南東には、高崎城遺跡、競馬場遺跡(29)、中期後半の竜見町式土器の標識遺跡である竜見町遺跡等の遺跡が展開する。これらの遺跡は中期後半～末の竜見町式土器の出土が見られ、上並榎南遺跡や上並榎屋敷前遺跡、高崎城遺跡3次調査(16)、12次調査(19)では環濠や溝状遺構が検出する。高崎城遺跡5次調査(17)では方形周溝蓋が検出されており、弥生時代中期後半から末にかけて濃い密度で遺跡が展開すると考えられるが、後期に入ると遺跡の数が後退する。生産遺跡では、並榎地域を中心に展開され、並榎北遺跡(7・8・9)の洪水砂層で埋没した水田跡が最も古く、隣接して浅間C軽石に埋没した上並榎下松遺跡(10・11)、上並榎御料所遺跡(12・13)が存在する。

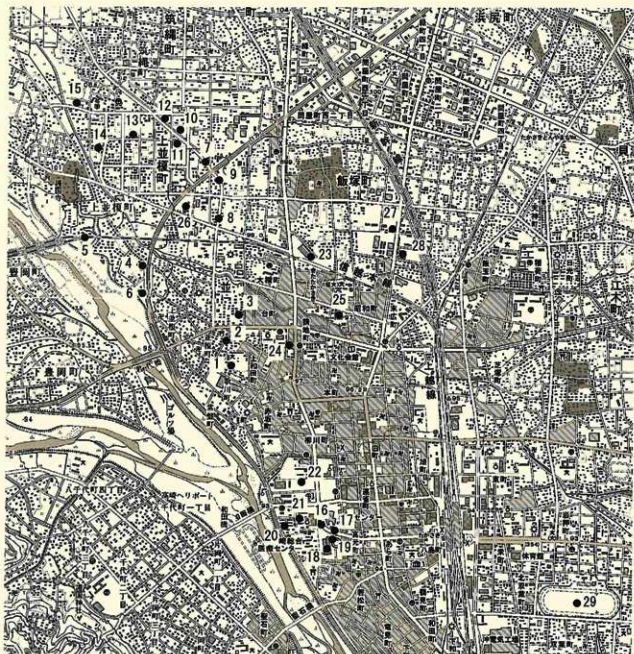
古墳時代：烏川左岸では、古墳前期では倉賀野万福寺I遺跡や下佐野I遺跡にて集落が認められる。中期では烏川左岸下流域に浅間山古墳や大鶴巻古墳などの大型前方後円墳が築造され、烏川から約800m西方では5世紀後半に舟形石棺をもつ前方後円墳である上並榎稲荷山古墳(14)が築造される。後期になると、本遺跡周辺において集落が展開され、工房を伴う住居跡とされる上並榎屋敷前遺跡(4)や上並榎台原遺跡(3)が存在する。上並榎屋敷前遺跡では白玉・管玉、剣形模造品等の未製品、並榎台原遺跡では白玉や紡錘車の未製品を出土する。また、本遺跡の南側では、工房跡等の遺構は未確認であるが、滑石の原石や細片、白玉・管玉等の大量の未製品を出土する高崎城14次調査(20)や白玉の完形や未製品が30点ほど出土する18次調査(21)、滑石製の白玉(完形)が出土する19次調査(22)等、高崎城遺跡から石製模造品類の出土が確認される。

なお、烏川の対岸、観音山丘陵の寺尾東館I・II・III遺跡から石製模造品を伴う祭祀遺構を検出し、300点以上の土器や須恵器のほか、白玉約2000点以上、有孔円板や勾玉、刀子などの石製模造品が約80点以上の出土が認められる。

また、台地上の低湿地では、上並榎北遺跡、上並榎御料所遺跡、上並榎下松遺跡、飯塚新田西・雁田遺跡(23)などHr-FAIに埋没する水田跡を検出しており、烏川左岸台地の背後における低地の活用が認められる。

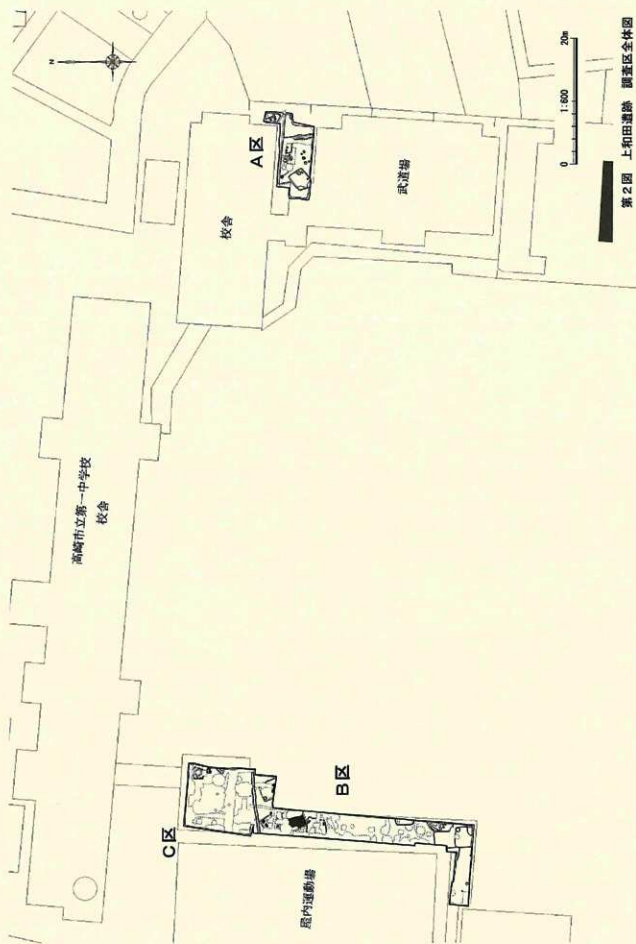
また、上並榎稲荷山古墳から400m北では6世紀後半築造の横穴式石室を有した筑縄小星山古墳(15)が位置する。

奈良・平安時代：居住域・生産域ともに拡大し、台地上の微高地では集落が、低地では水田が展開された。本遺跡周辺では高崎城遺跡4・5・7次調査(16・17・18)にて平安時代の住居跡を検出しているが、住吉町I遺跡(24)、昭和町I遺跡(25)のほか、並榎北遺跡や上並榎仲沖遺跡(26)などの並榎地域や飯塚大道東遺跡、飯塚東金井遺跡(27・28)などの飯塚地域でAs-Bに埋没する水田跡が多く検出されている。



第1図 上和田遺跡 周辺遺跡位置図

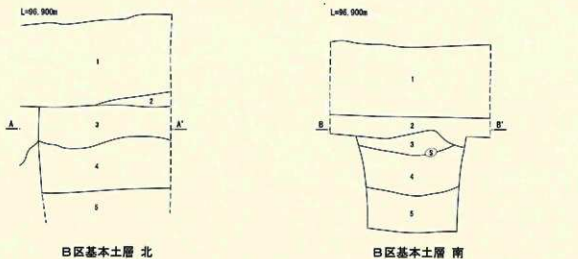
1. 上和田遺跡(本報告) 2. 神明塚古墳 3. 並榎台原遺跡 4. 上並榎屋敷前遺跡 5. 上並榎南遺跡 6. 巾遺跡 7. 並榎北遺跡
 8. 並榎北遺跡II・III 9. 並榎北遺跡IV・V 10. 上並榎下松遺跡I 11. 上並榎下松遺跡II 12. 上並榎御所遺跡I 13. 上並榎御所遺跡II 14. 上並榎稻荷山古墳 15. 筑洲小星山古墳 16. 高崎城遺跡III 17. 高崎城遺跡IV・V 18. 高崎城遺跡VI
 19. 高崎城遺跡XII 20. 高崎城遺跡XIV 21. 高崎城遺跡XVIII 22. 高崎城遺跡XIX 23. 飯塚大道東遺跡 24. 住吉町I遺跡
 25. 昭和町I遺跡 26. 上並榎仲沖遺跡 27. 飯塚東金井遺跡 28. 飯塚東金井遺跡II 29. 高崎説馬場遺跡



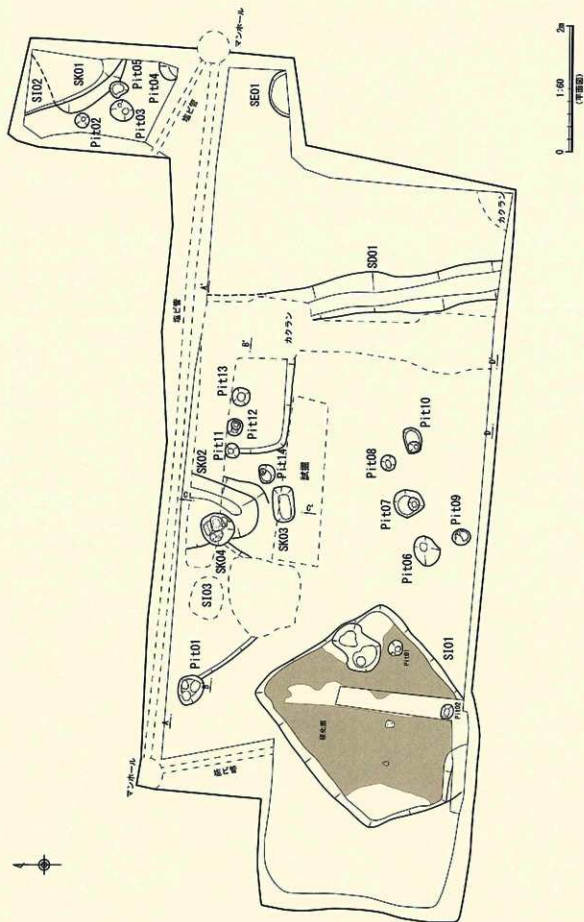
第2図 上和田遺跡 調査区全体図

第3節 基本土層

A・B・C区はともに第一中学校の学校整備に伴うと考えられる校庭造成土が40~50cm程厚く堆積しており、碎石やコンクリート片が多く混入する。いずれの区でも火山噴出物（テフラ）の一次堆積層は未確認であり、As-A混土やAs-B混土が遺構の埋没土や遺構確認面よりも上層などに局所的に見られるのみである。本来のテフラ堆積土層は造成土や旧校舍建造等において損なわれたと考えられる。なお、遺構確認面はA区では地表から約60cm下の7・8層目の上面、B区では地表から約45cm下の3層目の上面である。



第3図 A区・B区基本土層



第4図 上和田遺跡 A区全体図

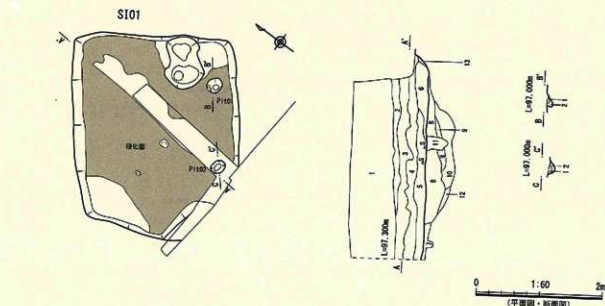
第4章 検出した遺構・遺物

第1節 A区の遺構・遺物

A区は校舎増改築範囲で調査面積は約60㎡である。表土から約80cm下層まで第一中学校に関連すると思われる造成土が厚く堆積するとともに、建築物に伴うコンクリート基礎が遺構面の深さまで到達しており、遺構を破壊していた。

各遺構の残存は良好ではなかったが、古墳～平安時代の竪穴住居跡3軒、溝1条、井戸1基、土坑4基、ピット14基を検出した。また、調査区内からは滑石の原石や細片が出土しており、2号住居跡では穿孔された白玉の未製品も出土している。なお、浅間山起源の火山噴出物(As-A、As-B、As-C)および榛名山起源噴出物(Hr-FA)の一次堆積層はいずれも確認できなかった。

1号住居跡		第5図 / PL. 1			重複関係	-	主軸	N・52°・E	
規模	平面形態	長方形状	位置	調査区西側	竪	位置	東壁	黄口幅・奥行	0.42・0.50
	長軸・短軸	3.15・2.62	深さ	0.5		所見			
床面	黄褐色ブロックを多量に含む黒褐色土でしまりが強く、粘性が強い粘床を確認				埋没土	黒褐色土を基調とし、多量の黄褐色シルトや炭化物が混入			
掘り方	黄褐色ローム層の深さまで掘り込まれ、中央に向かってさらに一段低く掘り込まれる。掘り方にてピット状の掘り込みを3基検出。ピット3は楕円形で径0.26×0.19m、深さ0.1m、ピット4は不整形円で径0.35×0.30、深さ0.13m、ピット6は円形で径0.39×0.36m。								
内部施設	床面の南壁沿いにピット2基検出。ピット1は円形、径0.25×0.20m、深さ0.08m、ピット2は不整形円形、径0.21×0.16m、深さ0.10m								
所見・出土遺物	埋没土中や床面近くで滑石細片が多量に見られ、床面直上から土師器坏(1)が出土する。しかし、床下からは3枚の銭貨(6・7・8)が近接して出土し、1枚(6)が「無牟元宝」であるため、11世紀後半以降の住居と想定する。								



1号住居跡 (SPA-A)

- 1 黒褐色 (10YR 3/1) 造成土。砂、碎石、ガサ混入。しまり極めて強、粘化なし、As-A層上。炭化物、ごみ混入。しまり極めて強、粘性弱。
- 2 灰黄褐色 (10YR 6/2) As-A層上。遺物片混在。しまり強、粘性弱。黄褐色シルト粒子 (φ2~3mm) 少量。しまり強、粘性やや強、遺構層上。
- 3 黒褐色 (10YR 3/2) 黄褐色シルト粒子 (φ1~2mm) ややや多量。しまり強、粘性やや強。遺構層上。
- 4 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト粒子 (φ3~5mm) ややや多量。炭化物含む。しまり極めて強、粘性やや強。遺構層上。
- 5 黒褐色 (10YR 3/2) 黄褐色シルト粒子 (φ1~2mm) ややや多量。屏上段に集中。炭化か。しまり強、粘性弱。
- 6 黒褐色 (10YR 3/2) 黄褐色シルト粒子 (φ2~3mm) ややや少。粘土露む。しまり強、粘性やや強。
- 7 黒褐色 (10YR 3/2) 黄褐色シルト粒子 (φ3~5mm) ややや少。シルト質。しまりやや強、粘性強。
- 8 黒褐色 (10YR 3/2) 黄褐色シルト粒子 (φ3~5mm) 少量。しまり強、粘性やや弱。
- 9 黒色 (10YR 2/1) 黄褐色シルト粒子 (φ2~3mm) ややや少。しまり強、粘性弱。
- 10 黒色 (10YR 3/1) 黄褐色シルト粒子 (φ3~5mm) 少量。しまり強、粘性やや弱。
- 11 黒褐色 (10YR 3/2) 黄褐色シルト粒子 (φ2~3mm) 少量。しまり強、粘性強。
- 12 黒褐色 (10YR 4/2) 黄褐色シルト粒子 (φ2~3mm) 少量。しまり強、粘性弱。

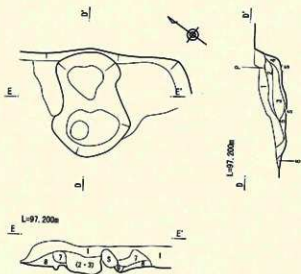
1号住居跡 (SPB-B)

- P101
- 1 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ2~3mm) ややや少。炭化物少量。しまりやや強、粘性やや弱。
 - 2 黒褐色 (10YR 3/2) 黄褐色シルト (φ3~5mm) ややや多量。しまり強、粘性やや強。

1号住居跡 (SPC-C)

- P102
- 1 黒褐色 (10YR 3/1) 黄褐色シルト (φ3~5mm) ややや多量。しまり強、粘性やや弱。
 - 2 黒色 (10YR 2/1) 黄褐色シルト (φ2~3mm) 少量。しまり強、粘性やや強。

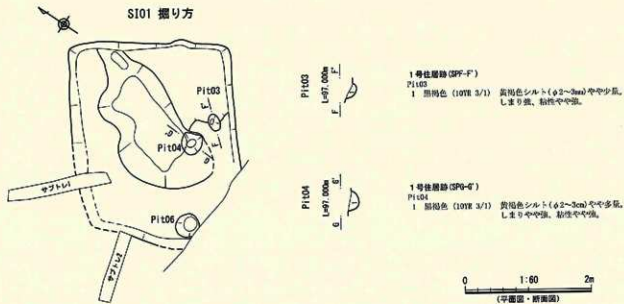
カマド



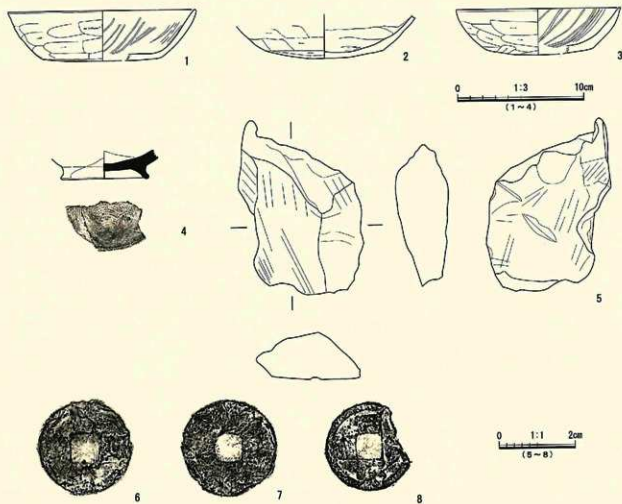
1号住居跡 (SPD-D, E-F 共通)

- 1 黒褐色 (10YR 3/2) 粘土やや多量。黄褐色シルトブロック (φ3~5mm) ややや少。しまり強。粘性やや強。
- 2 灰黄褐色 (10YR 4/2) 黄褐色シルト粒子 (φ3~5mm) 多量。粘土少量。しまり強、粘性強。
- 3 黒色 (10YR 2/1) 炭化物主体の塊。粘土ブロック (φ2~3cm) ややや多量。しまり強、粘性やや弱。
- 4 褐色 (10YR 4/1) 炭化物主体の塊。粘土粒子 (φ2~3mm) 少量。しまりやや弱、粘性やや強。
- 5 黄褐色 (10YR 3/1) 炭化物少量。粘土少量。しまりやや強、粘性やや弱。
- 6 黒褐色 (10YR 3/1) 黄褐色シルト (φ2~3mm) 少量。しまり強、粘性やや強。
- 7 黒褐色 (10YR 3/1) 粘土多量。特にカマドの内側に照看 (一級照看) あり。しまり強、粘性やや弱。
- 8 暗褐色 (10YR 3/3) 黄褐色シルト (φ3~5mm) 多量。しまりやや強、粘性やや強。
- 9 褐色 (10YR 2/1) 炭化物、灰を多く含む。粘土やや多量。しまりやや弱、粘性やや弱。

第5図 A区1号住居跡 平面図・断面図 (1)



第6図 A区1号住居跡 平面図・断面図(2)



第7図 A区1号住居跡 出土遺物図

第1表 A区1号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	質量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①土質 ②色調 ③胎子	残存	備考
				口径	底径	高さ				
第7図 PL.8	AIK-S101 床土	1	土師器 罎	14.8	9.3	4.0	外面：口縁部上位横ナゲ、中・下位 ヘラケズリ 内面：横ナゲ後放射状暗文	①不良 ②7.5YR 7/6 ③褐色胎子、赤色	口縁～底部 50%	平底
第7図 PL.8	AIK-S101 床土	2	土師器 罎	-	9.4	(3.3)	外面：横方筒ヘラケズリ 内面：横ナゲ	①良好 ②7.5YR 6/6 ③角閃石、白色胎子、 微細砂粒	底部	
第7図 PL.8	AIK-S101 埋没土	3	土師器 罎	(13.0)	-	3.6	外面：口縁部上位横ナゲ、中・下位 ヘラケズリ 内面：横ナゲ後放射状暗文	①不良 ②8YR 6/4 ③褐色胎子	口縁～底部 25%	平底
第7図 PL.8	AIK-S101 埋没土	4	須恵器 罎	-	[7.0]	(2.2)	コタコ器形、底径が胴径より短く、高台胎 子。胴筋方向は不明瞭	①良好 ②7.5Y 6/1R ③白色胎子、白色粒	底部	

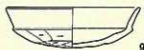
図版	出土地	番号	種類 器種	質量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴 (器形・文様の特徴)			残存	備考
				幅	高さ	厚み			①平面形態	②断面形態	③穿孔		
第7図 PL.8	AIK-S101 埋没土	6	滑石	4.0	3.0	1.4	26.20	滑石	①不整多角形 ②10G 7/1 ③明褐色	①不整多角形 ②不整多角形 ③木穿孔	剥片		

図版	出土地	番号	種類 器種	直径 (cm)	高さ (g)	材質	成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	初時 (西暦)	残存	備考
第7図 PL.8	AIK-S101 床下	6	銭貨	2.4	3.19	銅	【調査完了】蓋書体 銭面の文字が不明瞭	1068年 (北条)	ほぼ完形	
第7図 PL.8	AIK-S101 床下	7	銭貨	2.5	2.78	銅	磨耗が激しく、解読不能	-	ほぼ完形	
第7図 PL.8	AIK-S101 床下	8	銭貨	2.3	1.16	銅	【調査完了】蓋書体 銭面の文字が不明瞭	821年 (唐)	75%	

2号住居跡		第8図 / PL.1		重複関係	1号土坑→ 2号住居跡	主軸 N-21°-W
規模	平面形態	不明	位置	調査区東側北壁	層	北東隅に粘土・炭化物が集中的に見られたが、 詳細は不明
	長軸・短軸	(1.78 × 0.95)	深さ			
床面	明確な硬化面や貼床は確認できず			埋没土	しまりの強い黒褐色土に黄褐色シルトを多量に 含む	
柱穴	-			掘り方	黄褐色ローム層まで掘り込む。底面は平坦。	
内部施設	調査範囲が限られるため、詳細は不明					
所見・出土遺物	埋没土中から土師器罎(9)が出土する。					



第8図 A区2号住居跡 平面図・断面図

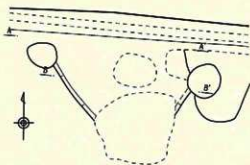


第9図 A区2号住居跡 出土遺物図

第2表 A区2号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	法量(cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①構成 ②土質	残存	備考
				口徑	底徑	器高				
第10図 Pl. 8	AKK 5102 埋没土	9	土師器 杯	[10.6]	-	3.2	外面：口縁部上半横ナデ，下半横方向 ヘラケズリ 内面：横ナデ	①良好 ②小粒、白色粒子	50%	丸底

3号住居跡		重複関係		主軸	
図版	第10図 / Pl. 1	重複関係		ビット1→3号住居跡、3号住居跡 →2号土坑→4号土坑	
規模	平面形態	不明	位置	調査区中央北壁	
	長軸・短軸	(1.95・1.00)	深さ	0.12	
床面	明確な硬化面や貼床は確認できず			掘設土	黄褐色シルトを含む黒褐色土
柱穴	-			掘り方	黄褐色ローム層まで掘り込む。ほぼ平坦。
内部施設	調査範囲に限られるため、詳細は不明				
所見・出土遺物	重複道構が多く、残存は不良。埋没土から穿孔済みの白玉の未製品(10)が出土する。				

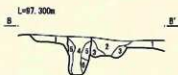
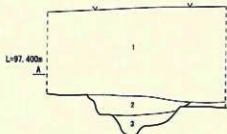


北壁(SPA-A')

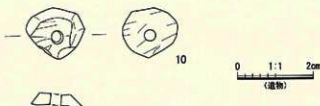
- 1 黒褐色 (10YR 3/1)
- 2 黒褐色 (10YR 3/1)
- 3 黒褐色 (10YR 3/1)

ペルト(SPB-B')

- 1 灰黄褐色 (10YR 4/2) 軽石状粒子(φ2~3mm)やや少量。黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
- 2 黒褐色 (10YR 3/2) 軽石状粒子(φ2~3mm)多量。黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。しまり強、粘性強。
- 3 黄褐色 (10YR 5/8) 黄褐色シルト主体。黒褐色土層。しまりやや強、粘性やや弱。
- 4 黒褐色 (10YR 4/1) 軽石状粒子(φ2~3mm)少量。黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。ブロック(φ2~3cm)少量。しまり強、粘性弱。
- 5 褐灰色 (10YR 4/1) 軽石状粒子(φ2~3mm)少量。黄褐色シルトブロック(φ1~2cm)やや多量。しまり強、粘性強。
- 6 明黄褐色 (10YR 6/0) 黄褐色シルト主体。しまりやや強、粘性やや強。



第10図 A区3号住居跡 平面図・断面図



第3表 A区3号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴				残存	備考
				長径	短径	厚み			①平面形態	②断面形態	③穿孔	④色調		
第11図 PL. 8	A区 S103 埋設土	10	白土 (未製品)	1.5	1.4	0.3	1.11	滑石	①円形	②やや厚い台形	③径0.26cmの穿孔	④淡色	ほぼ完成	

第11図 A区3号住居跡 出土遺物図

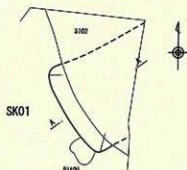
1号井戸		図版	第12図 / PL. 2	位置	調査区東側南壁	重複関係	-	主軸	N-94° - W
平面形態	円形状か	断面形態	「U」状を呈する。						
規模	長軸・短軸		3.15・2.62	深さ	0.5				
所見	遺物は須恵器の小破片が少量出土。埋設土は最下層までAs-Bの混入土が見られるため、中世以降の遺構と想定する。								



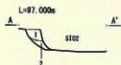
第12図 A区1号井戸 平面図・断面図

1号土坑	第13図	位置	調査区東側北壁	重複関係	1号土坑→2号住居跡	主軸	N-36° - W
平面形態	不明	長軸・短軸	(1.24・0.21)	断面形態	上端が広く開く「U」字状か	深さ	0.20
所見	遺物が検出されず、テフラ等も未検出なため遺構年代は不明。						
2号土坑	第13図	位置	調査区中央北壁	重複関係	2号土坑→3号住居跡→4号土坑	主軸	N-6° - E
平面形態	楕円形か	長軸・短軸	(1.11・0.61)	断面形態	上端が一段広く、ゆるやかに開く「U」状を呈する。	深さ	0.58
所見	遺物が検出されず、テフラ等も未検出なため遺構年代は不明。						
3号土坑	第13図	位置	調査区中央北側	重複関係	-	主軸	N-83° - E
平面形態	長方形	長軸・短軸	0.58・0.32	断面形態	「U」状を呈し、上端はややすぼまる	深さ	0.52
所見	遺物が検出されず、テフラ等も未検出なため時期は不明。						
4号土坑	第13図	位置	調査区中央北壁	重複関係	3号住居跡→2号土坑→4号土坑	主軸	N-45° - E
平面形態	円形状	長軸・短軸	0.52・0.50	断面形態	-	深さ	-
所見	埋設土から礫石とともに土師質土器皿(11)と羽釜(12)が出土する。						

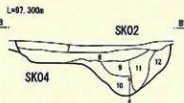
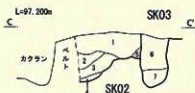
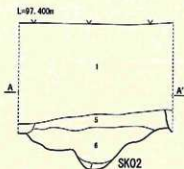
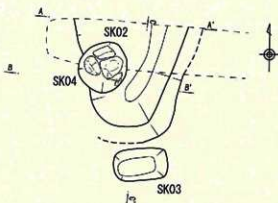
上和田遺跡



- 1号土坑(SPA-A')
 1 黒褐色 (10YR 3/1)
 2 黒褐色 (10YR 3/2)



- 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや少量, しまり強, 粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量, 粘土質の, しまり強, 粘性やや強。



北壁(SPA-A')

- 1
 2 黒褐色 (10YR 3/2)
 6 黒褐色 (10YR 3/2)
 7 暗褐色 (10YR 3/3)

遊成土, 椀び管, 鹿角など。
 軽石粒子少量, 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや少量, しまり強, 粘性弱。
 軽石粒子(φ3~5mm)少量, 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量, しまり強, 粘性やや強。
 黄褐色シルト少量, しまりやや強, 粘性やや強。

ベルト(SP中)

- 7 黒褐色 (10YR 3/1)
 8 黒褐色 (10YR 3/1)
 9 黒褐色 (10YR 3/2)
 10 黒褐色 (10YR 3/2)
 11 黒色 (10YR 2/1)
 12 に近い黄褐色 (10YR 4/3)

軽石沈渣子(φ2~3mm)やや多量, 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量, しまり強, 粘性弱。
 軽石沈渣子(φ2~3mm)少量, 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量, しまり強, 粘性弱。
 黄褐色シルト混在, 黄褐色シルト粒子(φ2~3mm)少量, しまり強, 粘性やや強。
 シルト質, 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量, しまり強, 粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量, しまり強, 粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)多量, しまり強, 粘性やや強。

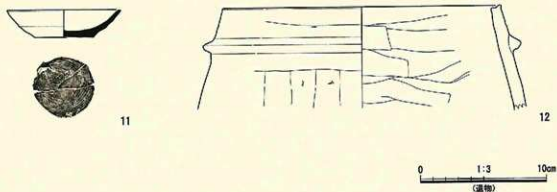
ベルト(SPG-C')

- 1 黒褐色 (10YR 3/2)
 2 黒褐色 (10YR 2/2)
 3 黒褐色 (10YR 2/2)
 4 黒褐色 (10YR 2/2)
 5 暗褐色 (10YR 3/2)
 6 黒色 (10YR 2/1)
 7 黒色 (10YR 2/1)

細かな軽石沈渣子(φ2~3mm)少量, 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量, しまり強, 粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量, しまり強, 粘性やや強, シルト質。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや少量, フロック少量, しまり強, 粘性やや強, シルト質。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量, しまりやや強, 粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量, しまり強, 粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量, フロック(φ5~10cm)やや少量, しまり強, 粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量, しまり強, 粘性やや強。



第13図 A区1~4号土坑 平面図・断面図

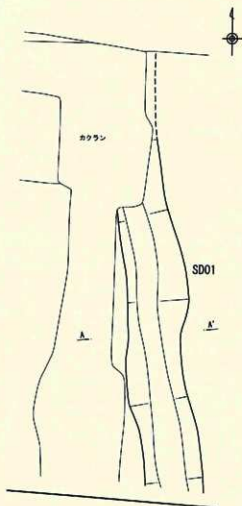


第14図 A区4号土坑 出土遺物図

第4表 A区4号土坑 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			成形・製作技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②胎土	②色調	残存	備考
				口径	底径	高さ					
第14図 PL. 8	AIK SK04 埋没土	11	土師貫土器 皿	9.0	4.6	2.2	ロクロ成形、底部回転成形、回転方向は右回転	①焼成 ②胎土	②5R 7/6 ③赤褐色	ほぼ完整	
第14図 PL. 8	AIK SK04 埋没土	12	羽釜	[22.2]	-	(8.4)	ロクロ成形、刷毛付、胴部外面縦ナデ、胴部内面横ナデ	①焼成 ②胎土	②7.5R 6/4に赤い粉 ③小赤、角閃石、白 色粒子	口縁部~胴部上位片 25%	

1号溝跡			
図版	第15図 / Pl. 2	位置	調査区東側
走行軸	概ねN - 11° - W	重複関係	-
確認長	約3.80	断面形態	U字状を呈すが上端が広く開く
幅	約0.60~0.68	深さ	約0.24
基底面	ほぼ平坦	遺物	指鉢(16)
所見	埋没土は黒褐色土に黄褐色シルトが混入する土であり、テフラ等は確認できないが、遺物から中世以降の年代に帰属すると想定する		



1号溝 (SP4-A')

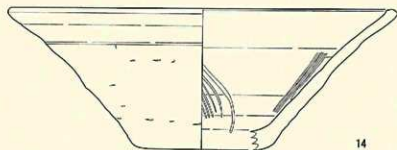
- 1 黒褐色 (10YR 3/1)
- 2 灰黒褐色 (10YR 4/2)
- 3 黒褐色 (10YR 3/2)
- 4 黒褐色 (10YR 3/2)
- 5 黒褐色 (10YR 3/2)

A-A'断面、黄褐色シルト砂か、しまり強、粘性やや強。
 黄褐色シルトブロック(φ3~5cm)多量、しまり強のて丸、粘性弱。
 黄褐色シルト砂子(φ3~5mm)やや多量、しまりやや強、粘性やや強。
 黄褐色シルト砂子(φ3~5mm)多量、しまり強のて丸、粘性やや強。
 黄褐色シルト砂子(φ2~3mm)少量、しまり強、粘性やや強。



0 1:40 1m
 (平面図・断面図)

第15図 A区1号溝 平面図・断面図



0 1:3 10cm
 (遺物)

14

第16図 A区1号溝 出土遺物図

第5表 A区1号溝 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	寸法(cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①構成 ②土質	③色調	残存	備考
				口径	底径	高さ					
第18区 IV. 8	A区 SD01 埋没土	14	鉢鉢	30.8	[11.0]	11.2	コクコ整形、内面滑目5~6本	①27.5YR 6/3 に近い ②黒色砂子、白色 砂子	③緑部~灰 部片 40%		

ビット1	第17回	位置	調査区西側北壁	重複関係	3号住居跡→ ビット1	長軸・短軸	0.5・0.42
平面形態	不整形円形	断面形態	「U」状で底面に凹凸あり	時期		深さ	0.14
ビット2	第17回	位置	調査区東側北壁	重複関係	—	長軸・短軸	0.24・0.23
平面形態	円形	断面形態	「U」状を呈す	時期		深さ	0.18
ビット3	第17回	位置	調査区東側北	重複関係	—	長軸・短軸	0.38・0.30
平面形態	不整形円形	断面形態	底面に激しい凹凸あり	時期		深さ	0.16
ビット4	第17回	位置	調査区東側北	重複関係	—	長軸・短軸	0.34・0.16
平面形態	不明	断面形態	底面に凹凸あり	時期		深さ	0.2
ビット5	第17回	位置	調査区北側東端	重複関係	1号土坑→ ビット5	長軸・短軸	0.30・0.24
平面形態	不整形円形	断面形態	「U」状を呈し、底面は平坦	時期		深さ	0.11
ビット6	第17回	位置	調査区中央南側	重複関係	—	長軸・短軸	0.36・0.14
平面形態	不整形円形	断面形態	「U」状を呈す、底面は東側に若干落ち込む	時期		深さ	0.3
ビット7	第17回	位置	調査区中央南側	重複関係	—	長軸・短軸	0.46・0.40
平面形態	不整形円形	断面形態	「U」状を呈す	時期		深さ	0.12
ビット8	第17回	位置	調査区中央南側	重複関係	—	長軸・短軸	0.26・0.24
平面形態	円形状	断面形態	「U」状を呈す	時期		深さ	0.25
ビット9	第17回	位置	調査区中央南側	重複関係	—	長軸・短軸	0.28・0.26
平面形態	円形状	断面形態	「V」状を呈す、底面に10cm程度の石を検出	時期		深さ	0.1
ビット10	第17回	位置	調査区中央南側	重複関係	—	長軸・短軸	0.41・0.20
平面形態	楕円形状	断面形態	「U」状を呈す、東側の底面が一層落ち込む	時期		深さ	0.28
ビット11	第17回	位置	調査区中央北側	重複関係	—	長軸・短軸	0.24・0.22
平面形態	円形状	断面形態	「U」状を呈す	時期		深さ	0.2
ビット12	第17回	位置	調査区中央北側	重複関係	—	長軸・短軸	0.28・0.24
平面形態	不明	断面形態	「V」状を呈す	時期		深さ	0.1
ビット13	第17回	位置	調査区中央北側	重複関係	—	長軸・短軸	0.28・0.27
平面形態	円形状	断面形態	「V」状を呈す	時期		深さ	0.04
ビット14	第17回	位置	調査区中央北側	重複関係	—	長軸・短軸	0.30・0.24
平面形態	不整形円形	断面形態	不明	時期		深さ	不明

Pit01



Pit02



Pit03



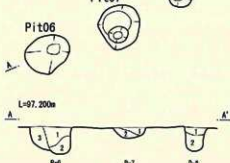
Pit04



Pit05



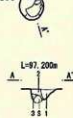
Pit06



Pit08



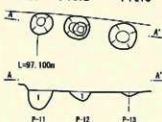
Pit09



Pit10



Pit11



Pit12



Pit13



Pit14



ビット1(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 3/1)
- 2 黒褐色 (10YR 3/2)
- 3 黒褐色 (10YR 3/2)

ビット2(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 3/2)
- 2 黒色 (10YR 2/1)
- 3 黒色 (10YR 4/4)

ビット3(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 3/1)

ビット4(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 2/2)
- 2 黒褐色 (10YR 2/2)
- 3 黒褐色 (10YR 2/2)
- 4 黒褐色 (10YR 3/2)

ビット5(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 2/2)

ビット6(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 3/2)
- 2 黒色 (10YR 2/1)
- 3 黒色 (10YR 2/1)

黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。炭化物少量。しまり強、粘性強。
黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。しまり強、粘性強。
黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。焼土層が、しまり強、粘性やや強。

黄褐色シルト(φ3~5mm)多量。焼土少量。しまり強、粘性やや強。
黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。
黄褐色シルト主体。しまりやや強、粘性やや強。

黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。炭土少量。炭化物少量。しまり極めて強。粘性弱。

黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。しまり強、粘性弱。
黄褐色シルト(φ3~5mm)少量。しまり強、粘性弱。
黄褐色シルト(φ3~5mm)少量。しまりやや強、粘性弱。
黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。しまりやや強、粘性やや強。

黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多い。しまり強、粘性やや強。

黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。
黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。しまり極めて強。粘性やや強。
黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。ブロック(φ3~5mm)やや多量。しまり極めて強。粘性弱。

ビット7(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 3/2)
- 2 黒色 (10YR 2/1)

ビット8(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 3/1)
- 2 黒色 (10YR 2/1)

ビット9(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 3/1)
- 2 黒褐色 (10YR 4/1)
- 3 明黄褐色 (10YR 6/6)

ビット10(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 3/1)
- 2 黒褐色 (10YR 3/1)
- 3 黒褐色 (10YR 3/1)
- 4 明黄褐色 (10YR 7/6)

ビット11(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 2/2)

ビット12(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 2/2)

ビット13(SPA-K)

- 1 黒褐色 (10YR 2/2)

黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。しまり極めて強。粘性やや強。
黄褐色シルト(φ3~5mm)やや少量。しまり強、粘性やや強。

黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。しまり強、粘性やや強。
黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。しまり強、粘性やや強。

黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。しまり強、粘性弱。
黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。焼土少量。しまり強、粘性弱。
黄褐色シルト主体。しまり強、粘性やや強。

黄褐色シルト(φ1~2mm)少量。しまり強、粘性弱。
黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。焼土少量。しまり強、粘性弱。
炭化物少量。しまり強、粘性やや強。
黄褐色シルト主体。しまりやや強、粘性やや強。

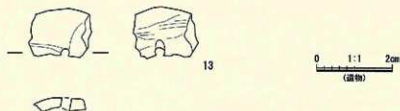
黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。しまり強、粘性弱。

黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。しまり強、粘性弱。

黄褐色シルト(φ3~5mm)やや少量。しまり強、粘性弱。

0 1:40 1m
(平面図・断面図)

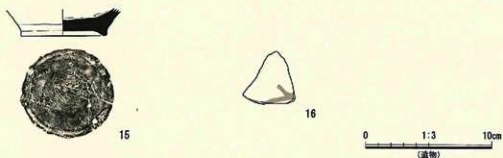
第17図 A区ビット1~14 平面図・断面図



第18図 A区ピット6 出土遺物図

第6表 A区ピット6 出土遺物観察表

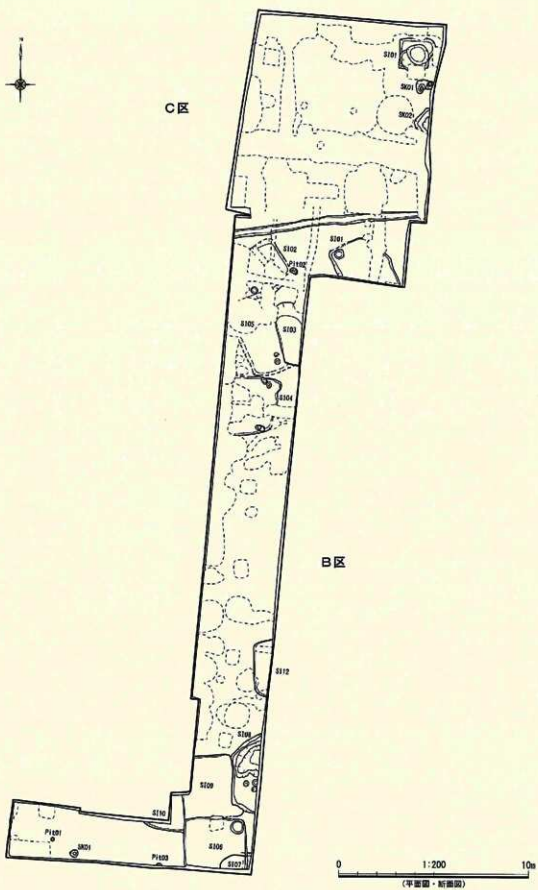
図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴 (①平面形跡 ②断面形跡 ③穿孔 ④色調)	残存	備考
				長さ	短径	厚み					
第18図 Pl. 8	A区 P14D6 埋込土	13	白玉 (不製品)	1.7	1.3	0.3	1.69	珪石	①長方形 ②扁平全長方形 ③0.23cmの片面穿孔跡 ④86 7/1 明緑灰色	2/3	



第19図 A区遺構外 出土遺物図

第7表 A区遺構外 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			成形・製技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①構成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第19図 Pl. 8	A区 遺構外	15	須恵器 弁	-	6.8	(2.1)	ほぼ器形、断面図線画切り後、高台駢 付、回転方向は不明	①薄灰色 ②RY 7/1 灰白 ③黒色粒子	底部 60%	
第19図 Pl. 8	A区 遺構外	16	須恵土器	-	-	(4.1)	内外面ナゲ、外面黒色温帯	①黒紅 ②BYR 6/6 段 ③白色粒子、褐色粒子	破片	

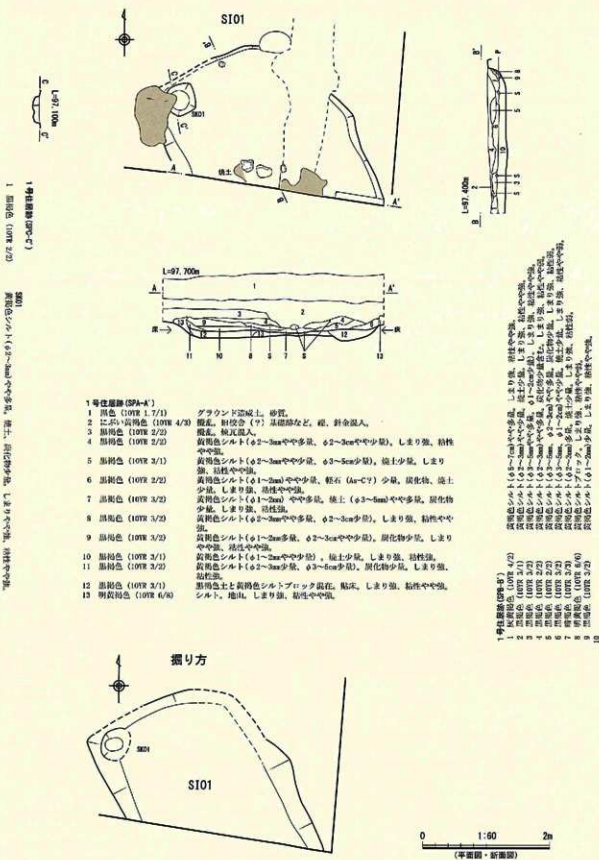


第20図 上和田遺跡 B区・C区全体図

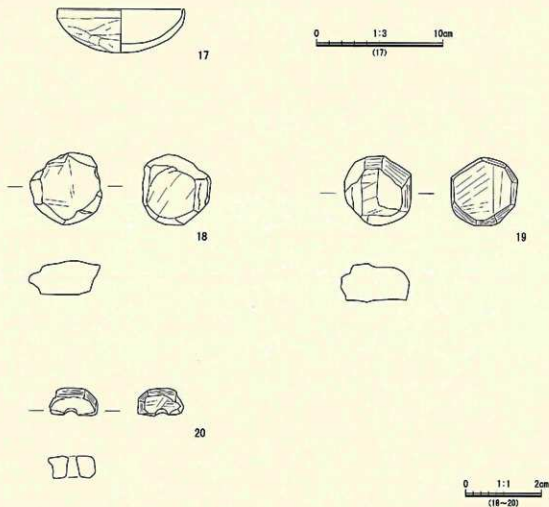
第2節 B区の遺構・遺物

B区は屋内運動場建て替えによる建物拡張範囲で調査面積は約200㎡である。B区は旧校舎等の既存建築物による擾乱が激しく、遺構の残存は良好ではないが、古墳～平安時代の竪穴住居跡11軒、土坑1基、溝1条、ピット3基を検出した。また、1号住居跡では多量の滑石の細片や5号・8号住居跡では拳大の滑石の原石が出土し、8号住居跡では穿孔された白玉未製品が出土した。なお、浅間山起源の火山噴出物(As-A、As-B、As-C)および榛名山起源の火山噴出物(Ilr-FA)の一次堆積層はいずれも確認できなかった。

1号住居跡						
図版	第21図 / PL.3			重複関係	-	主軸 N-28°-W
規模	平面形態	長方形	位置	調査区北側東	位置	-
	長軸・短軸	(2.55・1.84)	深さ	0.2	窺	焚口幅・奥行
床面	黄褐色ブロックを含む黒褐色土の粘床			埋没土	黒褐色土で黄褐色シルトや炭化物、焼土が少量混入	
柱穴	-			掘り方	黄褐色ローム層まで掘り込む、底面はほぼ平坦	
内部施設	北西隅に土坑状掘り込み(1号土坑)を確認、平面形は不整形、径0.65×0.45m、深さ0.1m					
所見・出土遺物	埋没土や床面近くから滑石の細かな削り屑や白玉の未製品が出土。床面直上からは土師器坏(17)が出土し、その特徴から古墳時代終末期に帰属すると想定する。					



第21図 B区1号住居跡 平面図・断面図



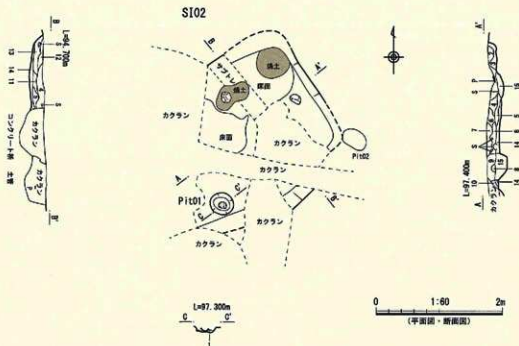
第22図 B区1号住居跡 出土遺物図

第8表 B区1号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			成形・装飾技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②胎土	③色調	残存	備考
				口径	高さ	器高					
第22図 Pl. 8	B区 S101 床面直上	17	土師器 埴	10.2	-	3.5	外側：口縁部上半横ナゲ。下半上縁は無割 整か、下縁から底縁は不定方向へラケズリ 内面：横ナゲ	①良好	②S101 6/5 色	ほぼ完形	丸底

図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴				残存	備考
				幅	高さ	厚み			①平面形態	②断面形態	③穿孔	④色調		
第22図 Pl. 8	B区 S101 埋没土	18	白土 (未製品)	1.9	1.9	0.9	5.21	滑石	①角ばった四角形	②やや短い長方形	③未穿孔	④2.60Y 7/1 明オリーブ灰色	ほぼ完形	
第22図 Pl. 8	B区 S101 埋没土	19	白土 (未製品)	1.8	1.8	1.0	5.63	滑石	①四角形	②やや短い台形	③未穿孔	④2.60Y 7/1 明オリーブ灰色	ほぼ完形	
第22図 Pl. 8	B区 S101 埋没土	20	白土 (未製品)	1.3	0.7	0.6	1.01	滑石	①半円形	②扁平な長方形	③径0.4cmの片面穿 孔あり	④2.60Y 7/1 明オリーブ灰色	1/2	

2号住居跡		第23図 / PL. 3			重複関係	-	主軸	N-32°-W
規模	平面形態	方形状か	位置	調査区北側中央	■	北東隅に焼土・炭化物が集中的に見られたが、詳細は不明		
	長軸・短軸	(2.1・1.3)	深さ	0.15				
床面	黄褐色土ブロックを含む黒褐色土				埋没土	黒褐色基調で黄褐色シルトや焼土・炭化物が混入		
柱穴	-				掘り方	黄褐色ローム層まで掘り込む、底面は細かな凹凸あり		
内部施設	南壁西部にピットを1基検出、径0.4×0.35、深さ0.1m、須恵器坪が1点出土。							
所見・出土遺物	擾乱による損失を大きく受けている。床面直上から須恵器坪(21・22)、須恵器皿(23)が出土する。床面出土遺物の特徴から遺構の年代は9~10世紀代に帰属すると想定する。							



2号住居跡 (2PA-A、B-F 共通)

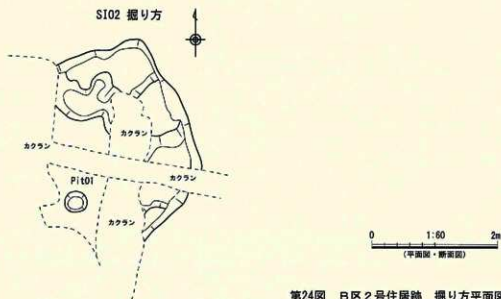
- 1 黒褐色 (10TR 2/2) 擾乱、土層。
- 2 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ3~8mm)やや多量、焼土少量、しまり強、粘性やや弱。
- 3 に近い黄褐色 (10TR 4/3) 黄褐色シルト(φ2~7mm)多量、焼土やや少量、しまり強、粘性弱。
- 4 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量、しまり強、粘性やや弱。
- 5 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ2~3cm)やや多量、しまり強、粘性やや弱。
- 6 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ1~2cm)少量、しまり強、粘性弱。
- 7 黒褐色 (10TR 3/2) 黄褐色シルト(φ3~8mm)少量、炭化物、焼土少量、しまり強、粘性弱。
- 8 黒色 (10TR 2/1) 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量、しまり強、粘性弱。
- 9 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ2~3cm)やや多量、白色軽石状粒子(φ2~3mm)やや多量、炭化物、焼土少量、しまり強、粘性弱。
- 10 に近い黄褐色 (10TR 5/4) 地山、黄褐色シルト。しまり強、粘性やや弱。
- 11 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ2~3mm)多量、焼土(φ1~2cm)多量、炭化物あり、しまり強、粘性やや弱。
- 12 に近い黄褐色 (10TR 4/3) 黄褐色シルト(φ2~8mm)多量、焼土、炭化物少量、しまり強、粘性弱。
- 13 暗褐色 (10TR 3/2) 黄褐色シルト(φ2~3mm、φ2~3cm)やや多量、焼土少量、しまり強、粘性やや弱。
- 14 黒褐色 (10TR 3/2) 地山土?
- 15 擾乱(土層)。

2号住居跡 (2PC-C)

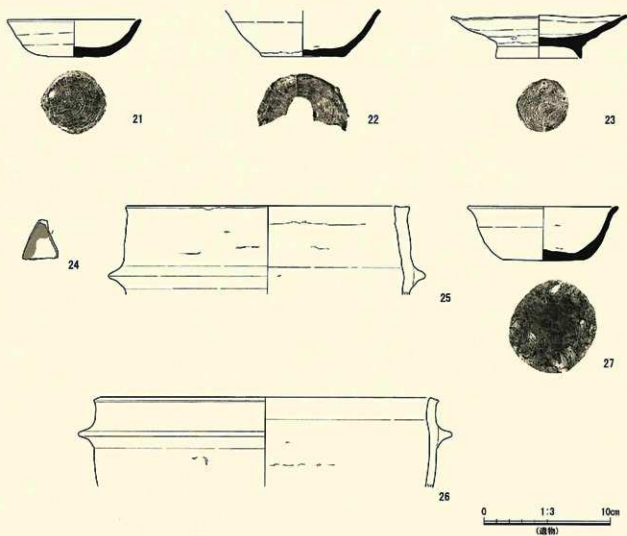
Pit01

- 1 黒褐色 (10TR 3/2) 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量、ブロック(φ2~3cm)やや少量、しまりやや強、粘性やや弱。

第23図 B区2号住居跡 平面図・断面図



第24図 B区2号住居跡 掘り方平面図

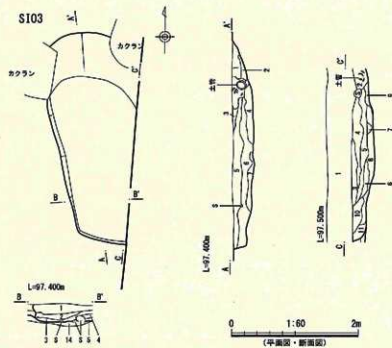


第25図 B区2号住居跡 出土遺物図

第9表 B区2号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類	法量 (cm)			成形・成形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①構成 ②粘土	②色調	残存	備考
				口径	口径	器高					
第25図 Pl. 8	B区 S102 床面直上	21	須恵器 杯	10.6	4.3	2.9	ロクロ成形、底部回転余切り、回転方向は不明	①還元焼 ②7.5Y 8/1 灰白 ③角閃石、砂粒	80%		
第25図 Pl. 8	B区 S102 床面直上	22	須恵器 杯	[12.3]	[6.6]	3.8	ロクロ成形、底部回転余切り、回転方向は右回転か	①還元焼 ②N 6/0 灰 ③赤色粒子	口縁～底部 25%		
第25図 Pl. 9	B区 S102 床面直上	23	須恵器 蓋	14.1	6.8	3.4	ロクロ成形、底部回転余切り後高台貼付、 回転方向は不明	①還元焼 ②7.5Y 8/1 灰白 ③角閃石	ほぼ完形		
第25図 Pl. 9	B区 S102 埋没土	24	土師器 杯?	-	-	(3.1)	外面：ヘラケズリ後、赤彩 内面：ナデか	①良好 ②10R 7/4 にふい、黄粒 ③角閃石	破片		
第26図 Pl. 9	B区 S102 埋没土	25	羽釜	[22.6]	-	(7.0)	ロクロ成形、脚貼付、口唇部面取り 胴部 に輪線が残る	①還元焼 ②2.5Y 8/2 灰白 ③角閃石、砂粒	口縁～胴部 破片		
第26図 Pl. 9	B区 S102 埋没土	26	羽釜	[26.0]	-	(7.3)	ロクロ成形、脚貼付、口唇部面取り	①還元焼 ②2.5YR 6/2 灰白 ③角閃石、 砂粒、白色粒子	口縁～胴部 破片		
第26図 Pl. 9	B区 S102 Pl102	27	須恵器 杯	10.0	6.4	4.3	ロクロ成形、底部回転余切り、回転方向は 右回転か	①還元焼 ②7.5YR 6/3 にふい、角 閃石、砂色粒子	ほぼ完形		

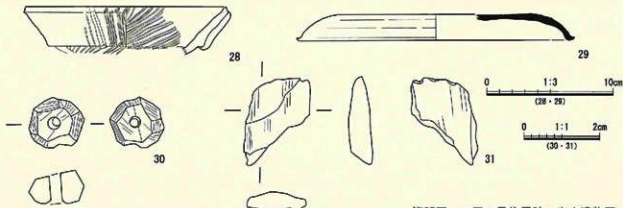
3号住居跡		第26図 / Pl. 1			重複関係	5号住居跡→ 3号住居跡	主軸	N-13°-E
規模	平面形態	不明	位置	調査区北側東壁	電	調査範囲が限られ、カマドの有無や構造等は不明		
	長軸・短軸	2.65・1.36	深さ	0.3				
床面	明瞭な硬化面や貼床面は検出できず				埋没土	粘性の暗褐色土で黄褐色シルトや白色粒子を含む		
柱穴	-				内部施設	-		
掘り方	黄褐色ローム層まで掘り込む、底面は北側に向かってゆるやかに落ち込む							
所見・出土遺物	遺物は全体的に少なく、埋没土から須恵器蓋(29)や白玉の未製品(30)や滑石片(31)が出土する。							



- 3号住居跡(SP9-B)
- 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ1~3mm, φ5~10mm)やや多量, 軽石(φ1~5mm, 8~10cm)やや多量, しまり強, 粘性やや弱。
 - 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ1~3mm)少量, 軽石(φ1~2mm)少量, しまりやや強, 粘性やや弱。
 - 暗褐色 (10TR 3/3) 黄褐色シルト(φ1~4mm)やや少, 軽石(φ1~3mm)少量, しまりやや強, 粘性やや弱。
 - 黒色 (10TR 2/1) 黄褐色シルト(φ1~3mm)少量, 軽石(φ1~2mm)少量, しまりやや強, 粘性弱。
 - 暗褐色 (10TR 3/2) 赤山を少し含む, しまりやや強, 粘性強, 張り強, 新褐色シルト(φ3~5mm)やや多量, φ3~5cm)やや少量, しまり強, 粘性やや弱。
 - 黒褐色 (10TR 3/2)

- 3号住居跡(SP9-C)
- 暗褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ3~7mm)やや多量, 赤石(φ1~5mm)やや少量, しまり強, 粘性やや強。
 - 暗褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ5~10mm)少量, 赤石(φ1~3mm)少量, しまり強, 粘性やや強。
 - 赤土・黄褐色 (10TR 2/2) 赤土・黄褐色シルト(φ1~3mm)少量, しまり強, 粘性やや強。
 - 暗褐色 (10TR 2/4) 黄褐色シルト(φ1~3mm)少量, 赤石(φ1~2mm)少量, しまり強, 粘性やや強。
 - 暗褐色 (10TR 4/4) 黄褐色シルト(φ3~7mm)少量, 赤石(φ1~2mm)少量, しまりやや強, 粘性やや強。
 - 暗褐色 (10TR 3/4) 黄褐色シルト(φ3~7mm)少量, 赤石(φ1~2mm)少量, しまりやや強, 粘性やや強。
- 3号住居跡(SP9-C')
- 黒褐色 (10TR 2/2) As-C土 (○)・黄褐色シルト(φ2~6mm)やや少量, しまり強, 粘性強。
 - 黒褐色 (10TR 2/2) As-C土 (○)・黄褐色シルト(φ3~6mm)やや少量, しまり強, 粘性強。
 - 黒褐色 (10TR 2/2) As-C土 (○)・黄褐色シルト(φ2~6mm)少量, しまり強, 粘性強。
 - 黒褐色 (10TR 2/1) 黄褐色シルト(φ1~2mm)少量, しまり強, 粘性強。
 - 黒褐色 (10TR 2/1) 黄褐色シルト(φ1~2mm)少量, しまり強, 粘性強。
 - 暗褐色 (10TR 4/0) 黄褐色シルト(φ3~5mm)多量, φ3~5cm)やや多量, しまり強, 粘性やや強。
 - 暗褐色 (10TR 4/0) 黄褐色シルト(φ3~5mm)多量, φ3~5cm)やや多量, しまり強, 粘性やや強。
 - 暗褐色 (10TR 2/2) As-C土 (○)・黄褐色シルト(φ2~6mm)少量, しまり強, 粘性やや強。

第26図 B区3号住居跡 平面図・断面図

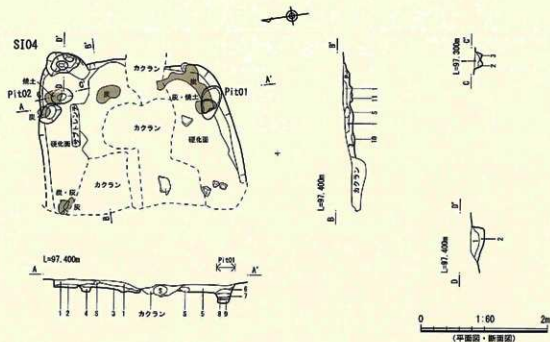


第27図 B区3号住居跡 出土遺物図

第10表 B区3号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			成形・整形技法の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調	残存	備考			
				口径	底径	高さ							
第27図 PL. 9	B区 S103 埋設土	28	土師器 壺	[10.0]	-	(3.8)	外面：口縁部はヘラケズリ後、縁部部製作、底方向ミガキ、側面は縁部部製作。上部はヘラケズリ後、左下方ミガキ。内面：ヘラケズリ後、左下方のミガキ。	①良好 ②STR 7/6 ③褐色乾子、砂粒	口縁部~口 部上端 破片				
第27図 PL. 9	B区 S103 埋設土	29	灰土器 壺	22.0	-	2.1	ロク口型形 内面ナデ、外面自然袖付着	①良好 ②ST7.0 灰白 ③褐色乾子	作部~口部 部 30%				
図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法の特徴			残存	備考
				長径	短径	厚み			①平面形 ②丸孔 ③断面形	④穿孔	⑤色調		
第27図 PL. 9	B区 S103 埋設土	30	白土 (木製品)	1.4	1.3	0.9	2.82	滑石	①角ばった四角 の穿孔部 ②90° 7/1	②やや短い 四角形 ③部0.25cm 以上 ④オリーブ 灰色	13.8%	角形	
第27図 PL. 9	B区 S103 埋設土	31	剥片	2.0	1.6	0.6	2.98	得石	①不整多角形 ②160° 8/1	②不整三角 形 ③明緑灰色		破片	

4号住居跡		図版	第28図 / Pl. 4	柱穴	—	重複関係	—	主軸	N-3°-W
規模	平面形態	方形か	位置	調査区北側中央	堀	位置	北東隅	焚口幅・奥行	—
	長軸・短軸	2.3・1.93	深さ	—		所見	焼土や灰を集中的に含む硬化面だが、構造は不明瞭		
床面	明確な硬化面や貼床面は検出できず				埋没土	しまりの強い黒褐色土に黄褐色シルトを多く含む			
掘り方	黄褐色ロームまで掘り込む、底面は凹凸が激しく大小の円形、不定形の掘り込みが一面に見られる								
内部施設	南壁でピット1、北壁にてピット2を検出。ピット1は径0.25・0.20m、深さ0.16m、ピット2は径0.34・0.25cmで深さ0.10m								
所見・出土遺物	床面から土師質土器皿(32)、埋没土から土師質土器皿(33)や坏(34)等が出土。遺物の特徴から造脩の年代を11世紀代と想定する								



4号住居跡(SPA-A', B-B' 共通)

- 1 黒褐色 (10TR 2/3) 黄褐色シルト(φ2~3m)やや少量。炭化物、焼土少量。しまり強、粘性やや弱。
- 2 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ3~5m)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
- 3 黒褐色 (10TR 3/2) 黄褐色シルト(φ3~5m)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
- 4 にがい黄褐色 (10TR 7/6) 黄褐色シルト主体。堆土、しまり強、粘性やや弱。
- 5 黒褐色 (10TR 3/2) 黄褐色シルト(φ2~3m)やや多量。炭化物、焼土やや多量。しまり強、粘性弱。
- 6 黒色 (10TR 2/1) 黄褐色シルト(φ2~3m)少量。炭化物、灰土堆。しまり強、粘性やや弱。
- 7 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ2~3m)やや多量。φ5~7cm少量。焼土(φ5~7cm)少量。しまり強、粘性弱。
- 8 黒褐色 (10TR 3/1) 黄褐色シルト(φ1~2m)やや多量。しまり強、粘性やや弱。
- 9 黄褐色 (10TR 6/8) 黄褐色シルト主体+黒色土面存。しまりやや強、粘性強。
- 10 黒褐色 (10TR 3/2) 黄褐色シルト主体+黒色土面存。しまり強、粘性やや弱。
- 11 黒色 (10TR 2/1) 黄褐色シルト(φ2~3m)やや少量。炭化物多量。しまりやや強、粘性やや弱。

4号住居跡(SPC-C')

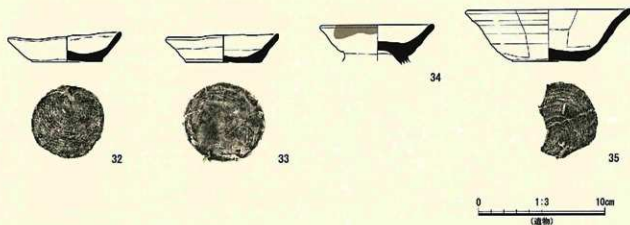
Pit02

- 1 黒褐色 (10TR 2/3) 焼土(φ2~3cm)多量。φ1~2cmやや多量。炭化物少量。しまり強、粘性弱。
- 2 黄褐色 (10TR 8/4) シルトブロック。しまり強、粘性やや強。
- 3 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ2~3m)やや多量。焼土堆た。しまり強、粘性やや強。

4号住居跡(SPD-D')

- 1 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ1~2cm)少量。焼土多量。灰含む。しまり強、粘性弱。
- 2 黒褐色 (10TR 2/2) 黄褐色シルト(φ1~2cm)やや少量。しまり強、粘性弱。

第28図 B区4号住居跡 平面図・断面図



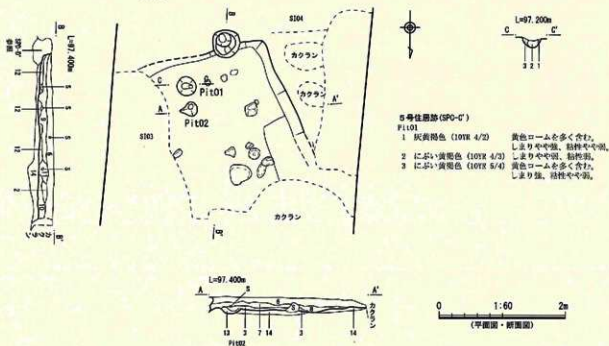
第29図 B区4号住居跡 出土遺物図

第11表 B区4号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①構成 ②土質	残存	備考
				口径	底径	器高				
第29図 PL. 9	B区 S104 床面近接	32	土師質土器 皿	9.0	5.5	2.3	ロクロ整形、底部回転糸切り、回転方向は不明	①酸化層 ②7.5YR 8/4 灰黄色、③内肉石、砂粒、棕色灰子	ほぼ完形	摩耗が激しい
第29図 PL. 9	B区 S104 埋没土	33	土師質土器 皿	8.9	6.0	2.2	ロクロ整形、底部回転糸切り、右回転	①酸化層 ②7.5YR 8/3 灰黄色 ③棕色粒	75%	
第29図 PL. 9	B区 S104 埋没土	34	須恵器 埴	9.0	-	(3.1)	ロクロ整形、底部ナブ割製か、高台貼付 内面・外面ともに成付着	①酸化層 ②10YR 8/2 灰黄色 ③内肉石、棕色粒	口縁～底部 80%	
第29図 PL. 9	B区 S104 埋没土	35	須恵器 埴	[11.2]	8.8	4.1	ロクロ整形、底部回転糸切り、回転方向は右回転か	①酸化層 ②7.5YR 8/3 灰黄色 ③内肉石、棕色灰子	口縁～底部 30%	

5号住居跡		第30・31図 / PL. 4				重複関係	5号住居跡→ 3号住居跡	主軸	N-25°-W	
規模	平面形態	方形状か	位置	調査区北側中央		層	位置	南壁	焚口幅・奥行	-
	長軸・短軸	(2.50・2.10)	深さ	(2.50・2.10)			所見	硬化面で灰等が集中するが、構造等是不明瞭		
床面	黄褐色シルトをブロック状に含む黒褐色土で粘性のやや強い粘床					埋没土	黄褐色シルトや白色粒子を含む暗褐色土			
掘り方	黄褐色ロームまで掘り込む、底面はほぼ平坦だが、北壁付近に一段深い桁形形の掘り込みが見られる									
内部施設	南壁でビット1、その北側にてビット2を検出。ビット1は円形、径0.3×0.3、深さ0.11m。ビット2は不整形円形、径0.26×0.20、深さ0.15m									
所見・出土遺物	床面にて土師器埴(36)、埋没土中から土師質土器皿(37・38)、須恵器埴(39)とともに土師器高坏(40)が出土する。なお、床下面より台付甕(42)、S字甕(43)、滑石の原石(44)が出土する。									

S105



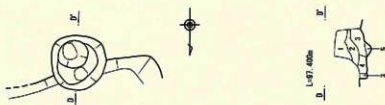
5号住居跡 (SP0-C')

Pit 101

- 1 灰黄褐色 (10YR 4/2) 黄色ロームを多く含む、しまりや中強、粘性や中弱、
- 2 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) しまりや中弱、粘性弱、
- 3 にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 黄色ロームを多く含む、しまり強、粘性や中弱、

5号住居跡 (SPA-A', B-B' 共通)

- 2 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト(φ1~2mm)少量、軽石(φ1~2mm)少量、しまりや中強、粘性や中強、
- 3 暗褐色 (10YR 3/3) 黄褐色シルト(φ1~5mm)やや少量、軽石(φ1~2mm)少量、しまりや中強、粘性や中強、
- 5 暗褐色 (10YR 3/3) 黄褐色シルト、軽石を少し含む、しまりや中弱、粘性強、
- 6 にぶい黄褐色 (10YR 4/2) 黄褐色シルト(φ1~5mm)やや多量、軽石(φ1~2mm)やや多量、しまり強、粘性弱、
- 7 暗褐色 (10YR 3/3) 黄褐色シルト(φ1~5mm)やや少量、軽石(φ1~2mm)やや少量、しまりや中強、粘性や中弱、
- 8 褐色 (10YR 4/4) 黄褐色シルト(φ1~2mm)やや少量、軽石(φ1~2mm)やや少量、しまり強、粘性や中弱、
- 9 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 黄褐色シルト(φ1~2mm)やや少量、軽石(φ1~2mm)やや少量、しまり強、粘性弱、ロームのブロック(φ2~5cm)を少し含む、
- 10 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト(φ1~2mm)殆ど無し、軽石(φ1~2mm)少量、しまりや中強、粘性や中弱、
- 11 暗褐色 (10YR 3/4) 黄褐色シルト(φ1~2mm)少量、軽石(φ1~2mm)少量、しまり強、粘性や中弱、
- 12 褐色 (10YR 4/4) 黄褐色シルト(φ1~2mm)殆ど無し、軽石(φ1~2mm)少量、しまりや中強、粘性や中弱、ロームのブロック(φ3~5cm)を少し含む、
- 13 にぶい黄褐色 (10YR 5/3) 黄褐色シルト(φ1~2mm)少量、軽石殆ど無し、黄色ロームを多く含む、しまりや中弱、粘性や中強、
- 14 黒褐色 (10YR 2/2) 黒り方、黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量、φ3~5mmやや少量、しまり強、粘性や中強、



5号住居跡 (SP0-D')

- 1 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量、しまり強、粘性弱、
- 2 褐色 (10YR 2/3) 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量、炭化物少量、しまり強、粘性弱、
- 3 褐色 (10YR 2/3) 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量、炭化物やや少量、植土少量、しまり強、粘性弱、
- 4 暗褐色 (10YR 4/1) 深灰中強、しまり弱、粘性弱、
- 5 黒褐色 (10YR 3/1) 黄褐色シルト(φ1~2mm)少量、しまりや中強、粘性や中弱、

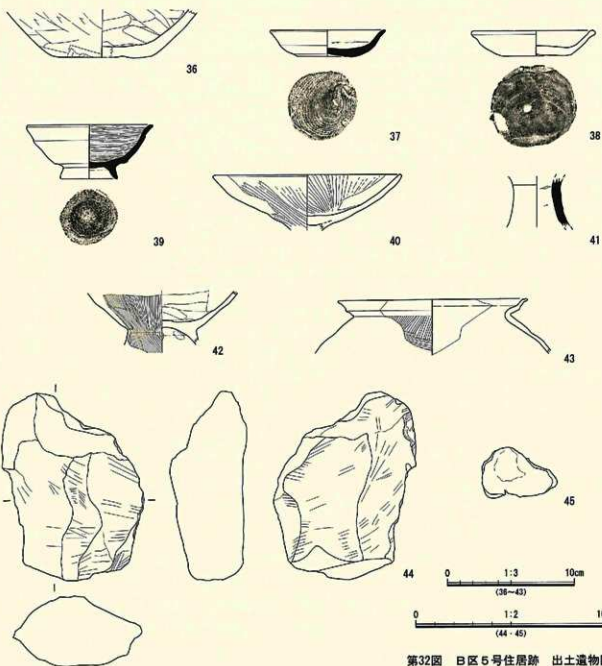
0 1:30 1m
(カマド 平面図・断面図)

第30図 B区5号住居跡 平面図・断面図

S105 掘り方



第31図 B区5号住居跡 掘り方平面図



第32図 B区5号住居跡 出土遺物図

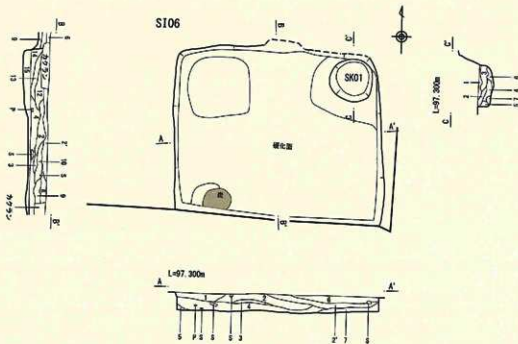
第12表 B区5号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	埋没層	法量(m)			成形・成形技法等の特徴 (彫形・文様の特徴)	①構成 ②色調	残存	備考
				口径	底径	器高				
第32図 PL. 9	B区 S105 床面直上	36	土師器 土甕	-	[7.6]	(3.9)	内外面ともにヘラケズリ	①黒紅 ②7.5YR 6/3 にぶい色 ③褐色粒 子、白色粒子	胴部下半～ 底面 破片	
第32図 PL. 9	B区 S105 埋没土	37	土師器 土甕	9.1	4.9	2.2	口テロ整形、底部回転糸切り、胴筋方向は 右側旋	①酸化塩 ②7.5YR 6/6 橙 ③角閃石、砂 粒、白色粒子	ほぼ完形	
第32図 PL. 9	B区 S105 埋没土	38	土師器 土甕	9.8	5.6	2.0	口テロ整形、底部回転糸切り、胴筋方向は 不明	①酸化塩 ②7.5YR 8/2 灰白 ③褐色粒子、橙 色粒子	口縁～底部 70%	原料が微 しい
第32図 PL. 9	B区 S105 埋没土	39	土師器 土甕	10.0	-	4.3	口テロ整形、底部回転ナゲ、高台繫付か、 内面黒色染羽、口縁～底部に横方向の研磨	①酸化塩 ②7.5YR 7/6 橙 ③砂粒	50%	
第32図 PL. 9	B区 S105 埋没土	40	土師器 高坏	[15.0]	-	4.4	外面：ヘラケズリ後、縦方向のミガキか 内面：ナゲ後、縦方向のミガキ	①黒紅 ②7.5YR 7/4 にぶい橙 ③微細砂粒	片部 破片	原料が著 しく、不 明形
第32図 PL. 10	B区 S106 埋没土	41	土師器 高坏	-	-	(3.9)	口テロ整形	①黒紅 ②5Y 7/1 灰 白 ③褐色粒子、橙 色粒子	胴部 破片	
第32図 PL. 10	B区 S105 埋没土	42	付付壳	-	[5.2]	-	外面：胴部下半縦方向のハケメ調整後、胴 部下半～中部直上ナゲハケメ 内面：胴部下半ヘラケズリ、底部未調整か、 ナゲナゲ	①黒紅 ②8.5YR 6/3 にぶい赤褐色 ③白色粒 子、黒色粒子	胴部下半～ 中部 破片	
第32図 PL. 10	B区 S105 床下	43	S中環	[15.0]	-	4.4	外：胴部上半に縦方向のハケメ調整後、横 方向のハケメ 二次焼成の痕跡あり	①黒紅 ②10YR 4/1 黒褐色 ③角閃石、白色 粒子	口縁部 破片	

図版	出土地	番号	埋没層	法量(m)			重量 (g)	石材	成形技法等の特徴 ①平面形態 ②断面形態 ③穿孔 ④色調	残存	備考
				長さ	短径	厚み					
第32図 PL. 10	B区 S106 床下	44	滑石	10.1	6.5	2.5	294.73	滑石	①本底多角形 ②断面台形 ③5Y 7/1 明オリーブ 灰色	原石か	

図版	出土地	番号	埋没層	法量(m)			重量 (g)	材質	成形技法等の特徴	残存	備考
				長さ	短軸	厚み					
第32図 PL. 10	B区 S106 埋没土	45	金属製品	5.9	3.5	2.2	55.10	鉄	鉄製品の一部と考えられるが詳細は不明	破片	

6号住居跡		第33図 / PL. 4				重複関係	7号→6号住居跡、10号→9号→6号住居跡	主軸	N-92°-E
規模	平面形態	方形状か	位置	調査区南端		竪	調査範囲に限られ、カマドの有無や構造等は不明		
	長軸・短軸	3.32 × (2.70)	深さ	0.3					
床面	黄褐色シルトを多く含む黒褐色土で硬化を 確認					柱穴	-		
埋没土	しまりの強い黒褐色土で黄褐色シルトが混ざる。上層では小礫も混入し、全体的に焼土が少量混入								
掘り方	黄褐色ロームまで掘り込む、北西隅に土坑状の掘り込みが見られる。								
内部施設	北東隅の床面に1号土坑を確認。円形で径0.55×0.50、深さ0.23m、貯蔵穴か。								
所見・出土遺物	床面直上で土師質土器皿(46)が出土。6号住居と9号住居のカマドの境で埋没土中にて赤色ガラス玉(49)が出土。遺物の特徴から遺構の年代を9世紀後半以降と想定する。								



6号住居跡(SPA-A、B-B 共通)

- 1 暗褐色 (10YR 3/2)
- 2 黒褐色 (10YR 2/2)
- 2' 黒と近縁の色相。
- 3 黒褐色 (10YR 3/2)
- 4 黒褐色 (10YR 3/2)
- 5 黒褐色 (10YR 3/1)
- 6 黒褐色 (10YR 3/2)
- 7 黒褐色 (10YR 2/3)
- 8 黒褐色 (10YR 2/2)
- 9 黒褐色 (10YR 3/2)
- 10 黒褐色 (10YR 2/2)
- 12 暗褐色 (10YR 3/3)
- 13 黒褐色 (10YR 3/2)
- 14 灰黄褐色 (10YR 4/2)
- 15 黒褐色 (10YR 3/2)

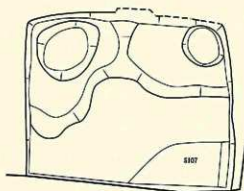
黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量。礫石(φ2~3mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。礫石(φ3~5mm)やや多量。硬少量。しまり強、粘性弱。
 2層と近縁の色相。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)多量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量。φ1~2cmやや多量。しまり強、粘性やや弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。三角堆積。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。φ2~3cmやや多量。礫石(φ2~3mm)やや多量。炭化物少量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量)。粘土少量。しまり強、粘性やや弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量)。粘土少量。しまり強、粘性やや弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量。φ1~2cm少量)。粘土少量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)多量。φ1~2cmやや少量)。硬含む。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)多量。粘土少量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)多量)。粘土少量。しまり強、粘性やや弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量)。しまり強、粘性弱。

6号住居跡(90°C)

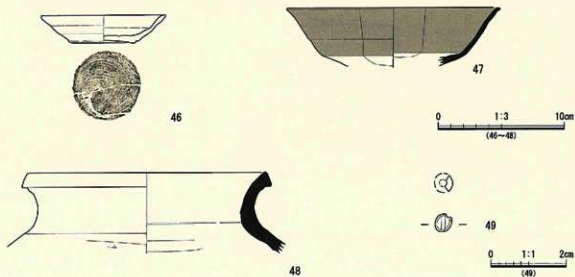
- 1 土に包まれた褐色 (10YR 4/3)
- 2 黄褐色 (10YR 5/6)
- 3 黄褐色 (10YR 5/6)
- 4 灰黄褐色 (10YR 5/4)
- 5 灰黄褐色 (10YR 5/4)
- 6 灰黄褐色 (10YR 4/2)
- 7 黒色 (10YR 2/1)

褐色の0.5~1.0(φ2~3mm)を少し含む。しまりやや強、粘性やや弱。
 褐色の0.5~1.0(φ2~3mm)を少し含む。しまり強、粘性やや弱。
 褐色の0.5~1.0(φ2~3mm)を少し含む。所々に粘土を少し含む。しまり強、粘性やや弱。
 褐色の0.5~1.0(φ2~3mm)を少し含む。所々に粘土を少し含む。しまり強、粘性やや弱。
 褐色の0.5~1.0(φ2~3mm)を少し含む。しまり強、粘性やや弱。
 褐色の0.5~1.0(φ2~3mm)を少し含む。しまり強、粘性やや弱。
 褐色の0.5~1.0(φ2~3mm)を少し含む。しまり強、粘性弱。

S106 掘り方



第33図 B区6号住居跡 平面図・断面図

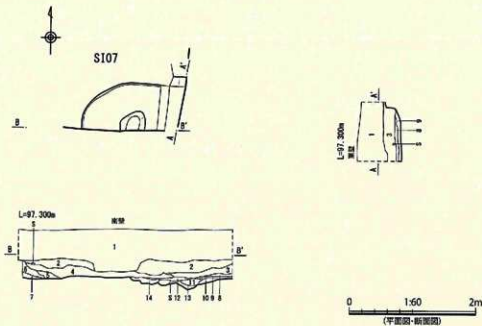


第34図 B区6号住居跡 出土遺物図

第13表 B区6号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	器物 種類	寸法 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①構成 ②色調 ③胎土	残存	備考	
				口径	高さ	器高					
第34図 PL.10	B区 S105 床面直上	46	土師質土器 皿	【10.0】	5.4	2.2	ロクロ成形、底部回転糸切り、回転方向は 右回転	①酸化焼 ②7.5YR 6/4に近い黄褐色 粒子、灰色粒子	70%		
第34図 PL.10	B区 S106 埋没土	47	灰釉陶器 鉢	【17.0】	-	4.6	ロクロ成形、内面外面ともに旋輪、旋輪方 法不明	①黄紅 ②7.5YR 8/1 灰白 ③黒色粒子	口縁部 破片		
第34図 PL.10	B区 S106 埋没土	48	朝志陶 器か	【19.0】	-	(6.5)	ロクロ成形、内面肩部ヘラケズリ、外面肩 部ヘラケズリ	①良好 ②10YR 6/3 に赤・黄褐色 ③黒色粒 子、灰色粒子	口縁部 破片		
図版	出土地	番号	器物 種類	寸法 (cm)			重量 (g)	材質	作成技法等の特徴	残存	備考
				長軸	短軸	厚み					
第34図 PL.10	B区 S106 埋没土	49	ガラス玉	4.4	4.0	-	0.08	ガラス	赤色、径約1.0cmの穿孔あり	破片	

7号住居跡		第35図 / PL. 5		重複関係	7号→6号住居跡	主軸	N - 93° - E
規模	平面形態	不明	位置	調査区東南端	電	調査範囲に限られるため、カマドの有無は不明	
	長軸・短軸	(1.55・0.70)	深さ	0.3			
床面	明瞭な硬化面や貼床面は確認できなかったが、断面にて8層目が床面相当と想定する						
埋没土	黄褐色シルトや粘土・炭化物を少量含む粘性の弱い黒褐色土						
内部施設	調査範囲に限られるため、詳細は不明						
掘り方	黄褐色ロームまで掘り込む。底面に細かな凹凸が見られる						
所見・出土遺物	6号住居跡の床面削削中に検出。遺物の出土は見られない。						

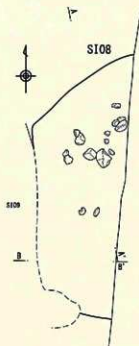


7号住居跡 (SPA-A'・B-B' 共通)

- | | | |
|----|-------------------|--|
| 1 | 造成土、砂、砕石。 | |
| 2 | 黒褐色 (10YR 3/2) | 黄褐色シルト (φ3~5cmやや多量、φ2~3cmやや少量)。軽石状粒子含む。しまり強、粘性弱。 |
| 3 | 黒褐色 (10YR 3/2) | 黄褐色シルト (φ2~3cm多量、φ1~2cm少量)。焼土・炭化物少。しまり強、粘性弱。 |
| 4 | にがみ黄褐色 (10YR 4/3) | 黄褐色シルト (φ2~5cmやや少量)。焼土・炭化物の層含む。しまり強、粘性やや弱。 |
| 5 | 黒褐色 (10YR 3/2) | 黄褐色シルト (φ2~3cm少量、φ1~2cm少量)。しまり強、粘性弱。 |
| 6 | 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ1~2cm少量)。しまり強、粘性弱。 |
| 7 | 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ3~5cmやや多量、φ2~3cmやや少量)。しまり強、粘性やや弱。三角地紋。 |
| 8 | 黄褐色 (10YR 5/6) | 黄褐色シルト主体の弱。厚薄か。しまり強、粘性やや強。 |
| 9 | 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ2~3cmやや少量)。しまり強、粘性やや弱。 |
| 10 | 黄褐色 (10YR 5/6) | 黄褐色シルト主体。黒褐色土少量混入。しまり強、粘性やや強。 |
| 11 | 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ3~5cmやや多量)。しまり強、粘性やや強。 |
| 12 | 黒褐色 (10YR 3/2) | 黄褐色シルト (φ2~3cmやや少量)。しまり強、粘性やや強。 |
| 13 | 黒色 (10YR 2/1) | 黄褐色シルト (φ1~2cm少量)。しまり強、粘性やや強。 |
| 14 | 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ3~5cm少量)。しまり強、粘性弱。 |

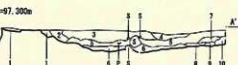
第35図 B区7号住居跡 平面図・断面図

8号住居跡		第36・37図 / PL. 5			重複関係	8号→9号住居跡 と新しい	主軸	N-21°-W
規模	平面形態	不明	位置	調査区南側東壁	竈	調査範囲が限られるため、カマドの有無は不明		
	長軸・短軸	(4.20・1.45)	深さ	0.35				
床面	明瞭な礫化面や粘土面は検出できず				内部施設	調査箇所が限られるため、詳細不明。		
埋没土	黒褐色土基調で黄褐色シルトを含む。拳大以上の礫石が多く混入。							
掘り方	北側に向かって落ち込み、南側でピット5基を確認。ピット1は円形で径0.35×0.25、深さ0.15m、ピット2は円形、径0.26×0.25、深さ0.18m、ピット3は円形、径0.30×0.25、深さ0.13m							
所見・出土遺物	遺構の北側に向かって落ち込みが認められ、落ち込みの埋没土上からは台付甕(50)や須恵器甕(51)、滑石の原石(52)が出土。							



8号住居跡 (SP4-A')

- 1 黒褐色 (10TR 3/2)
- 2 黒褐色 (10TR 2/2)
- 3 黒褐色 (10TR 3/2)
- 4 黒褐色 (10TR 3/2)
- 5 黒褐色 (10TR 2/2)
- 6 黒色 (10TR 2/1)
- 7 黒褐色 (10TR 2/1)
- 8 黒色 (10TR 2/1)
- 9 黒褐色 (10TR 3/2)
- 10 黒褐色 (10TR 3/2)



黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ1~2mm少量、φ3~5cm少量)。軽石(φ2~3cmやや少量)。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mm少量)。軽石(φ2~3mm少量)。しまり強、粘性弱。上面にAs-8が押し込まれる？
 黄褐色シルト(φ3~5cm少量)。カタラン。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mmやや少量)。軽石少量。遺物含む。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mmやや少量、φ1~2cmやや少量)。しまり強、粘性やや弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mmやや多量)。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ1~2mm少量)。しまり強、粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。しまりやや強、粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ1~2mmやや少量、φ5~7cm少量)。しまりやや強、粘性やや強。



8号住居跡 (SP4-B')

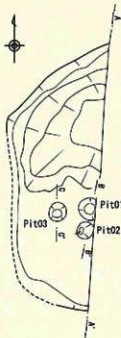
- 1 黒褐色 (10TR 3/1)
- 2 黒褐色 (10TR 2/2)
- 3 黒褐色 (10TR 3/1)
- 4 黒褐色 (10TR 3/1)

黄褐色シルト(φ3~5mm)少量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mm少量、φ1~2mm少量)。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mmやや少量、φ2~3cm少量)。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mmやや少量、φ2~3cm少量)。しまり強、粘性弱。



第36図 B区8号住居跡 平面図・断面図

S108 掘り方



8号住居跡 (SP8-A)

- 2 黒褐色 (10YR 3/1)
- 3 黒褐色 (10YR 2/2)
- 4 黒褐色 (10YR 3/2)
- 5 黒褐色 (10YR 2/2)
- 6 黒褐色 (10YR 3/1)
- 7 黒色 (10YR 2/1)
- 8 灰黄褐色 (10YR 4/2)
- 9 黒褐色 (10YR 3/1)
- 10 黒褐色 (10YR 3/1)
- 11 褐色 (10YR 4/6)
- 12 黒褐色 (10YR 3/1)
- 13 黒褐色 (10YR 3/2)
- 14 黄褐色 (10YR 5/6)
- 15 褐色 (10YR 4/4)
- 16 灰黄褐色 (10YR 4/2)

造成土、コケラン、砂石、砂。

カタラン、As-B (7) 層の砂状粒子混入。硬含む。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mm少量)。炭化物やや少量。しまり強、粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ3~5mmやや少量)。礫石粒子(φ2~3mmやや少量)。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mmやや少量)。しまりやや強、粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ2~3mmやや少量)。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ2~3mmやや少量)。しまり強、粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ3~5mmやや少量)。しまり強、粘性やや強。
 As-B層の砂状粒子含む。黄褐色シルト(φ2~3mmやや少量)。φ2~3cmやや少量。粘土・炭化物少量。しまり強、粘性弱。
 As-B層の砂状粒子含む。黄褐色シルト(φ1~2mm少量)。炭化物少量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト主体。黒褐色土ブロック混入。しまり強、粘性やや強。
 粘土状粒子(φ2~3mmやや少量)。黄褐色シルト(φ2~3mm少量)。炭化物少量。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ3~5mmやや少量)。しまり強、粘性やや強。
 黄褐色シルト主体。しまり強、粘性やや強。
 黄褐色シルト主体。しまり強、粘性やや強。
 黄褐色シルト(φ3~5mmやや少量)。しまり強、粘性弱。



第37図 B区8号住居跡 掘り方平面図・断面図

8号住居跡 (SP8-B, C-C' 共通)

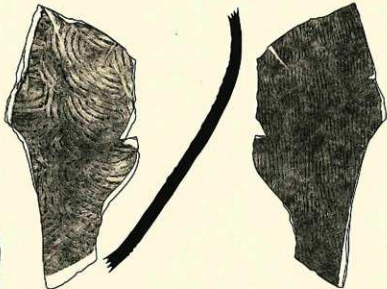
Pit01, 02, 03

- 1 黒褐色 (10YR 3/2)
- 2 褐色 (10YR 4/4)
- 3 にぶい黄褐色 (10YR 4/3)
- 4 灰黄褐色 (10YR 4/2)
- 5 にぶい黄褐色 (10YR 5/4)
- 6 明黄褐色 (10YR 7/6)
- 7 黒褐色 (10YR 2/2)
- 8 黒褐色 (10YR 3/1)

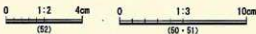
黄褐色シルト(φ1~3mm)少量。しまり強、粘性やや弱。軽石粒子(φ1~2mm)少量。
 黄褐色シルト(φ1~2mm)少量。黄ロームを多く含む。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ1~2mm)極少量。軽石粒子(φ1~2mm)少量。しまり強、粘性やや弱。As-TP (褐色 φ4~6mm)を少し含む。
 黄褐色シルト(φ1~2mm)極少量。黄ロームを少し含む。しまりやや強、粘性弱。
 As-TP (褐色 φ4~7mm)を少し含む。黄ロームを多く含む。しまりやや弱、粘性弱。
 黄ロームを多く含む。しまり強、粘性弱。
 黄褐色シルト(φ1~2mm)少量。軽石粒子少量。As-TP (褐色 φ3~5mm)を少し含む。しまりやや強、粘性やや弱。
 黄褐色シルト(φ1~2mm)極少量。As-TP (褐色 φ4~6mm)を少し含む。黄ロームを少し含む。しまりやや弱、粘性やや弱。



50



51



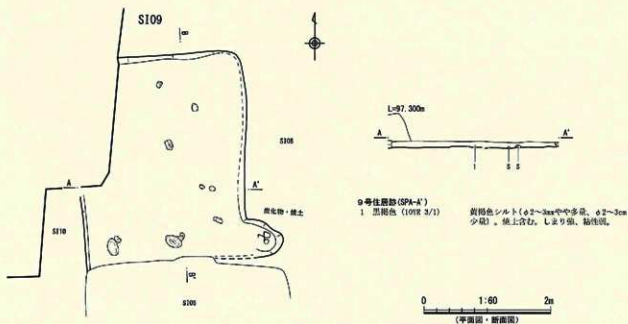
第38図 B区8号住居跡 出土遺物図

第14表 B区8号住居跡 出土土物観察表

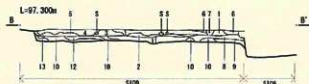
図版	出土地	番号	類別 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	高さ				
第38図 PL. 10	B区 S108 埋没土	50	台付甕	-	-	3.3	外面：右部右上ナメハケメ 内面：台部ナメ	①良好 ②10R/6C に4~5割混 ③砂焼 褐色胎土、白色胎子	台部 破片	
第38図 PL. 10	B区 S108 埋没土	51	須恵器 甕	-	-	(22.6)	外面：平行引き目 内面：同心円状当て目	①良好 ②NS/O 灰 ③白色胎子	須部 破片	

図版	出土地	番号	類別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴 ①平面形態 ②断面形態 ③穿孔 ④色調	残存	備考
				長径	短径	厚み					
第38図 PL. 10	B区 S108 床面?	52	滑石	6.8	4.5	2.0	88.04	滑石	①不規則多角形 ②不規則台形 ③N 7/6 灰白色	原石か	

9号住居跡		第39・40図 / PL. 5		重複関係		10→9→6号住居跡 8→9号住居跡	主軸	N-5°-W
規模	平面形態	長方形状	位置	調査区南側西壁	壁	位置	東壁	契口幅・奥行 (0.5・0.97)
	長軸・短軸	(3.28)・2.56	深さ	0.1		所見	焼土や灰を多く含むが、残存は良好ではない	
掘り方	黄褐色ロームまで掘り込む、ほぼ平坦			埋没土	黄褐色ロームまで掘り込む、ほぼ平坦			
床面	明確な硬化面や貼床面は検出できず、遺物の出土状況から床面を想定							
内部施設	カマド付近の契口部付近の床下にて1号土坑を検出。不整形円で、径0.85×0.63、深さ0.3m、底面にて逆位の状態で完形の甕 (S7) が出土。床下土坑と想定する							
所見・出土土物	床面から羽釜 (S3)、須恵器甕 (S4) が出土。また、カマド部の埋没土から羽釜 (S5) が、床下土坑からは須恵器甕 (S7・S8) が出土する。床面や床下土坑の遺物から10世紀代の遺構と想定する。							



第39図 B区9号住居跡 平面図・断面図 (1)



9号住居跡 (SPB-B')

- | | |
|---------------------|--|
| 1 黒褐色 (10YR 2/1) | 黄褐色シルト (φ2~3mmやや多量)。しまり強、粘性弱。 |
| 2 黒褐色 (10YR 2/2) | 黄褐色シルト (φ3~5mmやや少量)。しまり強、粘性弱。 |
| 3 黒褐色 (10YR 2/1) | 黄褐色シルト (φ2~3mmやや多量、φ2~3cm少量)。軽石 (φ3~5mmやや多量)。しまり強、粘性弱。 |
| 4 黒褐色 (10YR 2/1) | 黄褐色シルト (φ1~2mmやや多量)。軽石 (φ2~3mm) やや多量、しまり強、粘性弱。 |
| 5 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ2~3mmやや多量、φ2~3cmやや少量)。しまり強、粘性弱。 |
| 6 にがい黄褐色 (10YR 4/3) | 黄褐色シルト (φ2~3mmやや多量、φ2~3cmやや少量)。しまり強、粘性弱。 |
| 7 黒褐色 (10YR 2/2) | 黄褐色シルト (φ1~2mm) 少量。しまり強、粘性弱。 |
| 8 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ3~5mmやや多量)。しまり強、粘性弱。 |
| 9 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ2~3mmやや多量、φ2~3cmやや少量)。しまり強、粘性弱。 |
| 10 黒褐色 (10YR 5/6) | 黄褐色シルト主体。しまり強、粘性弱。 |
| 11 黒褐色 (10YR 2/2) | 黄褐色シルト (φ2~3mm多量、φ2~3cmやや多量)。しまり強、粘性弱。 |
| 12 黒褐色 (10YR 3/1) | 黄褐色シルト (φ2~3mmやや少量)。しまり強、粘性やや弱。 |
| 13 黒褐色 (10YR 2/2) | 黄褐色シルト (φ2~3cm少量)。しまり強、粘性弱。 |

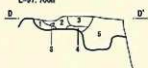
L=97.20m



9号住居跡 (SPC-C')

- | | |
|---------------------|--|
| 1 にがい黄褐色 (10YR 7/4) | 黄褐色シルト (φ1~2mm) 少量、軽石砂子 (φ1~2mm) 少量、焼土を多く含む、As-YP (褐色) (φ4~6mm) 少量、しまり強、粘性弱。 |
| 2 にがい黄褐色 (10YR 5/4) | 黄褐色シルト (φ1~2mm) 少量、軽石砂子 (φ1~2mm) やや少量、焼土を少し含む。しまり強、粘性弱。 |
| 3 黒褐色 (10YR 3/1) | 灰・炭を多く含む。しまり強、粘性弱。 |
| 4 にがい黄褐色 (10YR 6/3) | 黄褐色シルト (φ1~3mm) やや少量、軽石砂子 (φ1~2mm やや少量) (φ3~4mm) 少量。しまり強、粘性弱、As-YP (褐色 φ5~7mm) 少量。 |
| 5 にがい黄褐色 (10YR 4/3) | 黄褐色シルト (φ1~2mm) 少量、軽石砂子 (φ1~2mm) 極少量、As-YP (褐色 φ4~6mm) 少量、しまりやや強、粘性やや弱。 |
| 6 黒褐色 (10YR 3/2) | 黄褐色シルト (φ1~3mm) 極少量、軽石砂子ほとんどなし。しまり強、粘性弱。 |
| 7 明黄褐色 (10YR 6/6) | 灰色ロームを多く含む。しまり強、粘性やや弱。 |

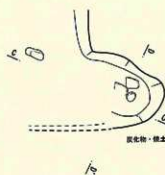
L=97.70m



9号住居跡 (SPD-D')

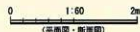
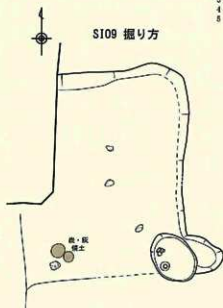
- | | |
|---------------------|--|
| 1 にがい黄褐色 (10YR 6/4) | 軽石砂子 (φ1~2mm) 少量、黄色ロームを多く含む、焼土やや少量、しまり強、粘性やや弱。 |
| 2 灰黄褐色 (10YR 5/2) | 軽石砂子 (φ1~2mm) 少量、焼土少量、土層片を含む。しまり強、粘性弱。 |
| 3 灰黄褐色 (10YR 5/2) | 軽石砂子 (φ6~8mm) 少量、焼土やや多量。しまり強、粘性弱。 |
| 4 灰黄褐色 (10YR 6/2) | 軽石砂子 (φ4~6mm) 少量。しまり強、粘性弱。 |
| 5 にがい黄褐色 (10YR 7/4) | 軽石砂子 (φ3~5mm) 少量、全体に深い黄色ロームを含む。しまり強、粘性弱。 |

SI09 カマド

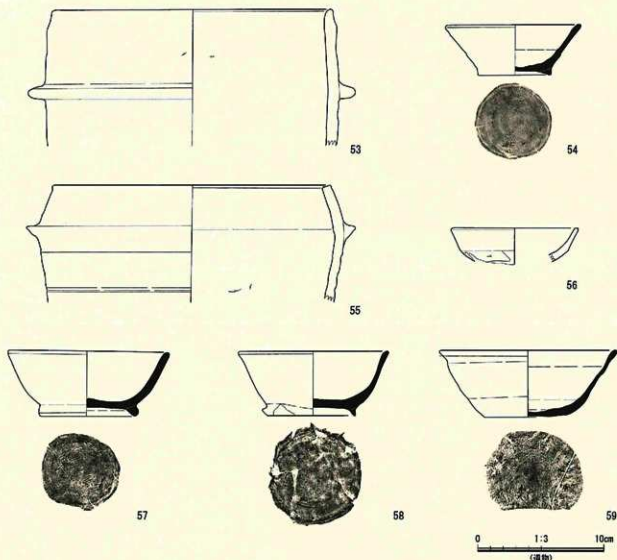


灰本体・焼土

SI09 掘り方



第40図 B区9号住居跡 平面図・断面図 (2)

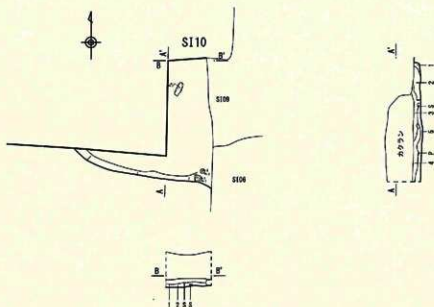


第41図 B区9号住居跡 出土遺物図

第15表 B区9号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	器型 器種	法量 (cm)			成形・装飾技法等の特徴 (器形・文様の特長)	①焼成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第41図 Pl. 11	B区 S109 塚面直上	53	羽釜	[22.3]	-	(10.7)	ロクロ成形、鈔胎付	①焼成温 ②7.5TR 6/4 に赤い斑 ③角閃 石、白色粒子、褐色	口縁～ 胴部 破片	
第41図 Pl. 11	B区 S109 塚面直上	54	須恵器 弁	[11.6]	5.8	4.0	ロクロ成形、底部回転糸切り、高合貼付 高合貼付に伴う調整で回転方向が不明確とな る同軸か	①還元焼 ②2.5Y 7/5 灰質 ③黒色粒子	口縁～ 台部 70%	
第41図 Pl. 11	B区 S109 ツマツツ部 埋没土	55	羽釜	[22.0]	-	(9.3)	ロクロ成形、鈔胎付、口縁部取り	①焼成温 ②5YR 7/6 産 ③黒色粒子、白色 粒子	口縁～ 胴部 破片	
第41図 Pl. 11	B区 S109 埋没土	56	土師器 弁	[11.2]	-	[2.7]	外面：口縁部横ナゲ、底部横方向へラケズ 内面：横ナゲ	①焼成温 ②10YR 8/1 灰白 ③角閃石、 砂粒	口縁部 破片	
第41図 Pl. 11	B区 S109 塚下土坑 底面	57	須恵器 弁	12.7	7.4	5.3	ロクロ成形、底部回転糸切り、高合貼付、 回転方向は右回転	①焼成温 ②7.5TR 6/3 に赤い斑 ③角閃 石、角閃石、茶色 粒子	ほぼ完形	
第41図 Pl. 11	B区 S109 塚下土坑 底面	58	須恵器 弁	11.8	4.8	5.1	ロクロ成形、底部切り放し方法は高合貼付 に伴う調整で不明	①焼成温 ②2.5Y 8/2 灰白 ③砂粒、黒色粒 子	70%	
第41図 Pl. 11	B区 S109 塚下	59	須恵器 弁	14.0	6.4	5.5	ロクロ成形、底部回転糸切り、回転方向は 右回転	①焼成温 ②2.5Y 8/3 灰質 ③角閃石、 チャート	50%	

10号住居跡		第42図 / Pl. 5		重複関係	10号→9号→6号住居跡	主軸	K-7 ² -E
規模	平面形態	不明	位置	竈	調査範囲に限られるため、カマドの有無等は不明		
	長軸・短軸	(1.95・0.62)	深さ				
床面	明瞭な硬化面や貼床面は検出できず			埋没土	しまりの強い黒褐色土に黄褐色シルトや橙色粒子を含む。		
柱穴	-			掘り方	ほぼ平坦		
内部施設	調査箇所に限られるため、詳細不明。						
所見・出土遺物	遺物量は少ないが、床面直上から羽釜(60)が出土。遺物の特徴から10世紀代の遺構と想定。						



10号住居跡 (SPA-A')

- 1 灰褐色 (10TR 4/2)
- 2 褐色 (10TR 4/4)

黄褐色シルト(φ1~2mm)少量、軽石粒子(φ1~3mm)少量、As-TP (褐色φ4~7mm少量)、しまり強、粘性弱、
黄褐色シルト(φ1~2mm少量)(φ4~6mm層少量)、軽石粒子(φ1~2mmやや少量)(φ3~5mm少量)、As-TP (褐色φ3~5mm少量)、
しまり強、粘性弱。

- 3 黒褐色 (10TR 3/2)

黄褐色シルト(φ2~4mm少量)、軽石粒子(φ1~3mmやや多量)、(φ4~6mmやや少量)、As-TP (褐色φ4~6mm少量)、
しまり強、粘性弱、砂のような質感あり。

- 4 にぶい黄褐色 (10TR 5/4)

しまり強、粘性弱、砂のような質感あり。
黄褐色シルト(φ1~3mmやや少量)(φ4~6mm少量)、軽石粒子(φ1~3mm)やや少量、As-TP (褐色φ3~5mmやや少量)、
しまり強、粘性弱。

- 5 暗褐色 (10TR 3/3)

黄褐色シルト(φ1~3mmやや少量)(φ4~6mm少量)、軽石粒子(φ1~2mm)少量、As-TP (褐色φ2~4mm層少量)、
しまり強、粘性弱、土層片を含む。

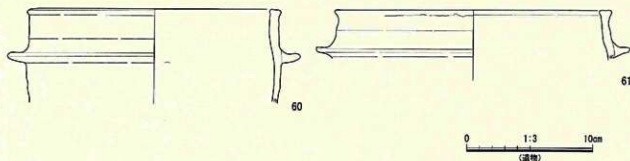
10号住居跡 (SPB-B')

- 1 黒褐色 (10TR 3/1)
- 2 黒褐色 (10TR 3/1)

黄褐色シルト(φ2~3mm多量)、硬化物少量、しまり強、粘性弱、
黄褐色シルト(φ1~3mmやや少量)、小礫含む、しまり強、粘性弱。



第42図 B区10号住居跡 平面図・断面図

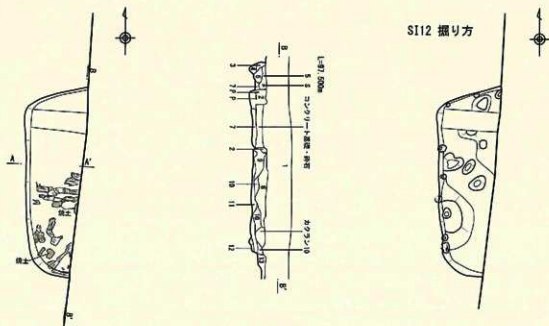


第43図 B区10号住居跡 出土遺物図

第16表 B区10号住居跡 出土遺物観察表

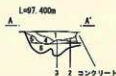
図版	出土地	番号	器型 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①構成 ②胎土	①構成 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	高さ					
第43図 PL. 11	B区 S110 床面直上	60	羽釜	[18.4]	-	(7.8)	ロクロ整形、鈚貼付、口唇部面取り	①酸化腐 ②G7. 6YR 6/3 に近い黄褐色 胎土、白色粒子	口縁～割部 破片		
第43図 PL. 11	B区 S110 埋没土	61	羽釜	[22.6]	-	(4.9)	ロクロ整形、鈚貼付、口唇部面取り	①酸化腐 ②G7. 6YR 6/3 に近い黄褐色 胎土、白色粒子	口縁～割部 破片		

12号住居跡		第44図 / PL. 5			重複関係	—	主軸	N-5° - W
規模	平面形態	方形状か	位置	調査区南側東壁	竪	調査範囲が限られるため、カマドの有無は不明		
	長軸・短軸	(3.06・0.60)	深さ	0.2				
床面	しまりが強く、黒褐色土に黄褐色シルトを含む貼床面。床面直上にて大量の炭化材を検出。							
埋没土	黒褐色土に黄褐色シルトや焼土・炭化物を含む。			内部施設	調査箇所が限られるため、詳細不明。			
掘り方	黄色ロームまで掘り込む。壁沿いに若干の溝状の掘り込みや円形の小ピット状の掘り込みが複数見られる。							
所見・出土遺物	遺物量は非常に少ないが、埋没土から須恵器片(62)が出土する。また、床面直上の炭化材は炭椀構築材か、							



12号住居跡 (SP8-B)

- | | |
|----|---|
| 1 | 造成立土、コンクリート片、砕石、砂。 |
| 2 | 灰黄褐色 (10YR 4/2) カクラン、土管掘り方、炭化物骨片 (非腐の炭化材が混入)。 |
| 3 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ1~2mm) やや少量、炭化物・焼土少量、しまり強、粘性弱。 |
| 4 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ3~5mm) 少量、しまりやや強、粘性やや強。 |
| 5 | 灰黄褐色 (10YR 4/2) 黄褐色シルト (φ1~2mm) やや多量、焼骨含む、しまり強、粘性やや弱。 |
| 6 | 灰黄褐色 (10YR 4/2) 黄褐色シルト (φ3~5mm) 少量、φ1~2cm やや少量)、焼土少量、しまり強、粘性やや弱。 |
| 7 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ1~2mm) やや多量、炭化物少量、しまり強、粘性弱。 |
| 8 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ1~5mm) 多量、φ1~2cm やや少量)、焼土・炭化物やや多量、しまり強、粘性弱。 |
| 9 | 灰黄褐色 (10YR 4/2) 黄褐色シルト (φ2~3mm) 多量、φ1~2cm やや少量)、炭化物少量、しまり強、粘性弱。 |
| 10 | 黒褐色 (10YR 2/1) 黄褐色シルト (φ2~3mm) やや少量、φ1~2cm 少量)、焼土・炭化物少量、しまり強、粘性弱。 |
| 11 | 黒色 (10YR 2/1) 炭化材が多量含む、焼土やや少量、黄褐色シルト (φ2~3mm) やや少量)、しまりやや強、粘性やや弱。 |
| 12 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ3~5mm) 少量)、炭化物少量、しまり強、粘性やや弱。 |
| 13 | 灰黄褐色 (10YR 4/2) 黄褐色シルト (φ2~3mm) やや少量)、しまり強、粘性弱。 |



12号住居跡 (SP8-A)

- | | |
|---|--|
| 1 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ1~2mm) やや多量、しまり強、粘性弱。 |
| 2 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ2~3mm) やや多量、しまり強、粘性弱。 |
| 3 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ1~2mm) やや多量、炭化物・焼土含む、しまり強、粘性やや弱。 |
| 4 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ2~3mm) やや多量、炭化物・焼土少量、しまり強、粘性やや弱。 |
| 5 | 黒色 (10YR 2/1) 黄褐色シルト (φ3~5mm) やや多量、炭化物やや多量、しまり強、粘性やや弱。 |
| 6 | 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト (φ3~5mm) やや少量)、しまり強、粘性弱。 |



第44図 B区12号住居跡 平面図・断面圖



62

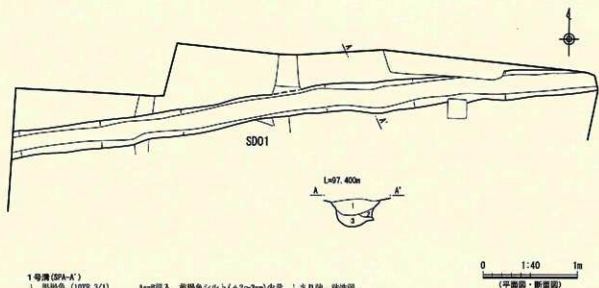


第45図 B区12号住居跡 出土遺物図

第17表 B区12号住居跡 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	類別 器種	寸法(cm)			成形・整形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①焼成 ③胎土	②色調	残存	備考
				口径	底径	器高					
第45図 PL. 11	B区 S112 埋没土	62	銅器部 鏝	-	-	(7.3)	外面：平行刃き目 内面：同心円状当て具	①不貞 ②灰白	③7.5Y R/1 ④暗緑	銅部 破片	

1号溝跡	図面	第46図 / PL. 6	重複関係	-	走行軸	概ねN-82° - E
規模	確認長	約9.30	位置	調査区北端	基底面	東側へ傾く
	幅	約0.2~0.32	深さ	約0.30	遺物	
断面形態	U字状を呈すが西側の立ち上がりが若干西へ傾き込む					
所見	埋没土が黒褐色基調のAa-B混土であるため、時期は12世紀以降と推定。					

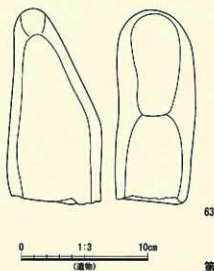


1号溝 (B区1号溝)

- 1 赤褐色 (10YR 3/1)
2 赤色 (10YR 2/1)
3 黒褐色 (10YR 3/1)

- Aa-B段入。黄褐色シルト(φ2~3mm)少量。しまり強。粘性弱。
Aa-B段入。黄褐色シルト(φ1~2mm)少量。しまり強。粘性弱。
Aa-B段入。黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。しまり強。粘性弱。

第46図 B区1号溝 平面図・断面図



63

第47図 B区1号溝 出土遺物図

第18表 B区1号溝 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	種類	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴 ①平面形態 ②断面形態 ③穿孔 ④色調	残存	備考	
				長さ	短径	厚み						
第47図 PL. 11	B区 S001	03	滑石か	15.2	7.5	6.1	1130.0	-	①北端部全面磨削 ②S 7/2 ③灰白色	洗黄色	ほぼ完形	

1号土坑	図面	第48図 / PL. 6	重複関係	-	主軸	N - 76° - W
規模	長軸・短軸	0.48・0.41	深さ	0.14	位置	調査区南側西端
	平面形態	不整形	断面形態	上端が広く開く「U」状を呈する。基底の一部が下面に挟り込む。		
所見	遺物が検出されず、テフラ等も未検出なため時期は不明。					

SK01



1号土坑(SPA-B)

- 1 黒褐色 (10YR 3/2)
- 2 黒褐色 (10YR 3/2)

黄褐色シルト(φ2~3mm)やや多量。しまり強。粘性やや強。
黄褐色シルト(φ3~5mm)多量。しまり強。粘性弱。

第48図 B区1号土坑 平面図・断面図

ピット1	図面	第49図	重複関係	-	位置	調査区南側西端
規模	長軸・短軸	0.22・0.2	深さ	0.08	時期	12世紀以降
	平面形態	円形状	断面形態	「U」状を呈す		
ピット2	図面	第49図	重複関係	-	位置	調査区北側東端
規模	長軸・短軸	0.42・0.28	深さ	0.2	時期	
	平面形態	楕円形状	断面形態	「V」状を呈す		
ピット3	図面	第50図	重複関係	-	位置	調査区南東側南壁
規模	長軸・短軸	0.36・0.14	深さ	0.3	時期	
	平面形態	不明	断面形態	「U」状を呈す		

Pit01



Pit02

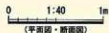


ピット1(SPA-B)

- 1 黒褐色 (10YR 2/2) 黄褐色シルト(φ1~2mm)やや少量。しまり強。粘性弱。As-Fe混入。
 - 2 黒褐色 (10YR 3/2) 黄褐色シルト(φ3~5mm)やや多量。しまり強。粘性やや弱。
- ※1・2層はそれぞれ別ピット。

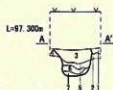
ピット2(SPA-B)

- 1 黒褐色 (10YR 2/1) 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。φ2~3mm少量。しまり強。粘性弱。
- 2 黒褐色 (10YR 3/1) 黄褐色シルト(φ2~3mm)やや少量。φ5~10mm少量。しまりやや強。粘性弱。
- 3 黒褐色 (10YR 2/1) 黄褐色シルト主体。しまり強。粘性やや強。



第49図 B区ピット1・2 平面図・断面図

Pit03



ピット3(SPA-B)

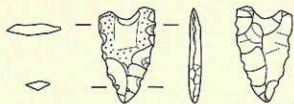
- 1 に近い黄褐色 (10YR 5/4) 黄褐色シルト($\phi 1\sim 2\text{mm}$)やや少量, 軽石粒子($\phi 1\sim 3\text{mm}$)少量, しまり強, 粘性弱。
- 2 に近い黄褐色 (10YR 5/4) 黄褐色シルト($\phi 1\sim 2\text{mm}$)やや少量, 軽石粒子($\phi 1\sim 2\text{mm}$)少量, $\phi 4\sim 6\text{mm}$ 極少量, しまり強, 粘性やや強。
- 3 褐色 (10YR 4/4) 黄褐色シルト($\phi 1\sim 3\text{mm}$)やや多量, 軽石粒子($\phi 1\sim 3\text{mm}$)やや少量, $\phi 4\sim 5\text{mm}$ 少量, A_2 TP (褐色 $\phi 2\sim 5\text{mm}$)を少し含む, しまり強, 粘性弱。
- 4 に近い黄褐色 (10YR 5/4) 黄褐色シルト($\phi 1\sim 2\text{mm}$)少量, 軽石粒子($\phi 1\sim 3\text{mm}$)少量, A_2 TP (褐色 $\phi 2\sim 4\text{mm}$)少量, しまり強, 粘性弱。
- 5 に近い黄褐色 (10YR 4/3) 黄褐色シルト($\phi 1\sim 2\text{mm}$)極少量, 軽石粒子($\phi 1\sim 2\text{mm}$)極少量, しまり強, 粘性弱。
- 6 灰黄褐色 (10YR 4/2) 軽石粒子($\phi 1\sim 3\text{mm}$)極少量, A_2 TP (褐色 $\phi 2\sim 5\text{mm}$)少量, しまり強, 粘性やや強。
- 7 黄褐色 (10YR 5/6) 黄色ロームを多く含む, しまりやや強, 粘性やや強。



第50図 B区ピット3 平面図・断面図



64



65



第51図 B区遺構外 出土遺物図

第19表 B区遺構外 出土遺物観察表

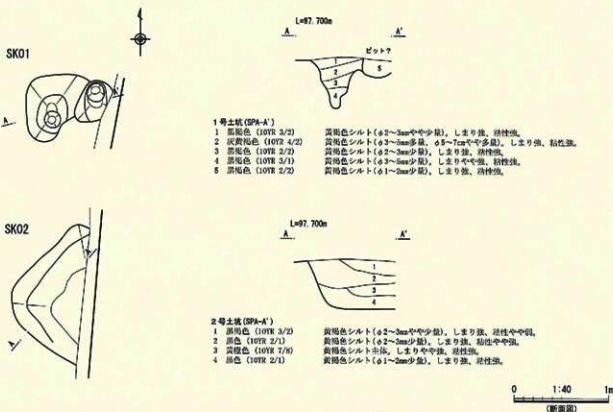
図版	出土地	番号	遺物種類	法量 (cm)			重量 (g)	材質	作成技法等の特徴	残存	備考
				長軸	短軸	厚み					
第51図 Pl. 11	B区 遺構外	64	金属製品	4.4	1.7	0.2	3.80	鉄	鉄窓か, 断面五角形。	破片	

図版	出土地	番号	遺物種類	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴	残存	備考
				長径	短径	厚み					
第61図 Pl. 11	B区 遺構外	65	石器	2.4	1.5	0.3	1.39	-	①平面形磨 ②断面形磨 ③穿孔 ④色調	完形	

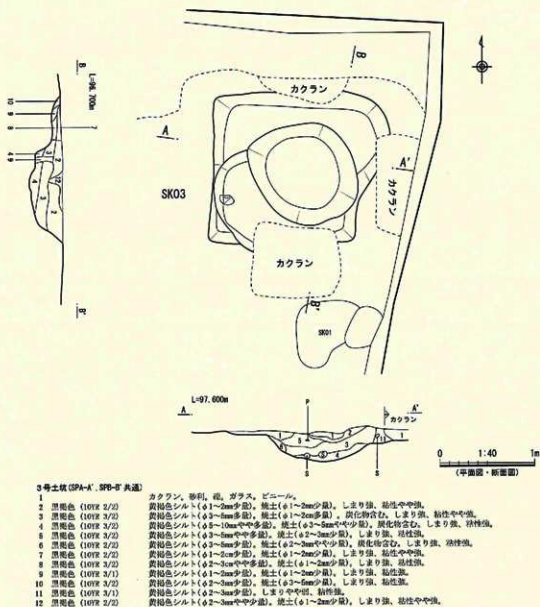
第3節 C区の遺構・遺物

C区はB区の北側を拡張した範囲で調査面積は約100㎡である。C区も既存建築物等による擾乱が多く、調査区東壁に土坑を3基と南東隅にてB区北端から走行する1号溝跡の続きが検出するのみである。遺物は少量であり、3号土坑からS字甕や羽釜、滑石小片等、幅広い年代の遺物が出土した。また、C区においても火山噴出物の一次堆積層は確認できなかった。

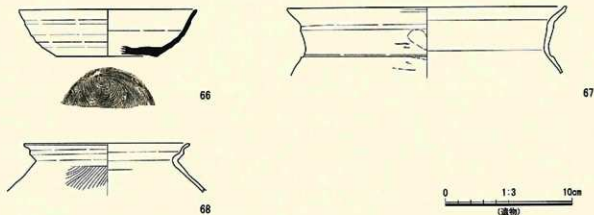
1号土坑	図面	第52図 / PL. 7	重複関係	—	位置	調査区東壁
規模	長軸・短軸	0.80 × 0.56	深さ	0.52	主軸	N-45° - E
	平面形態	不整形円形	断面形態	「V」状を呈する。基底面が丸みを帯びる。		
所見	上面から下面に準っていく様子。					
2号土坑	図面	第52図	重複関係	—	位置	調査区東壁
規模	長軸・短軸	(1.48 × 0.14)	深さ	0.52	主軸	N-45° - W
	平面形態	方形か	断面形態	緩やかに落ち込み、基底面はフラット状になる		
所見	調査箇所が限定されるため、詳細は不明					
3号土坑	図面	第53図 / PL. 7	重複関係	—	位置	調査区北側東壁
規模	長軸・短軸	1.86 × 1.52	深さ	0.35	主軸	N-61° - W
	平面形態	不整形円形か	断面形態	基底面がやや丸みを呈し、曲線上に立ち上がるが上面にて若干の平坦面を帯びて立ち上がる。		
所見	埋没土中から須恵器坏 (66) やS字甕 (68) が出土する。					



第52図 C区1・2号土坑 平面図・断面図



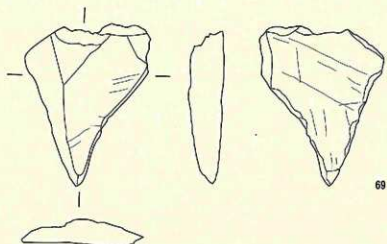
第53図 C区3号土坑 平面図・断面図



第54図 C区3号土坑 出土遺物図

第20表 C区3号土坑 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	類別 器種	法量 (cm)			成形・器形技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①地産 ②色調 ③胎土	残存	備考
				口径	底径	器高				
第54図 PL. 11	C区 SK03 掘戻土	66	羽虫器 片	[14.0]	[8.0]	3.7	コタコ態形、底部回転糸切り、回転方向は右回転	①還元焼 ②7.5Y 8/1 灰白 ③黒色胎土	口縁～ 底部 30%	
第54図 PL. 11	C区 SK03 埋戻土	67	土師器 尖	[22.0]	-	5.3	外面：胴部上半に横方向のヘラケズリ、口縁部指ナシ、指オサニ痕 内面：ナシ	①良好 ②2.5YR 6/6 焼 ③白色胎土、黒色胎土	口縁部 破片	
第54図 PL. 11	C区 SK03 掘戻土	68	S字夾	[13.0]	-	4.0	胴部上半左下ナメヘケメ	①良好 ②7.5YR 5/3 に近い焼 ③角閃石	口縁部 破片	



69



第55図 C区遺構外 出土遺物図

第21表 C区遺構外 出土遺物観察表

図版	出土地	番号	類別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	作成技法等の特徴 ①平面形態 ②断面形態 ③穿孔 ④色調	残存	備考
				長径	短径	厚み					
第55図 PL. 11	C区 遺構外	69	滑石	4.1	0.9	0.6	11.99	滑石	①不整三角形 ②不帯長方形 ③尖穿孔 ④表：7.5YR 7/6 緑色 裏：2.5Y 7/1 明才 ⑤一灰色	剥片	

第4節 まとめ

本遺跡では高崎第一中学校の旧校舎に伴う建造物による攪乱が遺構面まで到達しており、全体的に破壊を受けていたが、A・B・C区から竪穴住居跡が14軒、井戸、土坑、溝跡、ピット等を検出したほか、多くの遺物が出土した。

A区における1号・2号・3号住居跡では埋没土内にて滑石の細片や削り屑の混入が多く、1号・3号住居跡では白玉の未製品や滑石の剥片の出土が認められる。1号住居跡の床下から初鋳が11世紀後半である『熙寧元宝』の銭貨が出土するとともに埋没土内にAs-Bの混入が認められないため、1号住居跡は11世紀後半～末に帰属すると想定される。2・3号住居跡は床面出土の遺物は認められず、住居の年代の想定は難しいが、埋没土内出土の遺物から住居の年代が古墳時代後期まで遡る可能性が考えられる。

B区においては、11軒の竪穴住居跡を検出でき、1号・3号・5号・8号住居跡では白玉の未製品や拳大の滑石の原石の出土が認められ、いずれも主軸がやや西に振れて構築される。1号住居跡では床面直上で古墳時代終末期の土師器坏が出土するとともに、埋没土内の白玉未製品の出土や多量の滑石の細片を床面に近接する範囲まで確認できたことから、住居の年代が古墳時代後期に帰属する可能性が考えられる。3号・5号・8号住居跡においても埋没土内や床下からの白玉未製品や滑石原石が出土する。

一方、平安時代の住居跡としては2号・4号・6号・9号・10号・12号住居跡が認められ、床面や埋没土内にて須恵器坏や羽釜が多く出土する。4号・9号住居跡では残存は良好ではないが、カマド跡が検出され、12号住居跡では床面にて炭化材を検出した。また、6号住居の埋没土内にて赤色のガラス玉の出土が認められる。住居跡の埋没土にはAs-Bが含まれないことからいずれの住居跡も9世紀後半から11世紀に帰属すると考えられる。

本遺跡で検出された住居跡は主に古墳時代と平安時代に帰属するものに分類することができる。古墳時代に帰属すると想定される住居跡からは滑石類の出土が見られ、周辺に位置する並榎台原遺跡や上並榎屋敷前遺跡との関連が考えられるが、これらの遺跡と同様に本遺跡が工房を伴う住居跡と判断できる積極的な痕跡は認められなかった。しかし、住居から出土した白玉の未製品や滑石の細片、削り屑は多量であり、北方200mほどに位置する並榎台原遺跡から流れ込みと判断するのは難しいため、本遺跡の隣接地に古墳時代の工房を伴う集落が展開する可能性が考えられる。

平安時代の集落跡の検出により、台地上の微高地における集落が上和田地域まで展開され、さらに北方の低地において水田跡が展開される様相がより明瞭になったといえる。

また、住居の埋没土や床下にて、パレススタイル土器壺や台付壺、S字甕などの弥生後期～古墳時代前期の遺物の出土も認められ、古墳時代後期に先行する集落等が存在する可能性も考えられる。

かみなみえなかおき

上並榎仲沖遺跡 2

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

平成27年4月に教育委員会教育総務課（以下、「教育総務課」）より並榎中学校屋内運動場建て替え工事が計画された。事業予定地の周辺が既知の埋蔵文化財包蔵地であることから、教育総務課より高崎市教育委員会文化財保護課（以下、「文化財保護課」）に確認調査の依頼があった。また、同年5月29日に教育総務課より文化財保護法第94条に基づく通知が文化財保護課に提出された。

本事業地の周辺は、隣接する上並榎沖遺跡や並榎北遺跡など平安時代や古墳時代などの複数面の水田跡が検出されており、当該事業地においてもこれらの遺構の残存が想定された。また、文化財保護課により同年4月28日に試掘調査を実施したところ、遺構面の残存が確認された。

これを受けて、教育総務課と文化財保護課との間で埋蔵文化財保護の協議を行ったが、教育総務課より事業計画の変更は困難であるとの回答を得た。事業予定地内において残存する古墳時代水田跡をはじめとする各種埋蔵文化財への工事による影響は不可避とのことであったため、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

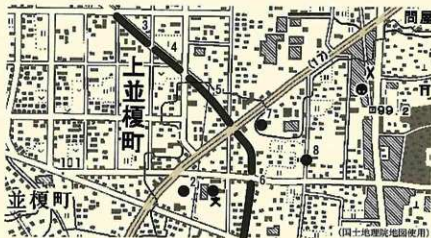
本遺跡の所在する上並榎町は、高崎市街地の北、JR高崎駅の北西2.7kmにある。西側に南東流する烏川を見下ろす台地上にある。本遺跡周辺の標高はおよそ100mとなる。

第2節 歴史的環境

本遺跡では、平安時代および古墳時代の水田跡が検出されたが、周辺に目を転じると、同様の水田跡が広範囲に調査されている。本遺跡の北西から北、東にかけて、上並榎御料所遺跡（3）、上並榎下松遺跡（4）、並榎北遺跡（5）、並榎北Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡（6）、並榎町Ⅰ遺跡（7）、飯塚新田西遺跡（8）などの調査がある。

並榎町Ⅰ遺跡では、As-B下水田およびHr-FA下水田の2面が確認されている。Hr-FA下水田面の残存は比較的良好で、検出された4本の畦畔により水田が区画される様相を捉えることができる。また、畦畔構築土中より土師器の出土が認められる。

並榎北Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡では、As-B下水田、Hr-FA下水田、As-C下水田と、As-C下水田下層の洪水層下水田の4面を確認している。4面目の水田面は層位や出土遺物より弥生時代中期末から後期前半の年代が想定されている。また、上並榎下松遺跡では、As-B下水田、Hr-FA下水田、As-C下水田の3面が確認されている。上並榎御料所遺跡・上並榎下松遺跡・並榎北遺跡の各調査区はほぼ連続しており、道路幅とはいえ、総延長約1kmにわたって各面の水田遺構を確認している。



1. 上並榎沖遺跡 2. 上並榎沖遺跡 3. 上並榎御料所遺跡 4. 上並榎下松遺跡
5. 並榎北遺跡 6. 並榎北Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡 7. 並榎町Ⅰ遺跡 8. 飯塚新田西遺跡

第1図 上並榎沖遺跡2 位置図・周辺遺跡図

第3章 検出した遺構

第1節 調査成果の概要および調査の方法

今回の調査は20㎡であり、As-B下水田跡およびHr-FA下水田跡の2面の遺構面を検出した。

発掘調査では、As-B堆積層上面まで重機を使用した表土除去作業を行った。発掘調査中の掘削によって生じた排出土は調査区横を仮置き場として管理した。遺構確認面では人力により遺構平面プランの検出を行い、遺構の形状や重複関係の確認を行った。遺構確認後は、人力により遺構の掘削や軽石層の除去を順次行った。各遺構の覆土堆積状況などの土層観察は調査区壁面を利用し、分層作業や写真撮影、断面図化作業を行った。掘削が完了した遺構はフィルムカメラを用いて35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラにより記録写真撮影を行った後、光波測距儀等の測量機器で遺構測量図等の記録図作成を行った。すべての遺構の調査が完了した後に埋め戻しを行った。

第2節 日誌抄

本遺跡の調査地点が中学校敷地内のため、学校運営への影響低減を目的に、調査は夏期休暇期間中に実施した。以下、調査日誌より抜粋して作業経過を振り返る。

7月22日	ガードフェンス設置。	8月6日	1面目(As-B)水田面完掘。畦畔検出。
8月4日	重機による表土掘削。	8月11日	2面目(Hr-FA下)水田面検出。
8月5日	1号土坑完掘。	8月20日	埋め戻し完了。撤収作業。

第3節 基本土層

表土層およびAs-A混土層が厚く堆積し、現GLよりAs-B一次堆積層(VI)までは1.1~1.3mとなる。VI層は約10cmであり、直下に水田土壌と考えられる黒色粘質土(VII)がある。VIII層は灰黄褐色の粘質土層で、Hr-FAと考えられる黄褐色ブロックが混じる。IX層はAs-C軽石を混入する黒色粘質土層である(第2図)。

第4節 検出した遺構

今回の調査では遺構面2面を確認した。

(1) 1面目水田面(第4図左)

1面目はAs-B一次堆積層が残存する直下より検出した水田面である。水田土壌は黒色粘質土を基調とし、1トレンチではところどころ黄褐色土がブロック状に混入する。3トレンチの南端にて、東西走向の畦畔1条を検出した。畦畔の盛り上がりは極めて低く、水田面より僅かに高いだけである。水田面では明確な足跡などの検出はない。

(2) 2面目水田面(第4図右)

1面目水田作土である黒色粘質土層の下には灰黄褐色粘質土層があり、Hr-FAと想定される黄褐色ブロックが含まれる。降下状態の一次堆積層ではないが、Hr-FAテフラに由来する層と考えられる。この層の直下にはAs-C軽石を混入する黒色土層があるが、As-C混土の有無で土壌を観察することで水田面の平面プランを検出することができた。畦畔などの遺構はほぼ削平されており残存は認められないが、平面プランからは水田主軸がおおむね北西-南東方向に設定されていることが看取される。

(3) 土坑

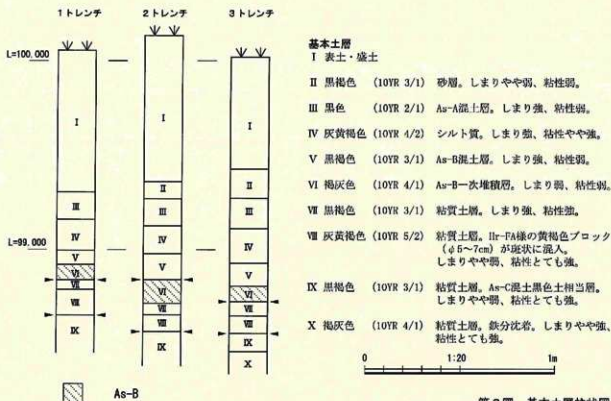
1トレンチ北側で土坑1基(1号土坑)を検出した(第3図)。東半分は調査区外となるが、検出した範囲で、規模は南北1.1m、深さ0.5mである。遺物の出土はない。この土坑はAs-B一次堆積層を掘り込んでおり、覆土にはAs-Aの混入も見られたため、近世以降の遺構と考えられる。

第5節 まとめ

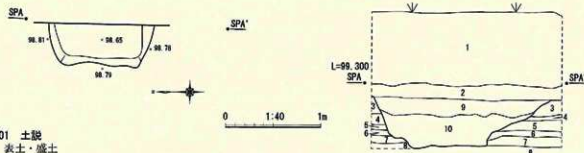
今回の調査では、As-B下水田およびHr-FA下水田の2面を確認した。

As-B下水田面で検出した畦畔は水田面の高低差が極めて低く、残存状態は良好とはいえない。本遺跡東の並履北Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡では東西畦畔の間隔は10~15mほどだが、本調査区では南端の1条以外は確認できなかった。

Hr-FA下水田の残存状態は良好でなく畦畔等は平面プランの確認に留まり、足跡などの検出はできなかった。畦畔は北西-南東方向に軸を取り、周辺地形に即した構築と推測される。



第3図 基本土層柱状図



SK01 土説

- | | |
|----|--|
| 1 | 表土・盛土 |
| 2 | 黒色 (10YR 2/1) As-A混入。しまり強、粘性弱。 |
| 3 | 灰黄褐色 (10YR 4/2) シルト質。しまり強、粘性やや強。 |
| 4 | 黒褐色 (10YR 3/1) As-B混入。しまりやや強、粘性弱。 |
| 5 | 褐灰色 (10YR 4/1) As-B一次堆積層。しまり弱、粘性弱。 |
| 6 | 黒褐色 (10YR 3/1) 粘質土層。しまり強、粘性強。 |
| 7 | 灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘質土層。Hr-FA線の黄褐色が斑状に混入。しまりやや弱、粘性とても強。 |
| 8 | 黒褐色 (10YR 3/1) 粘質土層。しまりやや弱、粘性とても強。As-C混土黒色土相当層。 |
| 9 | にぶい黄褐色(10YR 4/3) As-A混土層。品混じり。しまり強、粘性弱。 |
| 10 | 褐灰色 (10YR 4/1) As-A混土層。しまりやや強、粘性弱。 |

第4図 1号土坑 平面図・断面図

第4章 自然科学分析

上並榎沖遺跡2におけるプラント・オパール分析報告

株式会社古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール(植物珪酸体)分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山, 2000)。また、イネの習性を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である(藤原・杉山, 1984)。

上並榎沖遺跡2の発掘調査では、浅間Bテフラ(As-B)直下層と榛名ニツ岳洪川テフラ(Hr=FA)直下において、それぞれ水田遺構が検出された。そこで、これらにおける稲作の可能性を検討することを目的として、プラント・オパール分析を実施することになった。

2. 試料

分析対象は、1トレンチ(1T)、2トレンチ(2T)、3トレンチ(3T)の3地点である。分析試料は、各地点それぞれ2箇所においてAs-B直下(褐灰色土)とHr-FA下(灰黄褐色粘質土)より採取された計12点である。

3. 分析方法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに直径約40 μ mのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550°C・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42kHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20 μ m以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞(葉身はのみ形成される)に由来するプラント・オパールを同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が500以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。

検鏡結果は、計数値を試料1g中のプラント・オパール個数(試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズの個数の比率を乗じて求める)に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重(ここでは1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重, 単位: 10⁻⁵g)を乗じて、単位面積で厚厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。

各分類群の換算係数は、イネ(黍米)は2.94(稈実重は1.03)、ヒエ属は8.40、ヨシ属(ヨシ)は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、メダケ属は1.16、ネザザ属は0.48、チマキザサ属は0.75、ミヤコザサ属は0.30である(杉山, 2000)。

4. 結果

分析試料から検出されたプラント・オパールは、イネ、キビ類型、ヨシ属、ウシクサ類型、ススキ属型、タケ亜科(メダケ節型、ネザザ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、その他)および未分類である。また、プラント・オパールのほかに海綿骨針が認められた。これらの分類群について定量を行い、その結果を第1表、第1図に示した。主要な分類群については顕微鏡写真を示す。以下に、プラント・オパールの検出状況を記す。なお、植物種によって機動細胞珪酸体の生産量は相違するため、検出密度の評価は植物種ごとに異なる。

(1) 1 トレンチ

As-B直下では、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型が検出されている。イネ、ヨシ属、ススキ属型の各分類群が高い密度である。

Hr-FA下では、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型が検出されている。イネ、ヨシ属およびススキ属型が高い密度である。

(2) 2 トレンチ

As-B直下では、イネ、キビ族型、ヨシ属、ウシクサ族型、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型が検出されている。イネ、ヨシ属およびススキ属型が高い密度である。

Hr-FA下では、イネ、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型が検出されている。イネ、ヨシ属およびススキ属型が高い密度である。

(3) 3 トレンチ

As-B直下では、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型が検出されている。イネ、ヨシ属およびススキ属型が高い密度である。

Hr-FA下では、イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、ネザサ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型が検出されている。イネ、ヨシ属およびススキ属型が高い密度である。

5. 上並椋仲沖遺跡における稲作と推定される周辺植生・環境

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合、通常、イネのプラント・オパールが試料 1gあたり 5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山, 2000）。ただし、近年の調査では密度が 3,000個/g程度でも水田遺構が検出された事例が多く報告されていることから、ここでは 3,000個/gを目安として検討する。

水田遺構が検出されたAs-B直下では、イネのプラント・オパールが 2,400~5,400個/gの密度である。地点間にばらつきがみられるものの、決して高い密度である。同じく水田遺構が検出されたHr-FA下では、イネのプラント・オパールが 2,300~5,400個/gの密度で、こちらも地点間にばらつきがあるものの高い密度である。いずれも水田跡の可能性を判断する際の基準値に概ね達していることから、これらの遺構において稲作が行われていた可能性が高いと判断される。

イネ以外の分類群では、ヨシ属がいずれにおいても高い密度である。このことから、両層準は湿った環境であり、そこを利用して水田稲作が営まれていたものと推定される。とくにHr-FA下では非常に高い密度であることから、調査地一帯は当時ヨシが繁茂するような湿地であった可能性が高い。一方、阿層準ともに各地点でススキ属型が高い密度であることから、近辺の乾いたところにはそれぞれススキ属が密に生育していたと推定される。

6. まとめ

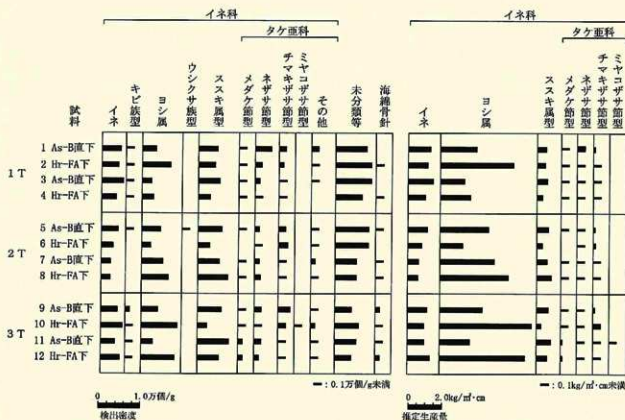
上並椋仲沖遺跡においてプラント・オパール分析を行い、稲作の可能性について検討を行った。その結果、水田遺構が検出されていた浅間Bテフラ（As-B）直下、榛名二ツ岳沢川テフラ（Hr-FA）下では、いずれもイネのプラント・オパールが高い密度で検出されたことから、これらにおいて稲作が行われていたことが確認された。また、調査地は概ね湿った環境で推移し、湿地を利用して水田が営まれたと推定された。

参考文献

- 杉山真二 (1967) タケ亜科植物の植物組織学。富士竹類植物園報告, 31, p. 70-83.
 杉山真二 (2000) 植物組織学 (プラント・オパール)。考古学と植物学, 同成社, p. 189-213.
 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) - 数種イネ科雑穀植物の珪酸体標本と定量分析法 -。考古学と自然科学, 9, p. 15-29.
 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) - プラント・オパール分析による水田址の探査 -。考古学と自然科学, 17, p. 73-85.
 藤原宏志 (1998) 稲作の起源を探る。岩波新書

第1表 上並榎沖遺跡のプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		1T											
分類群 (和名・学名)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
イネ科	Gramineae (Grasses)												
イネ	<i>Oryza sativa</i>	48	42	84	37	42	30	24	23	42	54	30	48
キビ族型	<i>Panicum</i> type	6	6	7	6	6	6	6	6	12	6	6	6
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	36	72	24	30	48	23	54	66	42	91	30	84
ウシクサ族	<i>Miscanthus</i> type					6							
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	48	42	24	30	60	30	54	78	60	24	78	54
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)												
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	6	6	6	7	6		6	6	6	6	12	12
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	42	18	12	7	12	8	12	15	18	6	18	12
サマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	18	12	6	7	18	23	6	8	30	18	6	6
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>										6		
その他	Others	12	6	6		6	6	12	6	6	12	6	6
未分類等	Unknown	78	90	90	87	84	83	84	83	42	60	54	42
(海綿骨針)	Sponge	6	6	7	6	6	6	6	6	12	6	6	12
プラント・オパール総数		294	294	258	192	288	206	222	258	260	282	246	270
おもな分類群の積算生成量 (単位: kg/af-cm)													
イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.43	1.24	1.89	1.19	1.24	0.89	0.78	0.66	1.24	1.00	1.04	1.41
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	2.27	4.55	1.52	1.89	3.03	1.43	3.39	4.27	2.46	5.71	1.89	5.38
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.60	0.52	0.67	0.37	0.75	0.37	0.67	0.93	0.75	0.36	0.37	0.67
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nipponocalamus</i>	0.07	0.07	0.07	0.09	0.07		0.07	0.09	0.07	0.07	0.14	0.14
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	0.28	0.09	0.06	0.04	0.05	0.04	0.05	0.07	0.09	0.03	0.03	0.06
サマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.14	0.09	0.05	0.06	0.14	0.17	0.04	0.06	0.23	0.14	0.05	0.05
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>										0.02		

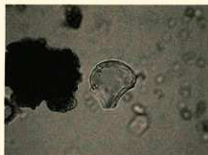


第5図 上並榎沖遺跡のプラント・オパール分析結果

第6図 上並模冲遺跡のプラント・オパール



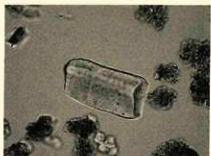
イネ (As-B直下 1 T 1)



イネ (Hr-FA下 1 T 2)



イネ (As-B直下 2 T 5)



キビ族型 (Hr-FA下 3 T 10)



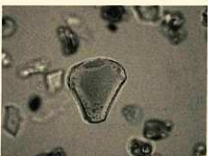
ヨシ属 (As-B直下 1 T 1)



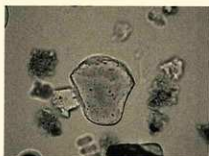
ヨシ属 (Hr-FA下 3 T 10)



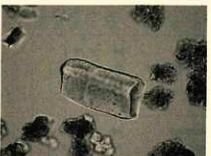
ススキ属型 (As-B直下 2 T 5)



ススキ属型 (Hr-FA下 2 T 8)



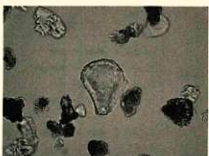
ウシササ族型 (As-B直下 2 T 5)



ネザサ節型 (As-B直下 1 T 1)



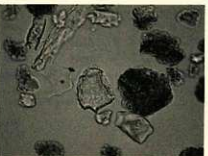
メダケ節型 (As-B直下 3 T 11)



メダケ節型 (Hr-FA下 3 T 12)



デマキザサ節型 (As-B直下 3 T 9)



ミヤコザサ節型 (Hr-FA下 3 T 10)



海綿骨針 (Hr-FA下 3 T 12)

けんざきおつかみなみ

剣崎大塚南遺跡

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

本遺跡は高崎市立八幡中学校のサッカーグラウンド整備工事中に、附近で遺跡の試掘調査を行っていた市教育委員会事務局の埋蔵文化財担当者によって発見され、市教育委員会事務局において急遽協議を行い発掘調査が実施されることとなったものである。

発見時にはすでに工事によって表土は掘削されており、住居址の平面プランが確認できる状態であった。調査は平成27年7月22日から、平成27年7月31日まで実施された。

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

本遺跡は北を烏川、南を碓氷川に挟まれた八幡台地上に位置する。八幡台地は安中市の秋間丘陵から連なり、若田、八幡、剣崎、豊岡地区へと続く台地である。このうち本遺跡が立地するのは烏川、碓氷川によって形成された低地との比高差が大きい台地西部の北辺附近である。

遺跡の北方は150mほどで烏川によって形成された比高差20mほどの急峻な崖となっており、南は若干の起伏はあるがゆるやかに下り、1kmほどで碓氷川によって形成された崖に達する。

今回調査をおこなった範囲は、すでに調査が行われた剣崎長瀬西遺跡の広がりの中に含まれるものと考えられる。剣崎長瀬西遺跡は縄文時代草創期、早期の遺物、弥生時代後期から奈良時代の集落、積石塚古墳などが発見されている。

第2節 歴史的環境

八幡台地の西部は東西にのびる小支谷によって、本遺跡が立地する北縁部の剣崎支台、西に標高



(国土院発行地形図「下米田」1/25000に加筆して使用)

1. 剣崎長瀬西遺跡 2. 剣崎長瀬西古墳 3. 剣崎稲荷塚遺跡 4. 大島原遺跡 5. 若田遺跡群
6. 八幡中原遺跡 7. 七三引遺跡 8. 八幡遺跡 9. 観音塚古墳 10. 平塚古墳 11. 二子塚古墳

第1図 剣崎大塚南遺跡と周辺の遺跡

180.1mのピークを持ち南東方向に傾斜する中央部の若田支台、確氷川による段丘崖に沿って東西に延びる南部の八幡支台に分けられるがいずれも遺跡の密集地である。

剣崎支台上には多くの滑石製模造品を出した剣崎長瀬西古墳をはじめとする多くの古墳が存在する。また、剣崎稲荷塚遺跡では縄文時代前期から中世までの主に住居跡を主とした遺構が発見されており、大島原遺跡では縄文時代及び古墳時代の集落と古墳群が確認されている。

若田支台では現在八幡霊園となっている若田遺跡群があり、縄文時代・古墳時代の集落と古墳群が発見されている。また、八幡中原遺跡、七五三引遺跡では主に古墳時代の集落が、八幡中原遺跡では縄文時代草創期の石器が発見されている。

南部の八幡支台では弥生時代・古墳時代の住居や方形周溝墓・古墳を多数検出した八幡遺跡のほか、国指定史跡である観音塚古墳や平塚古墳、二子塚古墳等の大型の前方後円墳を含む古墳群が存在する。

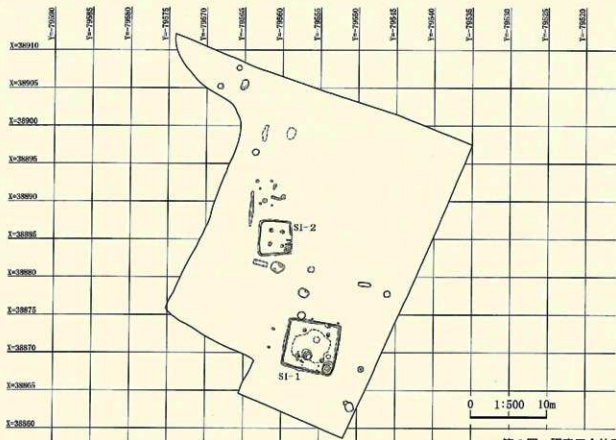
第3章 検出した遺構・遺物

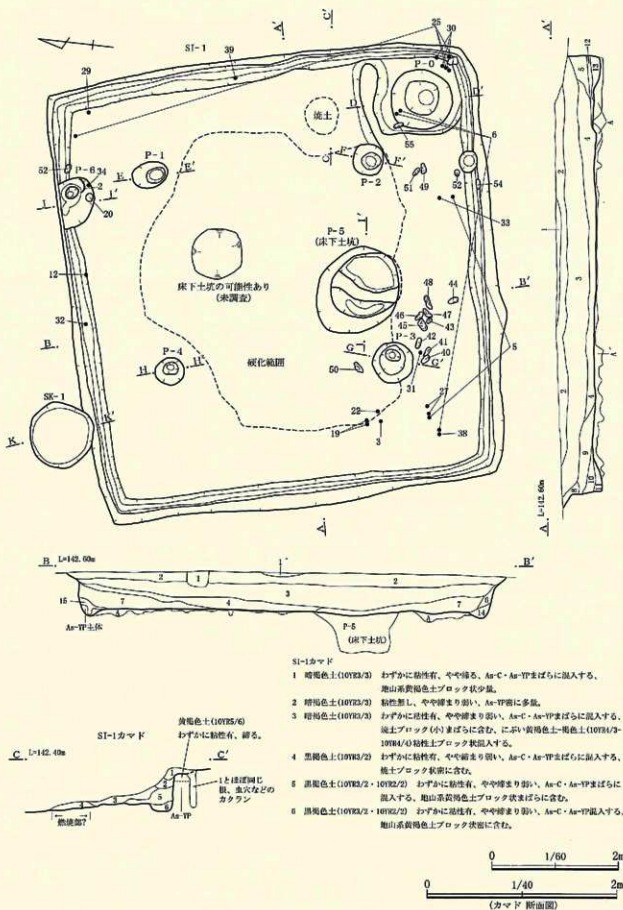
第1節 検出した遺構・遺物

本遺跡で発見された遺構は、住居跡2基であった。

調査区南部のSI-1は東西約7.2m、南北約6.8mの規模で主軸はやや北に振れた東西方向であり、カマドは残存状況不良ではあったが東壁の中央からやや南にずれた位置に設置されていたようである。壁の状態から見て煙道の外部に突出しないタイプのものであったと考えられる。

調査区中央部のSI-2はSI-1に比して小規模なもので、東西約4.5m、南北約4.7mのほぼ正方形平面で主軸はほぼ東西方向であった。カマドは東壁の中央からやや南にずれた位置に設置されていた。煙道の外部に突出しないタイプのものである。両住居跡ともに多くの遺物が出土したが、いずれの住居も出土した土器の器種に関しては甕と高坏の比率が高かった。





SI-1カマド

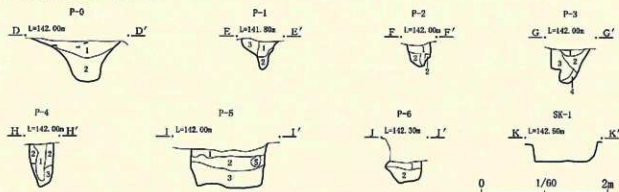
- 1 暗褐色土(10YR3/3) わずかに粘性有、やや締る。As-C・As-TPまばらに混入する。地山系黄褐色土ブロック状少量。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 粘性弱し、やや締まり弱い。As-TP面に多量。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) わずかに粘性有、やや締まり弱い。As-C・As-TPまばらに混入する。黄土ブロック(小)まばらに含む。に黄褐色土・褐色土(10YR4/3-10YR4/0)粘性土ブロック状混入する。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性有、やや締まり弱い。As-C・As-TPまばらに混入する。黄土ブロック状面に含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2・10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり弱い。As-C・As-TPまばらに混入する。地山系黄褐色土ブロック状まばらに含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2・10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり弱い。As-C・As-TP混入する。地山系黄褐色土ブロック状面に含む。

第3図 SI-1平面図・断面図(1)

剣崎大塚南遺跡

1-4' ~ B-3'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、よく締る、As-C7混入する、As-C7まばらに混入する。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、よく締る、As-C7(5mm以下白黄ベニス)まばらに混入する。(2よりやや硬)
- 3 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、締る、As-C7まばらに混入する。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、締る、As-C7まばらに混入する。(2よりやや硬)
- 5 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、やや締る、As-C7まばらに混入する、As-1Pまばらに含む、焼土ブロック(小)少量、地山系黄褐色土少量。
- 6 ほぼ同質。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、やや締る、As-C7まばらに混入する(ほぼ同質)、As-1Pまばらに含む、地山系黄褐色土(10YR5/4)含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、やや締る、As-C7まばらに含む、地山系黄褐色土少量、焼片少量。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、やや締る、As-C7As-1P混入する、黒褐色土(10YR2/2)ブロック状少量、地山系黄褐色土含む。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり強い、As-C7As-1P混入する、黒褐色土(10YR2/2)ブロック状含む、地山系黄褐色土少量。
- 11 10に加え、地山系黄褐色土含む。
- 12 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、やや締まり強い、As-C7As-1P混入する、焼片少量、焼土ブロック状少量。
- 13 暗褐色土(10YR3/2)・黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、やや締まり強い、As-C7、As-1P混入する、地山系黄褐色土含む。
- 14 黒褐色土(10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり強い、As-C・As-1P混入する、地山系黄褐色土含む。
- 15 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、やや締まり強い、As-C7As-1P混入する、黒褐色土(10YR2/2)ブロック状含む、地山系黄褐色土(10YR5/4)少量。
- A 黒褐色土(10YR2/2) わずかに粘性有、締る、黄色土ブロック主体、As-1P混入する。
- A' 黒褐色土(10YR2/2)ブロック混入する。



SI-1 P-0

- 1 黒褐色土(10YR2/2・10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり強い、As-C・As-1Pまばらに含む、地山系黄褐色土ブロック(5mm以下)まばらに含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2・10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり強い、As-C・As-1P混入する、地山系黄褐色土ブロック状含む。

SI-1 P-1

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 粘性無し、やや締まり強い、As-Cまばらに含む、As-1P少量。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 粘性無し、やや締まり強い、As-Cまばらに含む、As-1P含む、地山系黄褐色土含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 粘性無し、やや締る、As-C・As-1Pまばらに含む、黒褐色土(10YR2/2)ブロック状少量、地山系黄褐色土ブロック状まばらに含む。

SI-1 P-2

- 1 P-1の1と同じ、 2 P-1の1と同じ、 3 黒褐色土(10YR2/2・10YR2/2)混土 わずかに粘性有、やや締る、As-C・As-1P含む、地山系黄褐色土ブロック状混入する。
- 2 P-1の2と同じ、 2 P-1の2と同じ、 4 黒褐色土(10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり強い、As-C・As-1P含む、地山系黄褐色土多量。

SI-1 P-4

- 1 P-1の1と同じ。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) わずかに粘性有、締る、As-C・As-1P含む、地山系黄褐色土ブロック状密に含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり強い、As-C・As-1Pまばらに含む。

SI-1 P-5

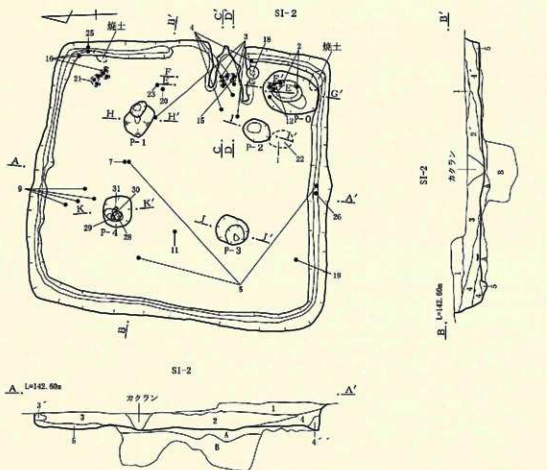
- 1 黒褐色土(10YR2/2)主体 やや粘性有、やや締る、As-C・As-1Pまばらに混入する、地山系黄褐色土ブロック状含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/2)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性無し、締まり強い、As-1P混入する。
- 3 暗褐色土(10YR3/2)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性無し、締まり強い、As-1P層多量に混入する。

SI-1 P-6

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) わずかに粘性有、やや締まり強い、As-C・As-1P混入する、黄褐色土ブロック状やや密に含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締まり強い、As-C・As-1Pまばらに混入する、黄褐色土ブロック状まばらに含む。

第4図 SI-1断面図(2)

SI-1		位置		重複関係		主軸	
規模	平面形態	方形状	壁高 0.67	カマド	位置	東壁中央やや南	焚口幅・奥行
	長軸・短軸	7.2・6.8		位置	東壁中央やや南	焚口幅・奥行	-
	壁溝	全周。		内部施設	南東隅にP-0、1.00・0.25・深さ0.65。中央やや南にP-5(床下土坑)、1.50・1.15・深さ0.62。北壁やや東にP-6、0.85・0.50・深さ0.35。		
	主柱穴	P-1・P-2・P-3・P-4					
	所見・出土遺物	土師器、石製品が出土している。土師器では壺と高坏の比率が高い。石製品は滑石製の紡錘車が出土したほか、多数のこも編石が出土している。出土土器より古墳時代中期後半の所産と考えられる。					



A-A' ~ B-B'

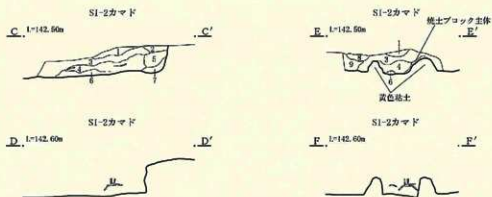
- 1 黒褐色土(10YR2/2) やや粘性有、締る、As-Cまばらに混入する、As-YP少量。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、締る、As-Cまばらに混入する、As-YPまばらに含む、地山系黄褐色土ブロック状まばらに含む。
- 2' 地山系黄褐色土ブロック状面に含む、As-YPまばらに混入する。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、締る、As-C混入する、As-YPまばらに含む、地山系黄褐色土希薄まばらに含む。
- 3' 地山系黄褐色土ブロック(核部)含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、締る、As-Cまばらに混入する、As-YPまばらに含む、地山系黄褐色土希薄まばらに少量。
- 4' 壁上ブロック(小)混入。
- 4'' 地山系黄褐色土ブロック状まばらに含む。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-YP混入する、地山系黄褐色土ブロック状面に含む。
- A 黒褐色土(10YR2/2・10YR3/2) 粘色無し、締る、As-YP混入する、地山系黄褐色土ブロックからなる。
- B 黒褐色土(10YR3/2) 粘色無し、やや締まり強い、As-YP混入する、地山系黄褐色土多量。

0 1/60 2m

第5図 SI-2平面図・断面図(1)

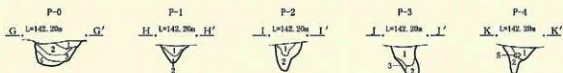
SI-2		位置		重複関係		主軸	
規模	平面形態	方形状	壁高	0.45	位置	東壁中央やや南	開口幅・奥行
	長軸・短軸	4.7・4.5	カマド	位置	所見	0.45・0.70	
壁溝	カマドを除きほぼ全周。			内部施設	南東隅にP-0、0.95・0.50、深さ0.40。		
主柱穴	P-1・P-2・P-3・P-4						
所見・出土遺物	土器と石製品が出土している。土器はSI-1と同様壺と高杯の比率が高い。出土遺物より古墳時代中期後半の所産と考えられる。						

剣崎大塚南遺跡



SI-2カマド

- 1 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-Cまばらに含む、焼土ブロック(小)少量、黄色粘性土(10YR6/4)希薄に含む。
- 2 黄色粘土ブロック主体、一部炭焼有。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-C・As-YPまばらに含む、焼土ブロック(小)まばらに含む、黄色粘性土含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-C・As-YPまばらに含む、焼土ブロック状密に含む、炭片少量、黄色粘性土少量。
- 5 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-C・As-YPまばらに含む、焼土ブロック状密に含む、黄色粘性土ブロック状密に含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 炭片多量、焼土ブロック(小)まばらに含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2・10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-C・As-YPまばらに含む、地山系黄褐色土ブロック状少量。
- 8 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-C・As-YPまばらに含む、黄色粘性土ブロック状含む。
- 9 焼土ブロック(小)散土。



SI-2 P-0

- 1 黒褐色土(10YR3/2・10YR2/2) やや粘性有、やや締る、As-C・As-YP混入する、焼土ブロック状まばらに含む。
- 2 As-YP主体。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3・10YR5/4) わずかに粘性有、やや締まり弱い、As-YP密に混入する。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3・10YR5/4) わずかに粘性有、やや締まり弱い、As-YP混入する。

SI-2 P-1

- 1 黒褐色土(10YR3/2・10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり弱い、As-C・As-YPまばらに混入する。
- 2 地山系黄褐色土ブロック主体 As-YP密に混入する、黒褐色土(10YR3/2・10YR2/2)含む。

SI-2 P-2

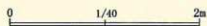
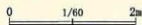
- 1 黒褐色土(10YR3/2) わずかに粘性有、やや締まり弱い、As-C・As-YP混入する。
- 2 黒褐色土(10YR2/2・10YR3/2) 粘性無し、やや締まり弱い、As-YP密に混入する。

SI-2 P-3

- 1 黒褐色土(10YR2/2) わずかに粘性有、やや締まり弱い、As-C・As-YPまばらに混入する、地山系黄褐色土ブロック状少量。
- 2 黒褐色土(10YR2/2・10YR3/2) わずかに粘性有、締まり弱い、As-C・As-YP混入する、地山系黄褐色土ブロック状密に含む。
- 3 地山系黄褐色土ブロック主体 わずかに粘性有、締る、As-YP密に混入する。

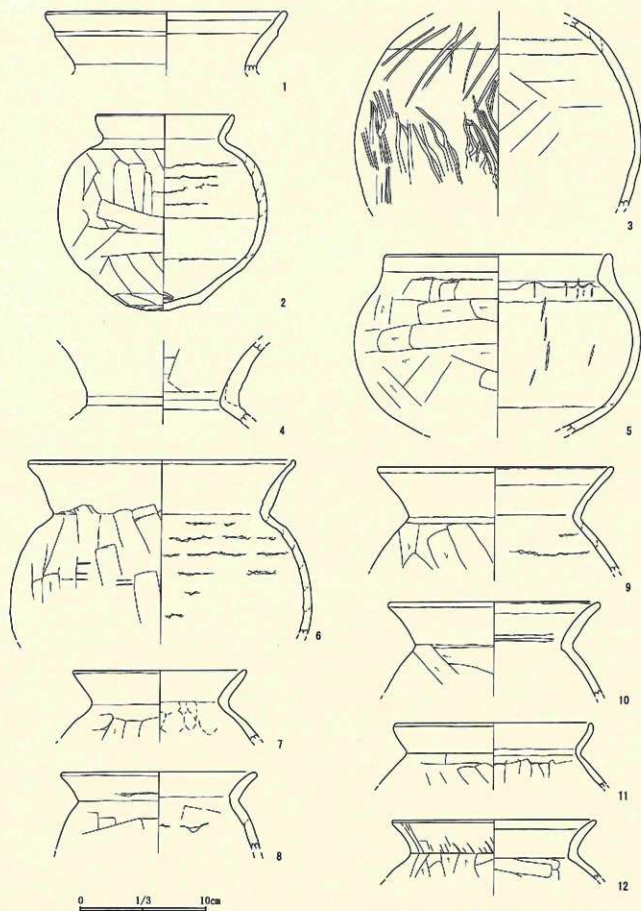
SI-2 P-4

- 1 黒褐色土(10YR2/2・10YR3/2) As-C・As-YPまばらに混入する、地山系黄褐色土ブロック状含む。
- 2 地山系黄褐色土ブロック主体 わずかに粘性有、締る、As-YP密に混入する。

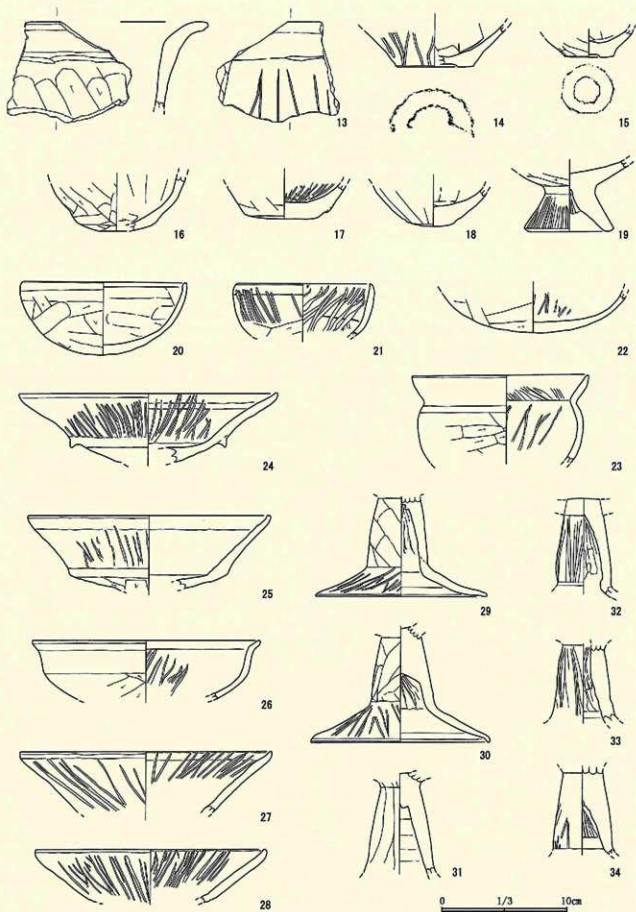


(カマド 断面図)

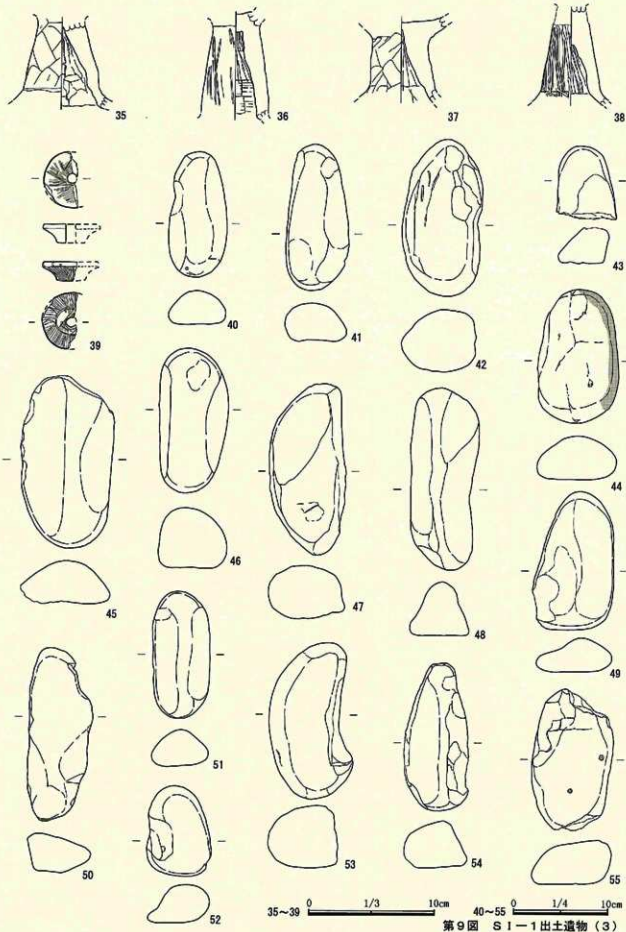
第6図 SI-2断面図(2)



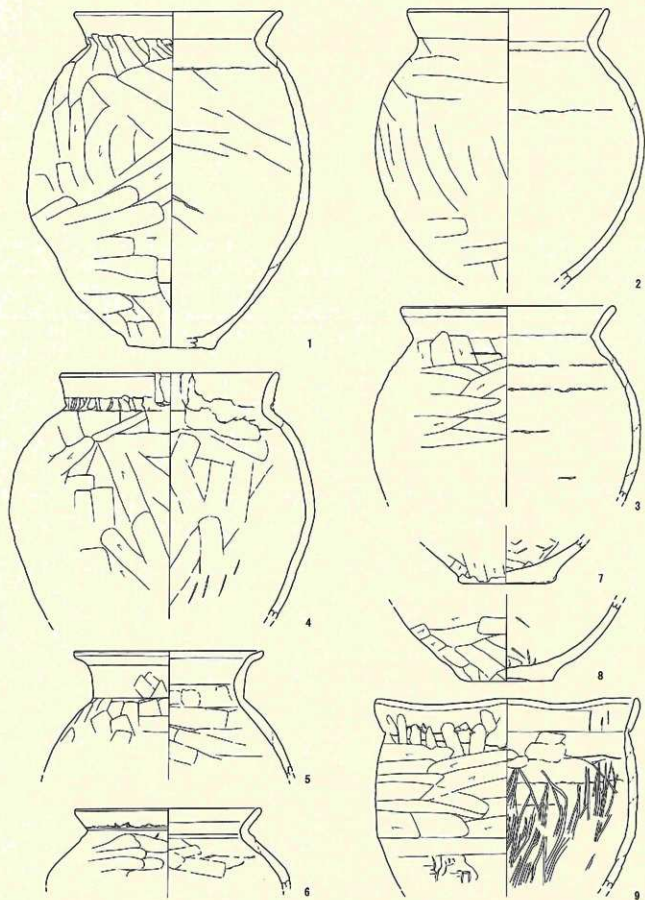
第7図 S1-1出土遺物(1)



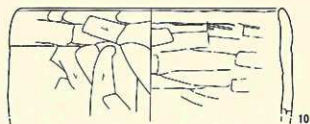
第8圖 SI-1出土遺物(2)



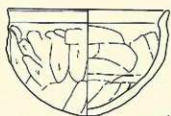
第9図 S1-1出土遺物(3)



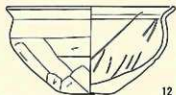
0 1/3 10cm 第10圖 S1-2出土遺物(1)



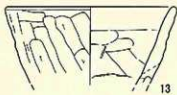
10



11



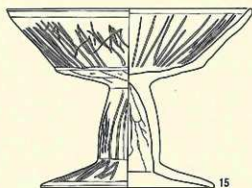
12



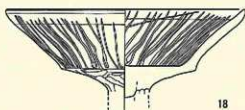
13



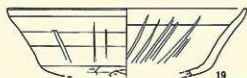
14



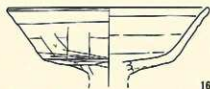
15



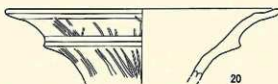
18



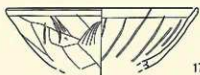
19



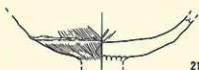
16



20



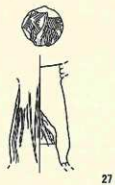
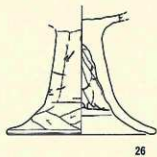
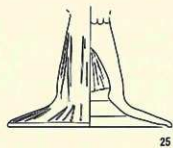
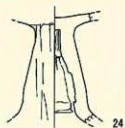
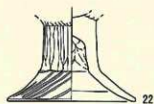
17



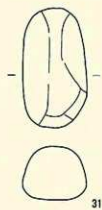
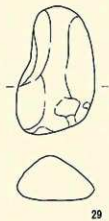
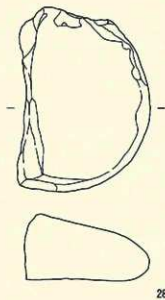
21

0 1/3 10cm

第11図 S1-2出土遺物(2)



0 1/3 10cm



0 1/4 10cm

第12圖 S1-2出土遺物(3)

第1表 竪穴住居跡出土遺物観察表・土器(1)

調査区	出土地	番号	器別 器種	寸法(cm)			成形・装飾技法等の特徴 (器形・文様の特徴)	①器形 ②色調 ③土質 ④装飾の特徴	備考
				口径	底径	高さ			
第7区 PL.17	SI-1	1	土師器 壺	(9.2)	-	(4.6)	口縁部内外面ヨコナデ	①口縁部破片②褐色	
第7区 PL.17	SI-1	2	土師器 小壺	(11.0)	6.0	(18.6)	外面ヨコナデ、底面ヘラナデ、胴上部ヘラナデ、内面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、内面 上部に輪帯状の文。	①1/3褐色	
第7区 PL.17	SI-1	3	土師器 壺	-	-	(16.0)	外面ヘラミダキ、内面ヘラナデ	①胴部破片②外面にぶい赤褐色、内 面赤褐色	
第7区 PL.17	SI-1	4	土師器 壺	-	-	(7.2)	①口縁部～胴部破片②褐色	口縁部内外面ナデ	
第7区 PL.17	SI-1	5	土師器 短甕	(18.2)	-	(14.2)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面 ヘラナデ	①口縁部～胴部の1/2褐色	
第7区 PL.17	SI-1	6	土師器 壺	(20.8)	-	(14.2)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面ナ デ、内面胴部上半に輪帯状の文。	①口縁部～胴部破片②明赤褐色	
第7区 PL.17	SI-1	7	土師器 壺	(13.7)	-	(5.7)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面 ヨコナデ	①口縁部～胴部破片②明赤褐色	
第7区 PL.17	SI-1	8	土師器 壺	(15.4)	-	(6.1)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面 ヘラナデ	①口縁部～胴部破片②ぶい赤褐色	
第7区 PL.17	SI-1	9	土師器 壺	(18.6)	-	(8.2)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面ナ デ、内面上部に輪帯状の文。	①口縁部～胴部破片②明赤褐色	
第7区 PL.17	SI-1	10	土師器 壺	(16.8)	-	(7.2)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面ナ デ	①口縁部～胴部破片②明赤褐色	
第7区 PL.17	SI-1	11	土師器 壺	(15.7)	-	(5.2)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ヘラナデ、口縁 部受け口状。	①口縁部～胴部破片②明赤褐色	
第7区 PL.17	SI-1	12	土師器 壺	(18.2)	-	(4.6)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ヘラナデ	①口縁部～胴部破片②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	13	土師器 壺	-	-	-	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面 ヘラナデ	①口縁部～胴部破片②ぶい赤褐色	
第8区 PL.18	SI-1	14	土師器 壺	-	(6.2)	(3.4)	胴部外面ヘラナデ、底面ヘラナデ、内面ヘラナ デ、底面上に輪帯	①底面～胴部破片②赤褐色	
第8区 PL.18	SI-1	15	土師器 壺	-	3.9	(2.2)	内面ヨコナデ、底面上に輪帯	①底面破片②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	16	土師器 小壺	-	5.3	(4.6)	外面ヘラナデ、内面ヘラナデ	①底面～胴部破片②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	17	土師器 小壺	-	5.8	(2.8)	外面ヘラナデ、内面ヘラミダキ(増文か)	①底面～胴部破片②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	18	土師器 小壺	-	3.3	(3.1)	外面ヘラナデ、内面ヘラナデ、底面不安定な丸底	①底面～胴部破片②明赤褐色	
第8区 PL.18	SI-1	19	土師器 台付蓋	-	7.1	(3.1)	外面外面ヘラナデ、内面外面ヘラミダキ、内面 ナデ	①蓋部のみは灰白色②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	20	土師器 杯	13.0	-	5.8	口縁部内外面ヨコナデ、外面ヘラナデ、内面ヘ ラナデ	①ほぼ完全褐色	
第8区 PL.18	SI-1	21	土師器 杯	(10.7)	-	(4.1)	口縁部内外面ヨコナデ、内外面ともに斜行の増文	①口縁部～胴部破片②明赤褐色	
第8区 PL.18	SI-1	22	土師器 杯	-	-	(3.3)	外面ヘラナデ、内面ナデ、内面に増文	①底面破片②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	23	土師器 壺	(18.0)	-	(5.4)	外面外面ヘラナデ、口縁部ヨコナデ、内面外面 ヘラナデ後段斜行の増文、口縁部ヨコナデ、口縁部は 受け口状となる。	①口縁部から胴部の破片②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	24	土師器 高杯	(20.3)	-	(5.4)	口縁部内外面ヨコナデ、底面外面ヘラナデ、内面 および外面外面に増文	①杯部破片②明赤褐色	
第8区 PL.18	SI-1	25	土師器 高杯	(19.2)	-	(5.9)	口縁部内外面ヨコナデ、外面外面ナデ、底面ヘラ ナデ、内面ナデ、外面外面に増文、内面底面と杯部 の接合部明瞭に残る。	①杯部1/3破片②明赤褐色	
第8区 PL.18	SI-1	26	土師器 高杯	(18.4)	-	(4.7)	口縁部内外面ヨコナデ、外面外面ナデ、底面ヘラ ナデ、内面ナデ、内面に増文	①口縁部～杯部破片②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	27	土師器 高杯	(19.4)	-	(4.9)	口縁部内外面ヨコナデ、内外面ともに増文	①杯部破片②明赤褐色	
第8区 PL.18	SI-1	28	土師器 高杯	(18.3)	-	(4.2)	口縁部内外面ヨコナデ、内面放射状、外面放射状の 増文	①杯部の1/2②明赤褐色	
第8区 PL.18	SI-1	29	土師器 高杯	-	13.6	(7.0)	胴部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面 ヨコナデ	①杯部の3/4②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	30	土師器 高杯	-	14.2	(9.2)	胴部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面 外面ナデ、胴部ヘラナデ	①杯部の2/3②褐色	
第8区 PL.18	SI-1	31	土師器 高杯	-	-	(7.8)	内外面ヘラナデ	①杯部破片②褐色	

第2表 竪穴住居跡出土遺物観察表・土器(2)

図番	出土地	番号	遺物 種類	法量(cm)			成形・整形技法の特徴 (番号・文様の特徴)	①形状 ②胎土・底質の特徴	備考
				口径	底径	高さ			
第98図 Pl. 18	SI-1	32	土師器 高坪	-	-	(7.8)	外面縦方向の増文、内面ヘラナデ	①脚部破片②棕色	
第99図 Pl. 18	SI-1	33	土師器 高坪	-	-	(8.3)	外面縦方向の増文、内面ヘラナデ	①脚部破片②棕色	
第100図 Pl. 18	SI-1	34	土師器 高坪	-	-	(6.8)	外面縦方向の増文、内面ヘラナデ	①脚部破片②棕色	
第101図 Pl. 19	SI-1	35	土師器 高坪	-	-	(7.2)	内外面ヘラナデ	①脚部破片②棕色	
第102図 Pl. 19	SI-1	36	土師器 高坪	-	-	(8.5)	外面縦方向の増文、内面ヘラナデ	①脚部破片②明赤褐色	
第103図 Pl. 19	SI-1	37	土師器 高坪	-	-	(6.8)	内外面ヘラナデ	①脚部破片②明赤褐色	
第104図 Pl. 19	SI-1	38	土師器 高坪	-	-	(7.0)	外面縦方向の増文、内面ヘラナデ	①脚部破片②棕色	
第105図 Pl. 20	SI-2	1	土師器 甕	16.5	6.6	26.6	口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ヘラナデ、胴部 上下半面に輪縁状明眼に改る。	①全体の1/2②明赤褐色	
第106図 Pl. 20	SI-2	2	土師器 甕	16.1	-	(21.9)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ヘラナデ	①底面欠損②明赤褐色	
第107図 Pl. 20	SI-2	3	土師器 甕	(16.9)	-	(15.6)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナデ、内面ナ デ、内面に輪縁状明眼に改る。	①口縁部～胴部の1/2②明赤褐色	
第108図 Pl. 20	SI-2	4	土師器 甕	17.4	-	(19.8)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ヘラナデ、内面 に輪縁状明眼に改る。	①口縁部～胴部破片②全体の1/3③棕色	
第109図 Pl. 20	SI-2	5	土師器 甕	(16.4)	-	(8.0)	口縁部内外面ヨコナデ、頸部ユビオナス、胴部内外 面ヘラナデ	①口縁～胴部破片②明赤褐色	
第110図 Pl. 20	SI-2	6	土師器 甕	(14.7)	-	(6.4)	口縁部ヨコナデ、胴部内外面ともにヘラナデ	①口縁～胴部破片②棕色	
第111図 Pl. 20	SI-2	7	土師器 甕	-	7.7	(3.4)	内外面ヘラナデ	①底部～胴部破片②外面棕色内面黒 褐色	
第112図 Pl. 20	SI-2	8	土師器 甕	-	7.2	(6.2)	胴部内外面ヘラナデ、底面ヘラナズリ。	①底面破片②明赤褐色	
第113図 Pl. 20	SI-2	9	土師器 甕	(21.0)	-	(15.0)	胴部外面荒いヘラナデ、胴部内面ヘラナズリ、粗 底あり	①口縁部～胴部破片②棕色	
第114図 Pl. 21	SI-2	10	土師器 甕	(21.4)	-	(8.8)	口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ともにヘラナデ	①口縁～胴部破片②明赤褐色	
第115図 Pl. 21	SI-2	11	土師器 小形甕	12.9	-	8.5	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ヘラナズリ内面ヘ ラナデ	①口縁部～胴部破片②棕色	
第116図 Pl. 21	SI-2	12	土師器 甕	13.4	-	6.9	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ内面増文	①口縁部～胴部破片②棕色	
第117図 Pl. 21	SI-2	13	土師器 甕	(13.7)	-	(6.2)	口縁部内外面ヨコナデ、胴内外面ヘラナデ	①口縁～胴部破片②明赤褐色	
第118図 Pl. 21	SI-2	14	土師器 甕	(8.0)	-	(8.0)	外口縁～胴上半部および口縁部内面に増文	①上半部②棕色	
第119図 Pl. 21	SI-2	15	土師器 高坪	19.4	14.2	13.8	口縁部ヨコナデ、外面及び坪部内面に増文	①ほぼ定形②棕色	
第120図 Pl. 21	SI-2	16	土師器 高坪	(18.0)	-	(5.3)	口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ、外面底面 ヘラナズリ	①坪部の1/2②棕色	
第121図 Pl. 21	SI-2	17	土師器 高坪	(15.2)	-	4.9	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面放射状の増文、外 面ヘラミガキ	①坪部の1/2②棕色	
第122図 Pl. 21	SI-2	18	土師器 高坪	18.0	-	(6.8)	口縁部内外面ヨコナデ、内面放射状の増文、外面縦 方向の増文	①坪部は欠損、脚部欠損②棕色	
第123図 Pl. 21	SI-2	19	土師器 高坪	(18.0)	-	(5.4)	口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、底面ヘラナ ズリ、内面放射状の増文	①坪部破片②棕色	
第124図 Pl. 21	SI-2	20	土師器 高坪	(21.8)	-	(5.7)	外面口縁部ヨコナデ、体部縦方向の増文、内面は荒 れが著しい。さめて強い段を有す	①坪部破片②棕色	
第125図 Pl. 21	SI-2	21	土師器 高坪	-	-	(3.8)	外面ハケメ、内面ヘラミガキ(増文小)	①坪部の下部破片②明赤褐色	
第126図 Pl. 21	SI-2	22	土師器 高坪	-	10.2	(6.6)	胴部内外面ヨコナデ、胴部外面斜行の増文、粗底 内面ナデ、胴部内面ユビオナス	①脚部②棕色	
第127図 Pl. 21	SI-2	23	土師器 高坪	-	-	(4.0)	外面増文、内面ヘラナデ	①脚部破片②棕色	
第128図 Pl. 21	SI-2	24	土師器 高坪	-	-	(8.8)	胴部外面縦増文、内面ヘラナデ	①脚部破片②棕色	
第129図 Pl. 21	SI-2	25	土師器 高坪	-	13.0	(9.0)	胴部内外面ヨコナデ、外面縦方向の増文、内面縦 筋ナデ、胴部ユビオナス	①脚部②棕色	
第130図 Pl. 21	SI-2	26	土師器 高坪	-	11.9	(8.5)	外面縦筋ヘラナデ、胴部ヨコナデ、内面脚部ヘラナ デ、胴部ヨコナデ	①脚部～下部破片②棕色	

第3表 竪穴住居跡出土遺物観察表・土器(3)

図面	出土地	番号	類別 器種	法量 (cm)			成形・整形技法等の特徴 (輪郭・文様の特徴)	①保存 ②色調 ③加工、焼成の特徴	備考
				口径	底径	高さ			
第123図 Pl. 21	SI-2	27	土師器 高杯	-	-	(8.0)	外柄線文、内面ヘラナゲ	①胴部釉片を被色	

第4表 竪穴住居跡出土遺物観察表・石製品

図面	出土地	番号	類別 器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	特徴	保存	備考
				幅	長さ	厚み					
第98図 Pl. 19	SI-1	39	石製品 磨石			1.5	19	窓紋岩	上縁(4.4)下縁(1.2)孔径1.8	1/2	
第99図 Pl. 19	SI-1	40	不明	6.1	13.3	3.5	453	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	41	不明	6.6	15.5	4.0	678	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	42	不明	8.8	16.7	5.6	1656	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	43	不明	6.4	8.2	4.0	222	安山岩		一端欠損	こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	44	不明	8.6	14.1	4.6	838	安山岩	火熱を受けた痕跡有、採付者		こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	45	不明	9.8	18.3	4.5	1135	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	46	不明	7.8	15.4	6.3	1213	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	47	不明	8.1	18.1	5.6	1105	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	48	不明	7.2	19.3	5.7	1049	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	49	不明	8.6	14.6	3.5	635	安山岩	端部側面に縦溝有		こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	50	不明	6.9	18.4	4.2	812	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	51	不明	6.0	13.4	3.9	480	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	52	不明	6.8	9.5	4.1	355	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	53	不明	5.9	16.5	5.6	1270	安山岩			こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	54	不明	6.9	15.6	4.9	760	安山岩	端部側面に縦溝有		こも層石か
第99図 Pl. 19	SI-1	55	不明	8.6	15.0	4.6	871	安山岩	両端部に縦溝有		こも層石か
第124図 Pl. 21	SI-2	28	不明	13.9	19.6	7.0	2760	安山岩	縦溝、端部縦溝		
第125図 Pl. 21	SI-2	29	不明	8.8	13.5	4.8	688	安山岩			こも層石か
第125図 Pl. 21	SI-2	30	不明	7.1	12.1	5.2	719	安山岩			こも層石か
第125図 Pl. 21	SI-2	31	不明	6.8	12.6	5.6	778	安山岩			こも層石か

にしあきやほうぼうじまえ

西明屋法峯寺前遺跡

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

高崎市立箕輪小学校の所在地は、国指定史跡箕輪城の南に接していることから同小学校校舎改築に伴って、平成27年3月に試掘調査（平成26年度試掘No.147）を実施したところ、新校舎建設予定地から溝、ピットなどの遺構が確認された。そのため、平成27年度に本調査を実施することとなった。

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境（第1図）

本遺跡は、榛名山東南麓に広がる扇状地に孤島状に北西から南東方向に残された台地を利用して築城された箕輪城の南面西寄りに位置している。箕輪城は南が東西の二か所に細長く分かれており、その西側尾根の下100m付近、標高約220メートルの地点が本遺跡である（第4図）。

本遺跡及び箕輪城の西には深い谷を形成する榛名白川、東には井野川が南流し、戦国末期に形成されたと考えられる箕輪城下の町並みは、この両河川に挟まれた扇状地に南北に細長く形成されている。

第2節 歴史的環境

本遺跡の周辺には、箕輪城のほか中世末期の城館址が複数認められる。

箕輪城は、戦国時代に高崎市北部を中心に活躍した長野氏が築造した平山城として江戸時代からその名を歴史に残し、近年の発掘調査により西暦1500年頃に築城されたことがわかっている（注1）。

長野氏は、戦国期の西上野において上杉方の最も重要な家臣であり、その中心的居城の箕輪城が越後、信濃と関東を結ぶ重要な位置にあったことから、再三にわたり武田氏による攻撃をうけ、永禄9年（1566）に落城し武田氏の支配下となった。しかし、武田氏の支配は長く続かず、武田勝頼が天正10年（1852）に没すると、箕輪城は織田氏の支配下となったが、同年本能寺の変により織田信長が没するとその後は北条氏の支配となった。北条氏が上野を含む北関東の覇者となったのち、天正18年（1590）豊臣秀吉の小田原攻めにより北条氏が滅び徳川家康が江戸に入府すると、後に佐和山城主を経て彦根城主となる井伊直政が家康家臣のなかで最大の領地（12万石）を与えられ、最後の箕輪城主となった。井伊直政は慶長3年（1598）に箕輪城を廃し、和田の地へ下り高崎城を築いている。

このように戦国時代末期に目まぐるしく城主が入れ替わるという変化の激しい歴史を持つ箕輪城周辺には、長野氏と直接的な関連をうかがわせるものなど中世以降の城館址が多数認められ、さらに箕輪城の南3キロメートルほどの早瀬川流域には、長野氏家臣の名の付くものなど複数の居館址があり、それらの発掘調査が行われた結果、14世紀から16世紀代の遺構が確認されている。

近世における土地利用を示すものとして、明治6年（1872）に作成された「壬申地券字引絵図」（注2）には、本遺跡地周辺が水田であったことが記されている。

第3節 基本土層（第3図）

本遺跡では、現代の擾乱土層の下に旧水田土壌と思われる鉄分沈着層が認められ（5層）、その下位にはA_s-Bの混土及びA_s-Bの一次堆積層が認められる。さらにその下層は、榛名山を給源とする火砕流堆積物を確認している。

このほか、本遺跡の特徴としてA_s-B混土を掘り込んで構築された溝等を覆い尽くすように複数の回の洪水があったことを認めることができる。洪水は、人頭大の礫を含むもの、径が5cm程度の礫を含むもの、径が1cm以下の小礫や砂礫からなるものなど複数のパターンがあり、エネルギーの異なる洪水が複数回あったことを示している。

第3章 検出した遺構・遺物

第1節 調査の概要

調査は、箕輪小学校の校舎予定地および道路予定地について実施した。調査区は北東方向から南西方向に長い、ほぼ平行した調査区2箇所のうち北側をA区、南側をB区とし、両調査区を東端で繋ぐ調査区をC区とするコ字状を呈するものとなった(第2図)。

北側にあるA区西寄りを除き、全域に複数回に及ぶ洪水層が認められ、その上下で複数の遺構が確認できた(第5図)。洪水層の下では複数の溝、水路のほか畑の畝間、鋤線による耕作痕及び谷地形があった。一方洪水層の上では竪穴遺構、溝、掘立柱建物跡とピット及び井戸が確認でき、洪水層を挟みその上下で異なる性格の遺構が検出された。

第2節 検出した遺構・遺物

(1) 溝

A区で5条(精査によりSD-2、3は土坑、SD-7は谷地形であることが判明したため除く。)、B区では1条確認し、C区ではA区から続きB区の東端で調査区外に伸びるSD-5、6とSD-1の3条確認した。

A区SD-4(第6図)は砂礫層で覆われており小規模な洪水により埋没したことがわかり、SD-8も同様に砂礫層で覆われているが、それ以前の洪水層を掘り込んで構築されており、一度洪水で埋没した地点を再度開発し利用したことがわかる(第10図)。

B区SD-1はB区中央東寄りから確認でき、西へ向かい低く傾斜している。この溝も砂礫層で覆われ洪水により埋没したことがわかるが、西端の土層断面から、一度埋没したものを掘りなおして利用したことがわかる(第21図)。

SD-5及び6(第26図) この2条の溝はA区の中央付近から東南に向かい低くなり、C区で大きく屈曲してほぼ南下し調査区外へ続いている。2条の溝は並行しており、底面のレベルが低いSD-5からSD-6に向かっての水口があり、SD-5からSD-6への給水がうかがわれることから、同時期に機能して同時に埋没し、その後復旧することなく廃絶されたことがわかる。ただし、SD-6はC区南寄りでは溝の一部を人為的に埋め(第27図 0-0') 流路を変更し東から続くC区SD-1に接合しなおしている。このSD-1もまたSD-5と並行して南へ続いている。

SD-5の遺物は内耳銅片、渡来銭、不明金属器片や古代の須恵器壺片などがあり、SD-6では渡来銭が出土している(第30図)。

(2) 竪穴遺構

A区では11基(SD-2、3は精査により竪穴遺構であることが確認されたが、調査時の記録との整合性を保つため略号はそのままと本項に含める。)、B区では3基が確認された。

平面形は長方形のものが多く、確認面からの深さも浅く底面が平坦なものが多い(第1表)。遺物を伴うものは少ないが、A区SK-4、7ではわずかであるが出土している(第18図)。

竪穴遺構の用途は不明だが、SD-4を掘込んで造られたSK-7の底部は抉られるように壁を掘込んでいることから土取りのための目的で掘られた可能性がある。

(3) ピット(小穴)

A区で150基(第8図)、B区で34基(第19図)確認された。これらの殆どは整列関係がみられず、掘立柱建物あるいは柵列といった地上の構造物を想定できるものは少なかった。確認されたピットは、

この地点を襲った複数回に及ぶ洪水層の上から掘られており、その覆土に柱痕を残すもの、底面から自然石を重ねて柱の高さを調節したピットもあった。

A区P-102から、永楽通宝(第18図)が出土している。

確認されたピットのなかで、形状、深さ、配列からA区では掘立柱建物、櫓列、B区では掘立柱建物を確認できた。A区の建物と櫓は近接しているものもあるが、主軸の方位と柱間の長さが揃っていない。また、B区の建物2棟の主軸の方位と柱間の長さも揃っていないことから、これらの掘立柱建物、櫓は同時期に存在した可能性は低いものと考えられる。

(4) 掘立柱建物

A区では1棟確認できた(第14図。SB-1。調査時はSA-1、2。)。桁行5間、梁間1間である。桁行の柱間は1.8mから1.9mほどだが、梁間は3.6mとなっている(第1表)。

B区では2棟確認された。SB-1(第23図、第2表)は桁行3間、梁間1間で、桁行の柱間は2.2m前後、梁間は3.95m。この建物の柱穴には小礫を三段に重ねたもの(P-19、22)、粘性土を底部に入れその上に礫を置くもの(P-21)があり、長さの異なる材を柱として利用するため底面の高さを調節したことがわかる。

SB-2(第24図、第2表)は桁行2間、梁間2間と思われ、桁行、梁間とも柱間は2.25mである。SB-2の柱穴の深さは確認面から浅く、北辺の柱穴は削平されたと考えられる。

(5) 櫓列

A区で3基(第8図、第1表)の櫓列を確認した。この3基もそれぞれ方位、柱間の間隔が異なり同時期に存在したとは認めがたい。

(6) 井戸

C区で1基確認された(第31図。調査時はSK-1とした。)。底面まで確認できなかったが、洪水層に埋没したSD-5を掘り込んで作られている。出土遺物は、15世紀末から16世紀前半と考えられるカワラケ、志戸呂焼き皿などの陶器及び小片の染付皿などの磁器、漆製品(PL22)がある。

(7) その他の遺構

① 谷状落ち込み

調査当初はA区SD-7としたが、その後の精査により、溝ではなく谷状に落ち込む地形であることが判明した。この谷状地形は最下部まで確認できなかったが、覆土の上位近くまで人頭大の礫により埋没していること、上位にはラミナ状の砂粒の堆積が認められること、上端の内側が抉られていることなどから、かなり強い力の洪水があったことが認められる(第26図)。

② 耕作痕

谷地形であるSD7が洪水により埋没した後、最上面に若干の黒色土の堆積があり、その黒色土の上面に鋤痕が確認され、埋没後の谷地形を農耕に利用した痕跡が認められる(PL25)。

③ 烟跡

B区西寄りの地点で、南北方向の畝間を二本確認した。畝間は、As-B混土層を掘り込んで作られている。覆土は砂粒中心で、洪水由来のものと認められる。B区SB-1の柱穴の一つは埋没後の畝間を掘り込んでいる(第19図)。

④石垣遺構（第17図、PL. 24）

A区西端で北西から南東へつながった石列を確認した。調査時に石垣遺構としたが、実際には石を組み上げているというよりは石を一列に並べているものであると推定される。この石列より東側の土はやや締りがあり、その下には鉄分沈着層がある（第17図SPA-A'）ことから、中世以降のいずれかの時期における水田の西端、あるいは隣の水田との境界を示すためのものであると考えられる。

第3節 小結

本遺跡の特徴は、調査区の殆どが洪水層に覆われており、その洪水層を挟んだ下層と上層で土地利用の方法が異なることにある。

洪水層で埋没しているSD-5、6は、調査地とその南に水を供給する施設であったと考えられ、さらに周囲から農耕の痕跡も検出したことから、中世における本遺跡地の開発は、畑作及び水利の地点として始まったと考えられる。しかし、複数回の洪水により畑、水路が埋没し、農業生産の場としての機能を失うことになった。その後、16世紀後半までには土取り用と思われる竪穴遺構が掘られ、次いで掘立柱遺構が建ち、井戸も掘られるなど土地利用形態が変化している。中でも掘立柱建物3棟は、いずれも主軸の向きが一致していないこと、柱間の長さも各々異なることから同時期に建てられた可能性は低いものである。この掘立柱建物は箕輪城直下にあり、永禄9年長野氏滅亡後は城主が再三交代していることから、城主交代の都度それぞれの必要に応じて建てられた可能性が考えられる。さらに、SD-5の埋没後に掘られた井戸址（C区SK-1）の覆土から香さじ、漆製品など武士階級の生活にかかわりの深いものが出土しており、この地の利用目的の変化には、直接的な利用者が農耕従事者から武士に変化したことに理由を求めることが可能であろう。このことは、「ドウギ」と呼ばれているこの地が「道具屋敷」とも呼ばれており（注3）、箕輪城直下という位置関係からも城の維持、活動と深い関連のある施設が設けられていた区域である可能性が高いことからも考えられるものである。

次に本遺跡で確認できる特徴は、掘立柱建物の構築時の柱穴に柱の高さを調節のための礎を重ねていることがあげられる。これは、掘立柱建物を構築する際に同一の長さの柱材を用意できなかったためと考えられ、その理由は柱材を十分に確保できなかった、構築を急いだため手近な材を用いたなどがあげられる。前者であれば構築時における周辺の植生、建物の重要性が鍵となり、後者であれば建物の性格、必要の緊急度が鍵となるものであるが、それらは今後の周辺地域の調査が深まった時点で明確となるであろう。

一方、15世紀から16世紀にかけ幾度かの洪水に見舞われ、その後箕輪城と関連の深い施設が建てられたこの地も、箕輪城廃城後の近世以降は水田として再度開墾され再び生産の場に戻っている。

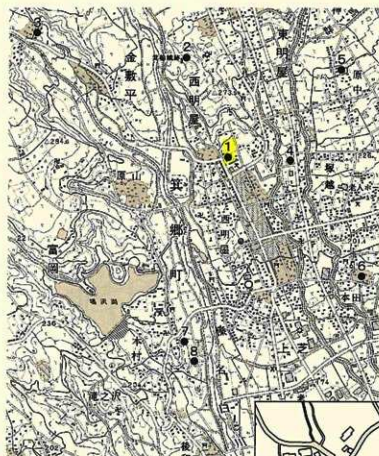
注1 高崎市教育委員会 2008「史跡箕輪城跡Ⅷ 史跡箕輪城跡内容確認調査報告書」

注2 群馬県立文書館蔵「壬申地赤字引絵図」

注3 金井恒好 1970「箕輪用水祭戸出入一件」『群馬文化第106号』群馬文化の会

参考文献

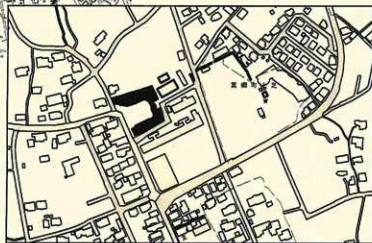
- 小野正敏 1981「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会
 高崎市 1996『新編高崎市史』資料編3 中世1
 藤澤良祐 1991「城館出土の瀬戸・美濃大窯製品」『中世の城と考古学』新人物往来社
 森田 勉 1981「14～16世紀の白磁の形式分類と編年」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会



第1図 周辺の遺跡

0 1:25000 500m

- 1 西明屋法峯寺前遺跡
- 2 箕輪城
- 3 下善地の内出
- 4 横道下遺跡
- 5 原中の内出
- 6 生原の内出
- 7 童子山の惣
- 8 稲荷山の惣



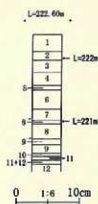
第2図 調査図位置図

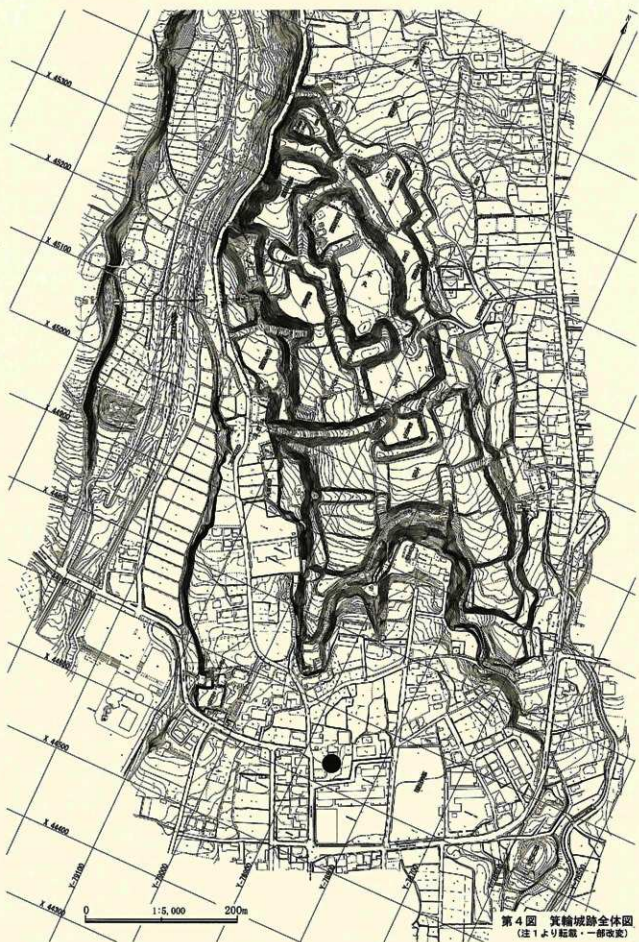
0 1:5000 100m

基本上層柱状図

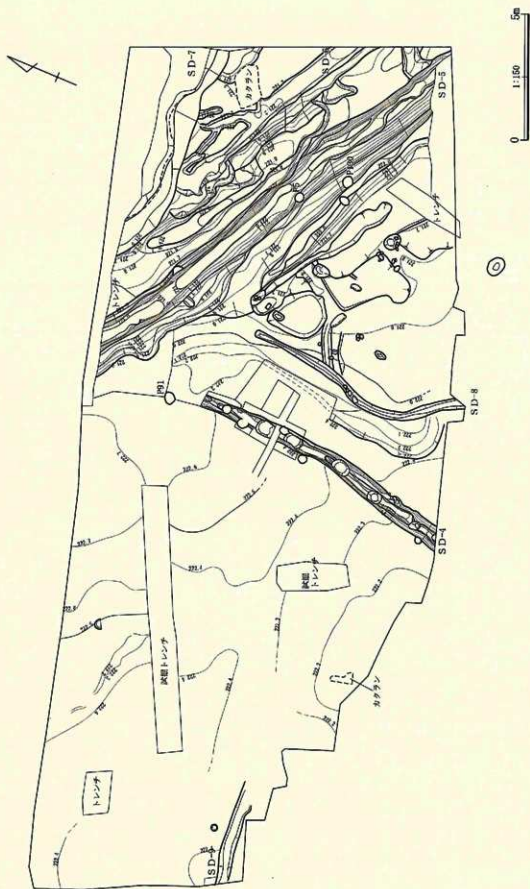
- 1 に深い黄褐色土(10YR4/3) やや粘性有、締る、As-B混入する(Aa-B不明)、白色系バミス粒雜らに含む、炭片(小)微量、総厚大抵以下少量。
*ピニール、瓦片(現代)見られる。
- 2 に深い黄褐色土(10YR5/3) やや粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒雜らに含む、炭片(小)微量。
- 3 灰黄褐色土(10YR5/2) やや粘性有、締る、シルト質、炭雜物は少ない(Aa-B・白色系バミス粒少量)、水田耕作土であろう。
- 4 に深い黄褐色土(10YR5/3) やや粘性有、締る、シルト質、As-B・白色系バミス粒(径5mm以下)雜らに含む、ごく希薄に炭分沈着。
- 5 4と同様、炭分沈着顯著、水田耕作土。
- 6 に深い黄褐色土(10YR4/3) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒雜らに含む、炭片(径1cm以下)少量。
- 7 に深い黄褐色土(10YR5/3) やや粘性有、締る、As-B混入する、砂粒含む、白色系・黄色系バミス粒雜らに含む、ごく希薄に炭分沈着。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒雜らに含む、砂粒含む、炭片(小)微量、黄色系シルト質土(10YR6/3・10YR5/3)ブロック状少量。
- 9 黒褐色土(10YR3/1) 粘性無し、締る、As-B中に混入する。
- 9' 砂礫 基層色シルト質土(10YR3/1・10YR3/2)含む。
- 10 As-B一次堆積層。
- 11 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、シルト質、炭雜物多量加し(白色系バミス粒微量)。
- 12 に深い黄褐色土(10YR5/2) やや粘性有、やや締る、炭雜物多量加し、一坪程度のみ。

第3図 基本土層柱状図

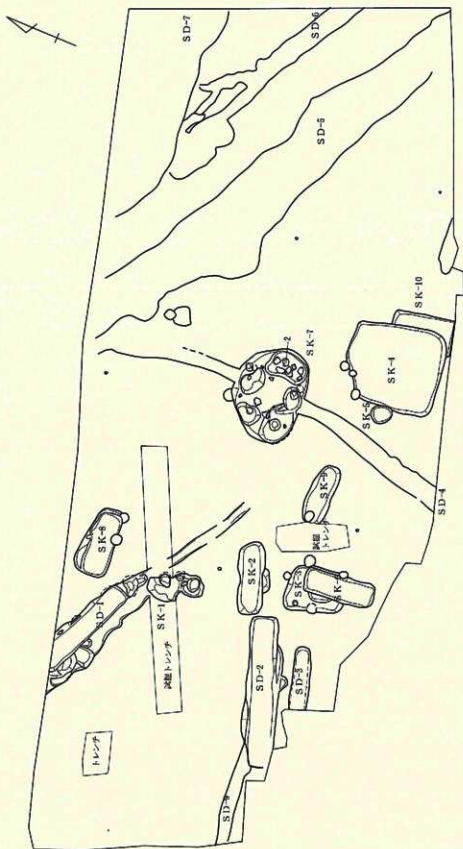




第4圖 箕輪城跡全体圖
(注1より転載・一部改変)

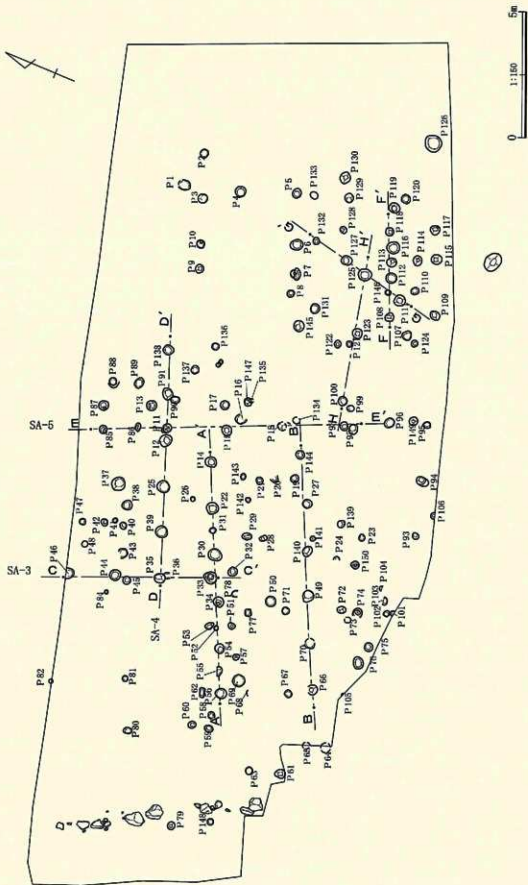


第6図 A区SD全体図

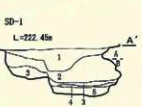
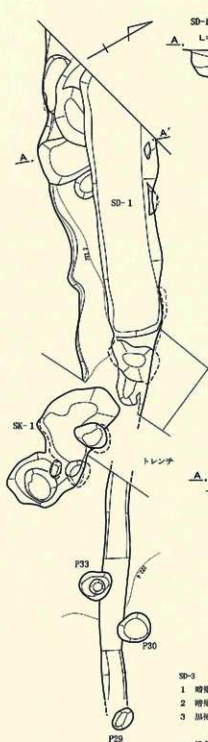


0 1:100 50m

第7図 A区SK全体図



第8図 A区ピット全体図

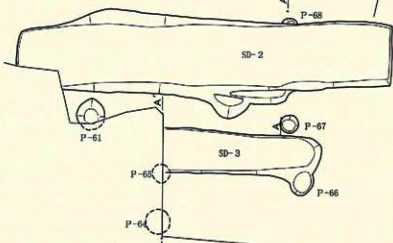


SD-1

- 1 におい黄褐色土(10YR4/3) 壁か柱、やや締まる。As-B面に混入。白色系バミス粒φ2mm以下少量。
- 2 におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。As-B混入。白色系バミス粒φ5mm以下少量。地山(A-B)ブロック(φ3cm以下)疎らに含。
- 3 におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。As-B混入。白色系バミス粒φ5mm以下少量。地山ブロック(φ2cm以下)やや密に含。
- 4 におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。As-B混入。白色系バミス粒φ5mm以下少量。地山ブロック状密に多量。
- 5 におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。As-B混入。白色系バミス粒φ1cm以下少量。地山ブロック(φ1cm以下)少量。

地山土

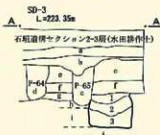
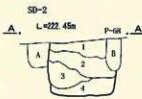
- A におい黄褐色土(10YR4/3) シルト質。混入物ほとんど無し。
 B におい黄褐色土(10YR5/3) 混入物ほとんど無し。



SD-2

* SD-2・3は土坑である

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 傾か粘、やや締まる。As-B面に混入。地山(A-B)ブロックφ1cm以下含。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) やや粘、やや締まる。As-B面に混入。地山ブロック状密に含。
 - 3 灰黄褐色土(10YR4/2)におい黄褐色土(10YR4/3) 傾か粘、やや締まる。As-B面に混入。地山ブロック状φ1cm以下含。
 - 4 灰黄褐色土(10YR4/2)におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。As-B面に混入。地山ブロック状密に含。
- A 暗褐色土(10YR3/3) やや粘、やや締まる。As-B面に混入。黒色系地山土(A)ブロック状含。
 B におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。シルト質。土質粗い。As-B面。炭片-能土ブロック(小)疎らに含。・・・P-68覆土
- 地山土
 A 黒褐色土(10YR2/2-2/2) 粘なし、締まる。As-B混入。
 B As-B面
 C 灰黄褐色土(10YR4/2) におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まり弱。シルト質。
 D におい黄褐色土(10YR5/3-5/4) シルト質。

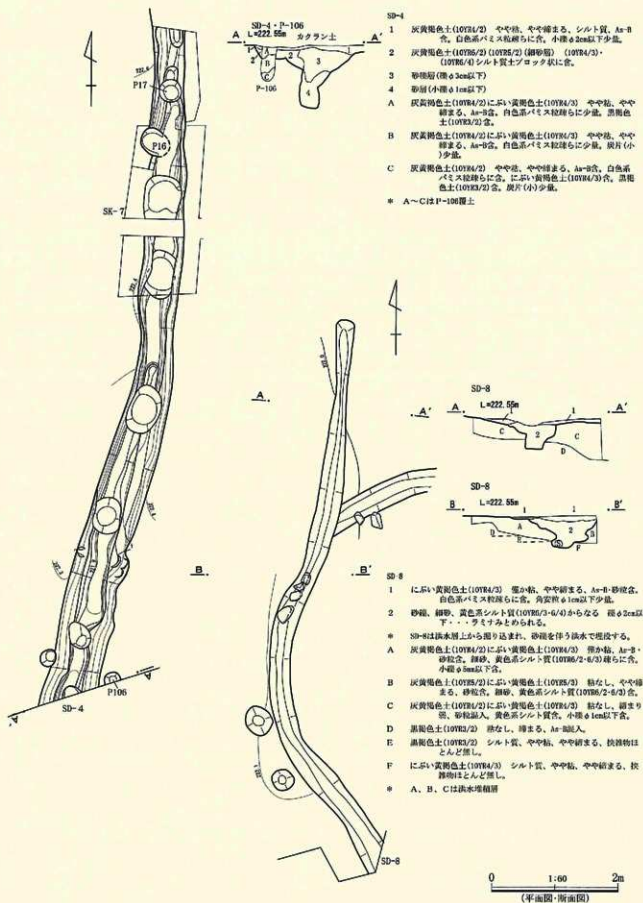


SD-3

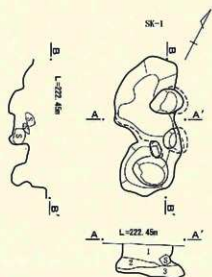
- 1 暗褐色土(10YR3/3) 粘なし、締まる。As-B面に混入。
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 粘なし、締まる。As-B面に混入。地山土(10YR4/3)シルト質。地山土)ブロック状やや密に含。
 - 3 黒褐色土(10YR2/2)暗褐色土(10YR3/3) 粘なし、締まる。As-B面に混入。地山土含。地山土(10YR4/3)シルト質)ブロックφ2cm以下疎らに含。
- a におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、良く締まる。As-B面。白色系バミス粒φ1cm以下疎らに含。炭片(小)少量。
 b におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。土質ブロック状疎らに含。炭片疎らに含。As-B面。
 c におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。As-B面。炭片ブロックφ1cm以下。炭片(小)疎らに含。・・・P-65覆土
 d におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、やや締まる。As-B面。炭片(小)疎らに含。炭土ブロック(小)少量。黒褐色土(10YR3/2)少量。・・・P-64覆土
- e におい黄褐色土(10YR5/3) やや粘、締まる。土質に河石。As-B面。白色系バミス粒φ2mm(As-C)角質φ1cm以下疎らに含。
 * 上層部に炭、炭片、能土ブロック含む箇所あり。
 f におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘、締まる。As-B面。白色系バミス粒φ2mm(As-C)角質φ1cm以下疎らに含。
 g 黒褐色土(10YR2/2)暗褐色土(10YR3/3) 傾か粘、締まる。As-B面に混入。
 h 黒褐色土(10YR2/2) 粘なし、締まる。As-B混入。
 i におい黄褐色土(10YR4/3) シルト質。(地山)
 j 褐色土(10YR4/4) シルト質。砂粒φ2mm以下含。角質φ1cm以下含。
 * ビットはe層上から掘られる。ビット及び上層には流土-炭が疎らに含まれる。



第9図 A区SD-1・2・3平面図・断面図



第10図 A区SD-4・8平面図・断面図

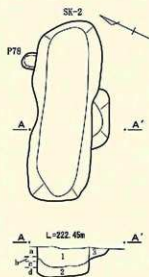


SK-1

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘、やや締まる。As-B層に混入。白色系ベニス粒φ3mm以下球状に含。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘、やや締まる。As-B層に混入。地山Aブロック状ややや密に含。地山Bブロック状に少量。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘、やや締まる。As-B層に混入。地山Aブロック状密に多量。地山Bブロック状に含。

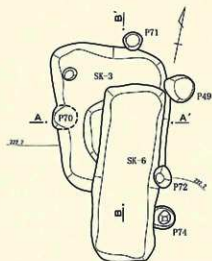
* 地山

- a におい黄褐色土(10YR4/2) シルト質。混入物ほとんど無し。
 B におい黄褐色土(10YR5/3) 混入物ほとんど無し。



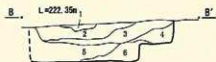
SK-2

- 1 暗褐色土(10YR3/2) 僅か粘、やや締まる。As-B層に混入。黒色系・黄色系地山土ブロックφ1cm以下少量。
 - 2 暗褐色土(10YR3/2) 僅か粘、やや締まる。As-B層に混入。黒色系・黄色系地山土ブロック状密に含。
 - 3 暗褐色土(10YR3/2) 僅か粘、やや締まる。As-B層に混入(1、2よりやや密)。黒褐色土(10YR3/2) 含。
- a 黒褐色土(10YR3/2) As-B層に混入。
 b As-B層
 c 黒褐色土(10YR3/2) シルト質土
 d におい黄褐色土(10YR4/2) シルト質土



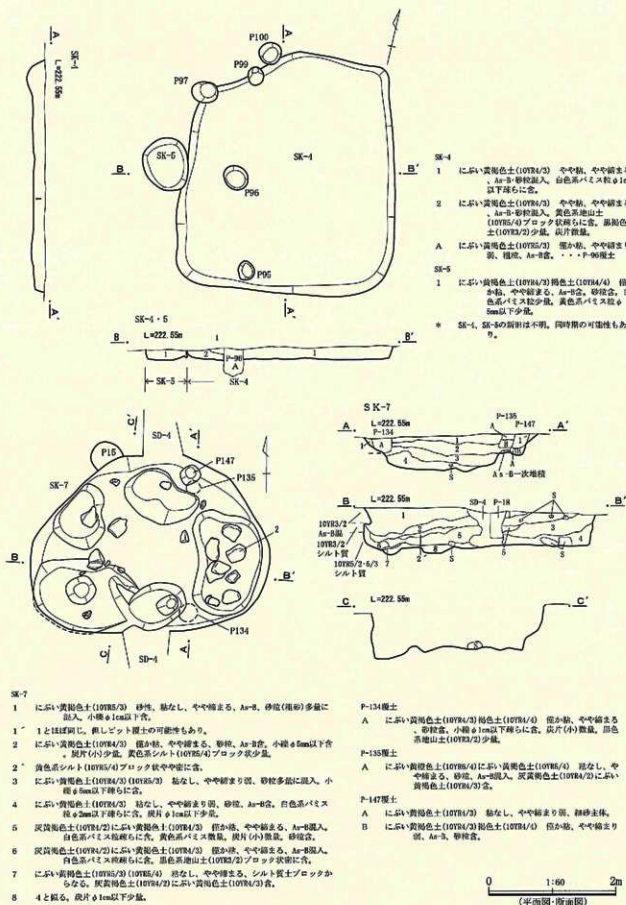
SK-3

- 1 におい黄褐色土(10YR5/3) やや粘、やや締まる。As-B層に含。炭、炭土ブロック密に含。
 - 2 におい黄褐色土(10YR5/3) やや粘、やや締まる。As-B層に含。
 - 3 におい黄褐色土(10YR5/3) やや粘、やや締まる。As-B層に含。黒褐色土(10YR3/2) 混入。
 - 4 暗褐色土(10YR3/2) 粘なし、やや締まる。As-B層に混入。地山土(10YR5/1シルト質)ブロック状やや密に含。
 - 5 灰黄褐色土(10YR4/2) 僅か粘、締まる。As-B層に混入。
 - 6 灰黄褐色土(10YR4/2) 僅か粘、締まる。As-B層に混入。地山土(10YR3/4、10YR3/2シルト質)ブロック状密に含。
- A におい黄褐色土(10YR4/2) やや粘、やや締まり密。黒褐色土(10YR3/2) 含。炭片φ1cm以下。炭土ブロック(小)少量。・・・P-70層土

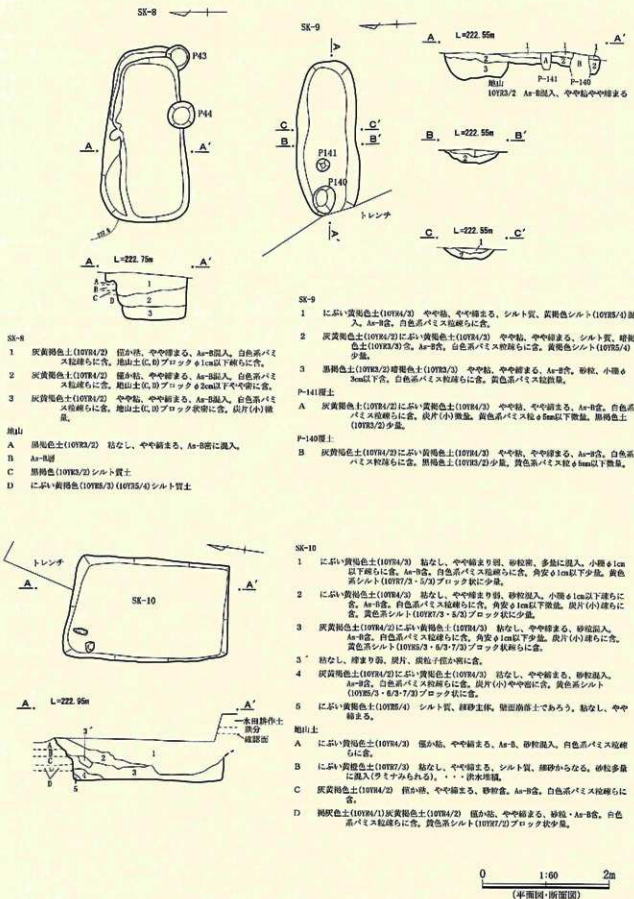


0 1:60 2m
 (平面図・断面図)

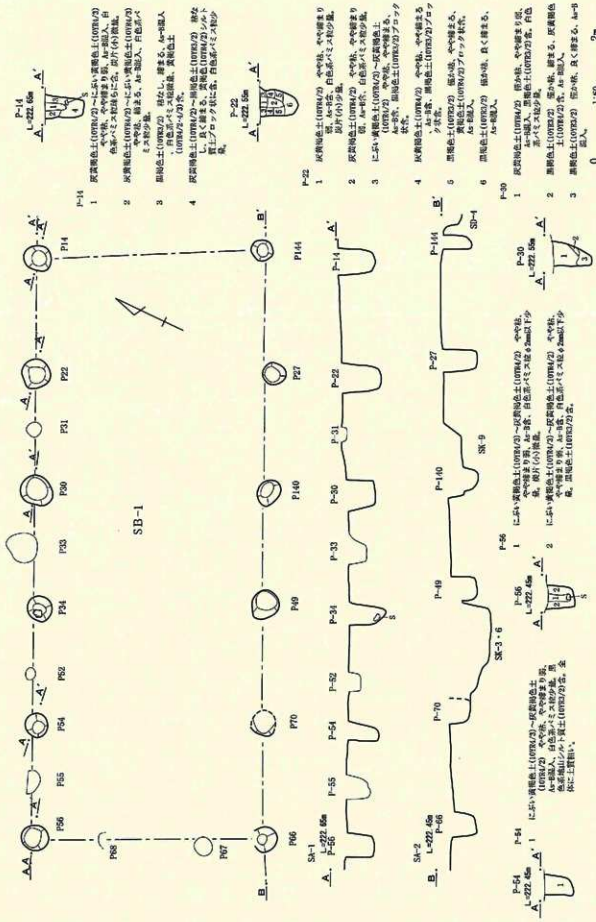
第11図 A区SK-1~3・6平面図・断面図



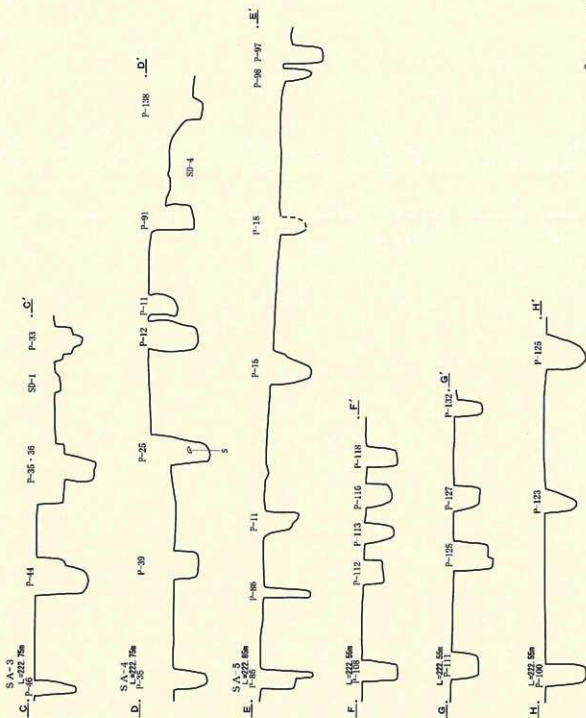
第12図 A区SK-4・5・7平面図・断面図



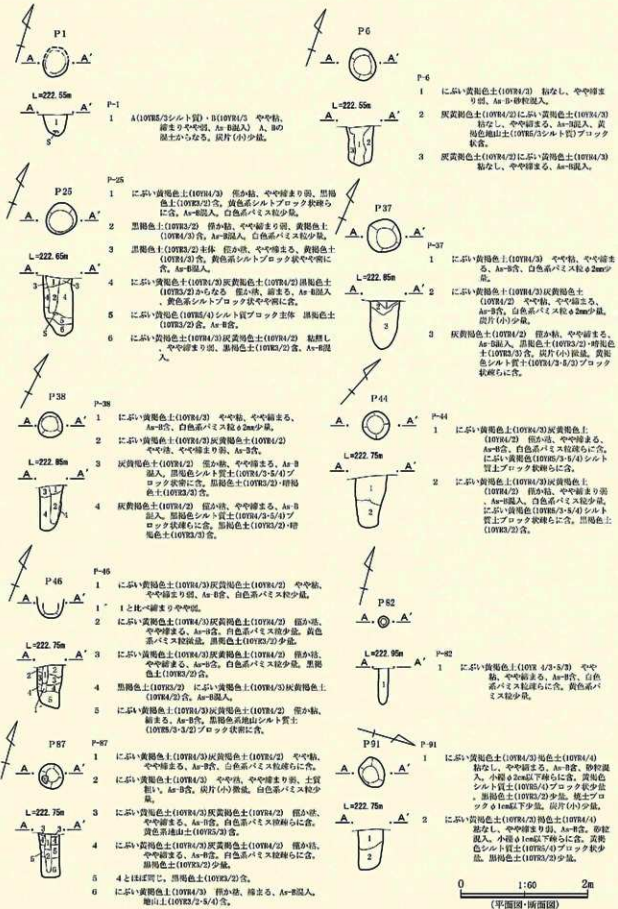
第13図 A区SK-8・9・10平面図・断面図



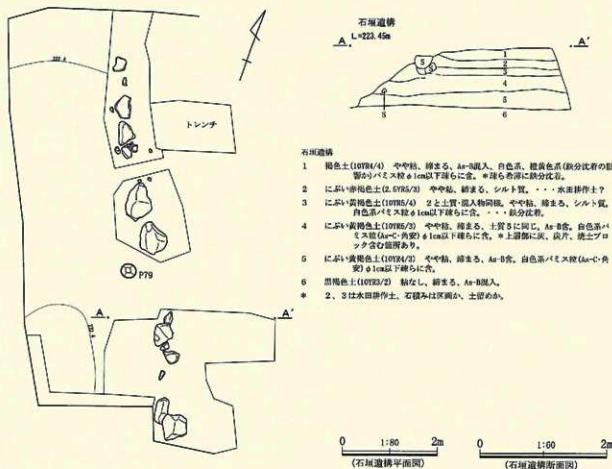
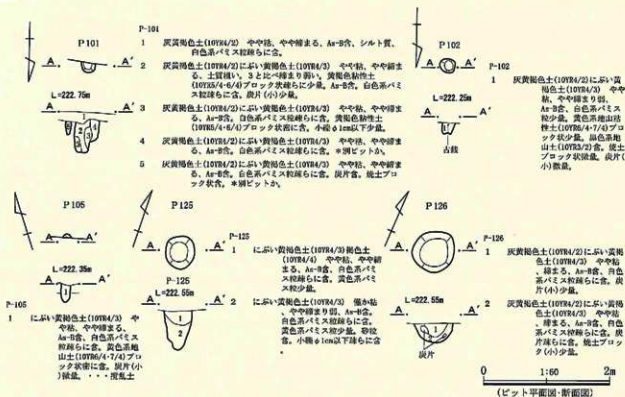
第14図 A区SB-1断面図・断面図 (平野部・新断面)



第15図 A区SAエレベーション図



第16図 A区ピット1~91平面図・断面図



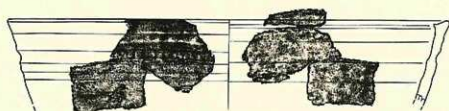
第17図 A区ピット101~126・石垣遺構 平面図・断面図

第1表 掘立柱建物・竪穴遺構一覧

SB-1	第5回・第14回	位置	A区中央西寄	重複関係	—	主軸	N-66°-W
平面形態	長方形	規模	東西・9.30	南北・3.60			
東辺	P-14~3.60~P-144	南辺	P-66~1.90~P-70~1.95~P-49~1.75~P-140~1.85~P-27~1.85~P-144				
西辺	P-56~2.60~P-66	北辺	P-56~1.80~P-54~1.85~P-34~1.90~P-30~1.85~P-22~1.90~P-14				
各ピットの深さ	P-14・0.60 P-114・0.45 P-56・0.45 P-66・0.40 P-70・0.35 P-49・0.40 P-140・0.50 P-27・0.55 P-54・0.50 P-34・0.55 P-30・0.45 P-22・0.60						
所見	調査時はSA-1、SA-2としたもの。						
SA-3	第8回	位置	A区中央西寄	重複関係	—	主軸	N-22°-W
規模	南北・5.70~						
辺の長さ	P-46~1.90~P-44~1.75~P-35~2.05~P-33						
各ピットの深さ	P-46・0.65 P-44・0.85 P-35・0.50 P-33・0.40						
SA-4	第8回	位置	A区中央北寄	重複関係	—	主軸	N-69°-E
規模	東西・9.00~						
辺の長さ	P-25~1.80~P-39~1.85~P-25~1.80~P-12~1.90~P-91~1.75~P-138						
各ピットの深さ	P-35・0.50 P-39・0.40 P-25・0.60 P-12・0.80 P-91・0.70 P-138・0.15						
SA-5	第8回	位置	A区中央	重複関係	—	主軸	N-24°-W
規模	南北・9.00~						
辺の長さ	P-85~1.35~P-86~1.15~P-11~4.70~P-18~2.40~P-98						
各ピットの深さ	P-85・0.80 P-86・0.75 P-11・0.55 P-18・0.40 P-98・0.40						
所見	主軸の方向からSB-1と関わり可能性あり。						
SK-1	第11回	位置	A区西側	重複関係	—	主軸	N-155°-E
平面形態	不整形	時期	埋没土から15c後半~16c	長軸・短軸	2.20・1.10	深さ	0.55
断面形態	基底面は若干凸凹・立上りは不定						
SK-2	第11回	位置	A区西側	重複関係	—	主軸	N-70°-W
平面形態	長方形	時期	埋没土から15c後半~16c	長軸・短軸	2.85・1.20	深さ	0.50
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはほぼ垂直						
SK-3	第11回	位置	A区南西	重複関係	SK-6→SK-3 →P-70	主軸	N-13°-W
平面形態	不整形	時期	埋没土から15c後半~16c	長軸・短軸	2.35・1.80	深さ	0.35
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはほぼ垂直						
SK-4	第12回 / PL23	位置	A区南側	重複関係	SK-4→P-96	主軸	N-8°-W
平面形態	不整形	時期	埋没土から15c後半~16c	長軸・短軸	3.85・3.45	深さ	0.20
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはやや外傾する						

* 表中遺構の計測値の単位は特に表記の無いものは「m」である。以下同様。

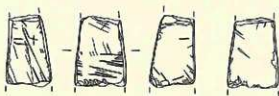
SK-5	第12回	位置	A区南側	重複関係	SK-4と同時期の可能性もあり	主軸	N - 10° - W	
平面形態	不整形四角形	時期	埋没土から15c後半～16c		長軸・短軸	0.95・0.70	深さ	0.15
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはやや外傾する							
SK-6	第11回	位置	A区西側	重複関係	SK-6→SK-3	主軸	N - 6° - W	
平面形態	長方形	時期	埋没土から15c後半～16c		長軸・短軸	2.85・1.05	深さ	0.60
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはほぼ垂直							
SK-7	第12回 / PL24	位置	A区中央	重複関係	SD-4→SK-7	主軸	N - 90° - E	
平面形態	不整形四角形	断面形態	基底面は若干凸面・立上りはやや外傾する		長軸・短軸	3.80・2.80	深さ	0.70
所見	カワラケ出土。構築時期は出土遺物等から16cか。							
SK-8	第13回	位置	A区北側	重複関係	-	主軸	N - 90° - E	
平面形態	長方形	時期	埋没土から15c後半～16c		長軸・短軸	2.80・1.40	深さ	0.75
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはほぼ垂直							
SK-9	第13回	位置	A区中央西寄	重複関係	-	主軸	N - 89° - E	
平面形態	楕円形	時期	埋没土から15c後半～16c		長軸・短軸	2.40・1.00	深さ	0.45
断面形態	上部が関く「U」状							
SK-10	第13回	位置	A区中央南	重複関係	SK-10→SK-4	主軸	N - 8° - W	
平面形態	長方形	時期	埋没土から15c後半～16c		長軸・短軸	2.50～・1.65	深さ	0.65
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはほぼ垂直							
SD-2	第9回	位置	A区西側	重複関係	SD-2→P-68	主軸	N - 77° - E	
平面形態	長方形	時期	埋没土から15c後半～16c		長軸・短軸	6.00・1.30	深さ	0.90
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはほぼ垂直							
SD-3	第9回	位置	A区西側	重複関係	-	主軸	N - 78° - E	
平面形態	長方形	時期	埋没土から15c後半～16c		長軸・短軸	2.50～・0.70	深さ	0.55
断面形態	基底面はほぼ平坦・立上りはほぼ垂直							



SD2-1



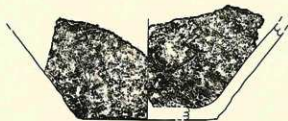
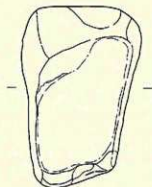
D
SK4-1



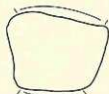
SD2-2



SK7-1



ビット32-1



SK7-2



ビット102-1



西端-1



西端-2

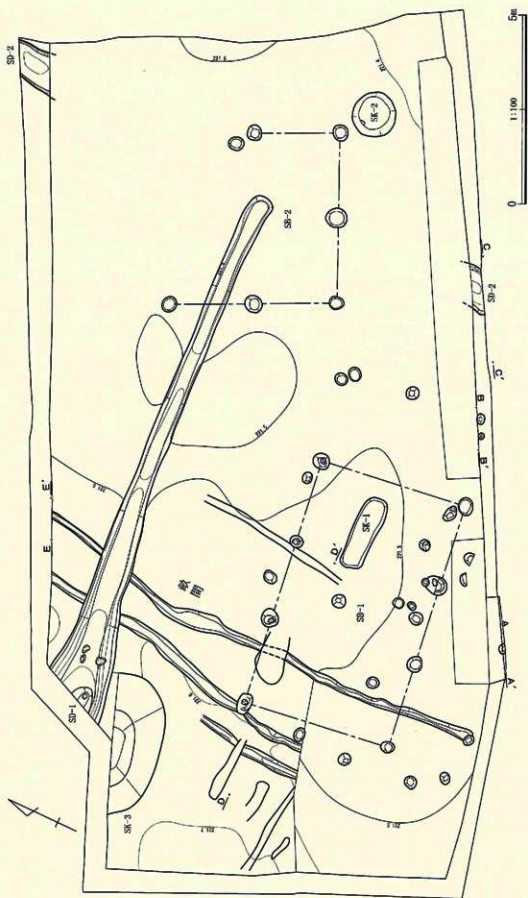


(古銭)



(出土遺物)

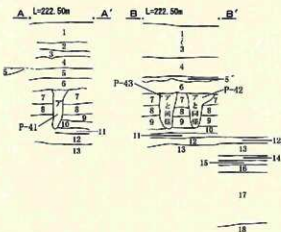
第18図 A区出土遺物



第19图 B区全体图

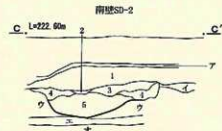
A'-B'-

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト質、粘性有、締る、As-B含む、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む。
- 2 近い黄褐色土(10YR6/3) シルト質、粘性有、締る、As-B含む、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、ごく希薄に炭分混る。
- 3 褐色土(10YR4/4) シルト質、粘性有、締る、As-B含む、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、希薄に炭分混る。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、As-B含む、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、炭片(小)疎らに含む。
- 5 近い黄褐色土(10YR6/3) やや粘性有、締る、As-B含む、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、炭片(小)混る。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 僅かに粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、小礫(径1cm以下)疎らに含む、炭片(小)混る。
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) 僅かに粘性有、やや締る、砂質土、As-B混入する、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、小礫(径5mm以下)疎らに含む。
- 8 褐色土(10YR4/4) 土質、混入物と同様、ごく希薄に炭分混る。
- 9 黒褐色土(10YR3/2) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する(As-Bはあまり汚れない)。
- 11 As-B層
- 12 黒褐色土(10YR3/2) シルト質、やや粘性有、やや締る、炭粒物ほとんど無し。
- 13 近い黄褐色土(10YR6/3) 土質等同上。
- 14 近い褐色土(7.5YR5/4) シルト質、やや粘性有、やや締る、炭粒物ほとんど無し、白色系バミス粒・小礫(径5mm以下)少量。
- 15 黒褐色土(10YR3/2) 僅かに粘性有、やや締まり弱い、砂粒混入する、小礫(径5mm以下)やや密に含む(礫に混ざって角安立つ)。
- 16 近い黄褐色土(10YR6/3) 土質15と同じ、砂粒混入する、小礫(径5mm以下)疎らに含む(礫に混ざって角安立つ)。
- 17 近い黄褐色土(10YR6/3) 砂質、粘性無し、硬い、砂礫混入する、礫土以下。
- 18 色濁・土質17と同様、礫(径50mm以下)密に混入する。



ピット掘土

- ア 灰黄褐色土(10YR4/2)・近い黄褐色土(10YR6/3) 僅かに粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒・小礫(径5mm以下)疎らに含む。



南壁SD-2 C-C'

- 1 近い黄褐色土(10YR6/3) やや粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、角安粒(径5mm以下)少量、炭片(小)混る。*基本土層A-4・B1に対応ピット線より新しい。
- 2 砂礫層 礫(径1cm以下)
- 3 近い黄褐色土(10YR6/3・10YR5/4)・近い黄褐色土(10YR6/3) やや粘性有、締る、シルト質、細砂含む、As-B・白色系バミス粒少量。
- 4 近い黄褐色土(10YR6/3・10YR4/3) やや粘性有、締る、シルト質、小礫(径1cm以下)少量、As-B・白色系バミス粒少量、炭片(小)混る。
- 5 砂礫層(径径3cm以下) 細砂・シルト質土(10YR5/3・10YR4/3)含む。
- ア 褐色土(10YR4/4) シルト質土、粘性有、締る、As-B含む、白色系バミス粒(径2mm以下)疎らに含む。
- イ 近い黄褐色土(10YR4/3) シルト質土、粘性無し、締る、As-B混入する、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、小礫(径1cm以下)疎らに含む、炭片(小)混る。
- ウ 暗褐色土(10YR3/3) 僅かに粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、小礫(径5mm以下)疎らに含む。
- オ 褐色土(10YR4/4) 土質・混入物と同様、ごく希薄に炭分混る。

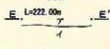
島跡



島跡 D-D'

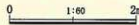
- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性無し、やや締まり弱い、黄色系シルト(10YR5/3)洪水由来、細砂混入する、1"砂粒含む。*洪水層(基本土層A-4と隣接部)で埋没する。
- A 黒褐色土(10YR3/2) 粘性無し、締る、As-B混入する。
- B As-B一次堆積層。
- C 黒褐色土(10YR3/1) シルト質、炭粒物殆ど無し。

島跡

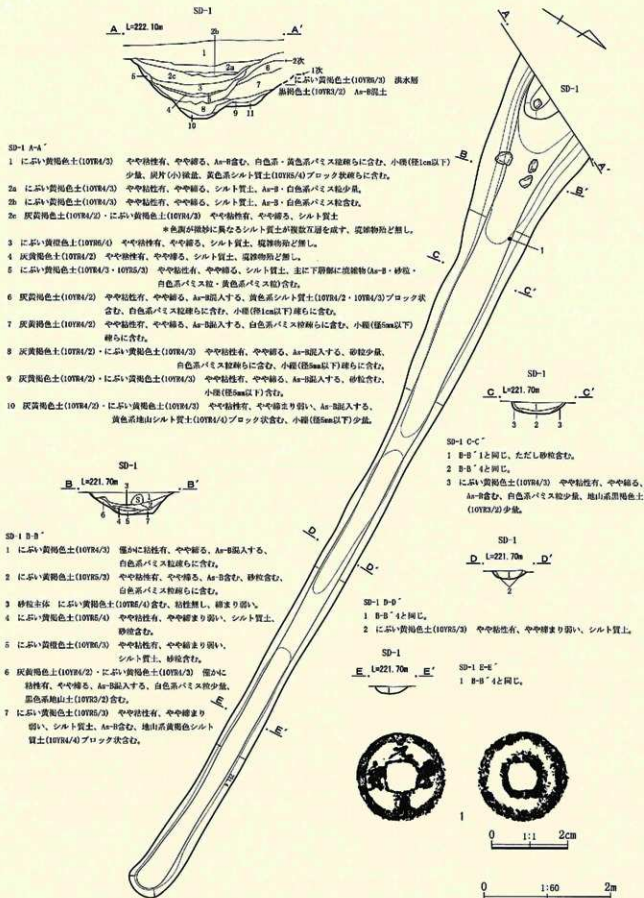


島跡 E-E'

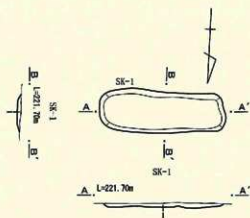
- 1 砂粒含む。
- ア 近い黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、角安(径1cm以下)少量、炭片(小)混る。
- イ 近い黄褐色土(10YR5/3・10YR6/4) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、砂粒含む、白色系バミス粒(径5mm以下)疎らに含む、角安粒(径5mm以下)少量、ごく希薄に炭分混る。*洪水と隣接、また基本土層A-4と隣接か。
- ウ 黒褐色土(10YR3/2) 粘性無し、締る、As-B混入する。
- ク As-B一次堆積層。
- オ 黒褐色土(10YR3/1) シルト質、炭粒物殆ど無し。



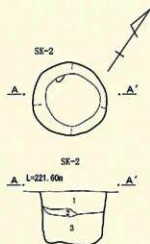
第20図 基本土層・南壁SD-2・島跡 断面図



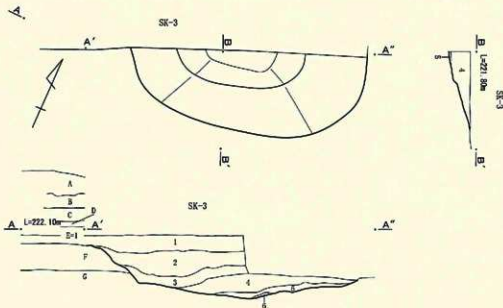
第21図 SD-1 平面図・断面図・出土遺物



SK-1
1 灰黄褐色土(10YR4/2)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミヌ粒砂らに含む、黒色系地山土(10YR3/2)ブロック状散見。



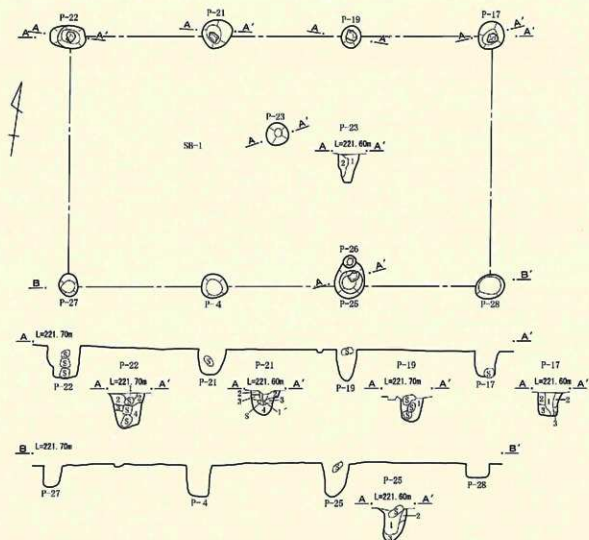
SK-2
1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性有、やや締る、シルト質土、埴埴物類と無し。
2 砂層(埋砂)
3 にぶい黄褐色土(10YR5/4・10YR5/3) やや粘性有、やや締る、黄褐色系シルト質土及び砂粒散見層をなす。



SK-3 *性格不明、掘込みも不明瞭で原形性に乏しい、SD-1と重複し本遺構が古い。
1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミヌ粒砂らに含む、小礫(径5cm以下)層らに含む、炭片(小)散見。
2 にぶい黄褐色土(10YR4/2) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミヌ粒砂らに含む、小礫(径1cm以下)層らに含む、炭片(小)散見、砂粒含む、黒褐色系地山土(10YR3/2)・黄褐色系シルト質土(10YR5/3・6/3・7/4)ブロック状層らに含む。
3 にぶい黄褐色土(10YR5/2) 粘性無し、やや締る、砂質土、As-B含む、小礫(径1cm以下)層らに含む、黒褐色系地山土(10YR3/2)ブロック状やや密に含む、黄褐色系シルト質土(10YR6/3・7/4)ブロック状含む。
4 黒褐色土(10YR3/2)・灰黄褐色土(10YR4/2)・にぶい黄褐色土(10YR4/3)ブロック状混土 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミヌ粒砂らに含む、にぶい黄褐色土(10YR6/4)ブロック状層らに含む。
5 灰黄褐色土(10YR4/2)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミヌ粒砂らに含む、にぶい黄褐色土(10YR6/4)ブロック状層らに含む。
6 にぶい黄褐色土(10YR7/2) 細砂層。
A 表土
B 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締まり弱い、シルト質土、埴埴物類と無し。
C にぶい黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、締る、As-B含む、白色系バミヌ粒砂らに含む、ごく希薄に鉄分沈着。
D Cと同層、鉄分沈着顕著。
E 1と同層。
F にぶい黄褐色土(10YR5/2) 粘性無し、締る、シルト質土・埋砂から成る臥水層(基本土層A・Bの8層と併行)。
G 黒褐色土(10YR3/2) As-B混土(基本土層A・Bの9層)。

0 1:60 2m

第22図 SK-1・2・3 平面図・断面図



P1-17

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)・灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性無し、詰まり弱い、As-B混入する、白色系バミス粒少量、シルト質土(10YR3/1)ブロック状面に含む、炭片(小)散見。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、炭片(小)散見。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)・灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、締る、黒色系地山土(10YR3/2)ブロック状少量、黄色系地山土(10YR5/3)ブロック状含む。

P1-19

- 1 灰黄褐色土(10YR4/3)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) やや粘性有、やや締る、黒色系(10YR3/2)・黄色系(10YR5/3・5/4)地山土ブロック状疎らに含む。

P1-21

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3)・灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒少量。
- 1' 詰まり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)・灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、黒色系(10YR3/2)・黄色系(10YR5/3)地山土ブロック状や中面に含む。
- 3 にぶい黄褐色土(10YR4/3)・灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、黒色系(10YR3/2)・黄色系(10YR5/3)地山土ブロック状面に含む。
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)・灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、黒色系(10YR3/2)・黄色系(10YR5/3)地山土ブロック状含む。

P1-22

- 1 灰黄褐色土(10YR4/3)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、炭片(小)散見。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/3)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、黒色系・黄色系地山土ブロック状含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、黄色系(10YR5/3)シルト質土含む(法本土由来)。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒少量、黒色系(10YR3/2・3/3)・黄色系(10YR4/3)地山土ブロック状含む。

P1-23

- 1 灰黄褐色土(10YR4/3)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘性無し、やや詰まり弱い、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、炭片(小)散見。

P1-25

- 2 灰黄褐色土(10YR4/3)・にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、黄色系(10YR5/3)・黒色系(10YR3/2)地山土ブロック状含む。

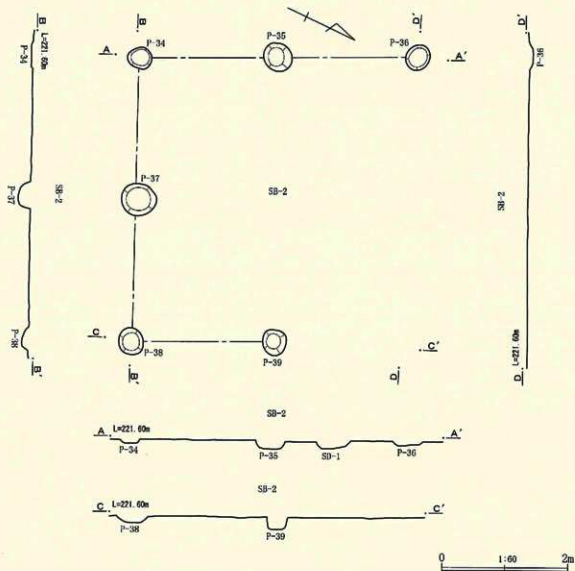
P1-26

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 僅かに粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)・灰黄褐色土(10YR4/2) 僅かに粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒疎らに含む、黒色系(10YR3/2)・黄色系(10YR5/3)地山土ブロック状や中面に含む。

- 3 2と同様同じ、黒色系・黄色系地山土ブロック状含む。

0 1:80 2m

第23図 B区 SB-1 平面図・断面図

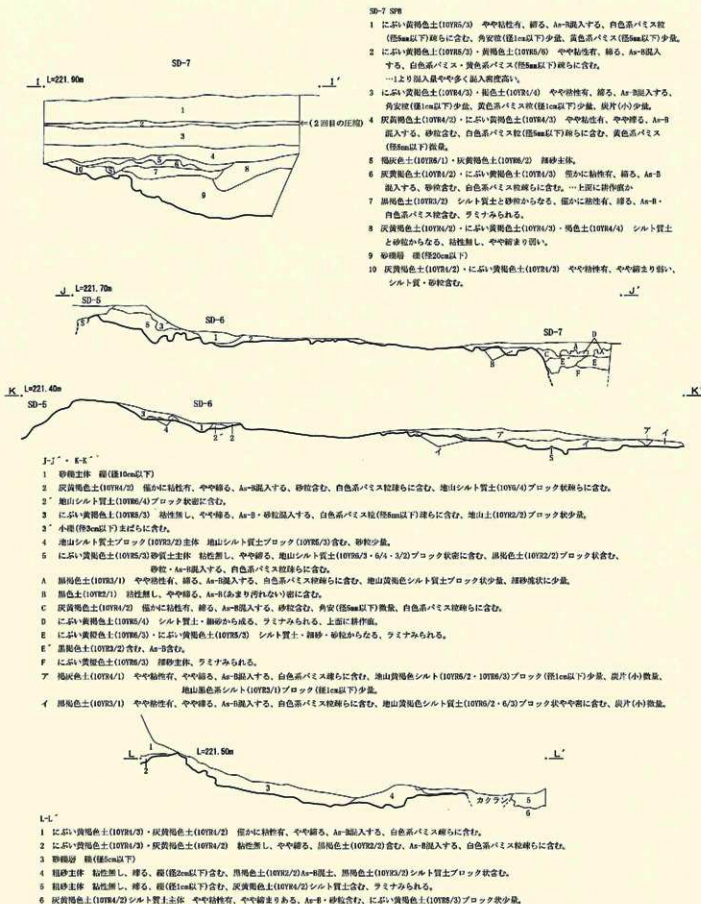


第2表 掘立柱建物一覧

第24図 B区 SB-2 平面図・断面図

SB-1	第23回	位置	SK 南壁中央やや西	重複関係	-	主軸	N - 82° - E
平面形態	長方形状		規模	東西・6.71 南北・3.95			
東辺	P-17~3.95~ P-28			南辺	P-27~2.3~ P-4~2.17~ P-25~2.25~ P-28		
西辺	P-22~3.96~ P-27			北辺	P-22~2.25~ P-21~2.2~ P-19~2.2~ P-17		
各ピットの深さ	P-4・0.50 P-17・0.40 P-19・0.50 P-21・0.40 P-22・0.50 P-23・0.45 P-25・0.55 P-27・0.35 P-28・0.20						
所見	島の敷間を掘り込んで作られている。						

SB-2	第24回	位置	B区 中央東	重複関係	-	主軸	N - 65° - E
平面形態	方形状?		規模	東西・4.51 南北・4.44			
東辺	P-39~2.25~ P-38			南辺	P-34~2.25~ P-37~2.25~ P-38		
西辺	P-36~2.25~ P-35~2.20~ P-34			北辺	不明		
各ピットの深さ	P-34・0.05 P-35・0.15 P-36・0.10 P-37・0.20 P-38・0.10 P-39・0.20						
所見	北辺の柱穴は削平により傾斜の可能性大。						





M-M'

- 1 黒褐色土(10YR2/2)As-B混土ブロック主体 黒褐色土(10YR3/2)シルト質土ブロック状含む、にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土ブロック状少量。
- 2 砂主体 粘性無し、締る、縦(径2cm以下)含む、黒褐色土(10YR2/2)As-B混土・黒褐色土(10YR3/2)シルト質土ブロック状含む。
- 3 砂隠層 横径大以下。

SD-5



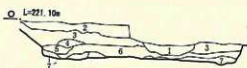
N-N'

N-N'

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3) やや粘性有、よく締る、As-B混入する、地山土(10YR3/2-6/3)ブロック状含む。
- 2 砂隠層 縦径大以下。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、シルト質土、As-B・細砂・砂粒含む、白色系バミス粒層を含む。
- 4 灰白色土(10YR4/1)・灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、細砂・砂粒含む、白色系バミス粒層らを含む、地山土(10YR5/3)ブロック状少量。
- 4' 地山土(10YR5/3)ブロック状含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 地山土ブロック主体、As-B混入に混入する、地山土(10YR3/3)ブロック状少量、砂粒含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2)シルト質土・地山土(10YR2/2)ブロック主体 地山土(10YR5/3)ブロック状少量、As-B・砂粒含む。

0-0'

- 1 砂隠 縦径大以下、C/SD-1混長。
 - 2 黒褐色土(10YR2/2)As-B混土ブロック主体 灰黄褐色土(10YR4/2)As-B混土含む、にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土ブロック状少量、砂粒少量。
 - 3 黒褐色土(10YR2/2)As-B混土・黒褐色土(10YR3/2)シルト質土主体 非常に黄褐色土(10YR5/3)ブロック状層らに少量、にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土(細砂含む)ブロック状少量...とほぼ同様。
 - 4 灰白色土(10YR4/1) 粘性無し、やや締る、As-B混入する、細砂・砂粒含む。
 - 5 砂粒主体
 - 6 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性無し、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らを含む。
 - 7 (6)に加え、にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土ブロック状含む、にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土ブロック状少量、黒褐色土(10YR2/2)ブロック状含む。
 - 7' 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR2/2)ブロック状少量、にぶい黄褐色土(10YR5/3)ブロック状少量、As-B混入する、白色系バミス粒層らを含む。
- * 2・3 人馬土



O-O'

SD-1



P-P'

P-P'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性無し、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らを含む、砂粒含む、にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土塊を含む、一洗
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性無し、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らを含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 粘性無し、やや締る、As-B混入に混入する、白色系バミス粒層らを含む。
- 4 As-B混
- 5 黒褐色土(10YR3/2)シルト質土 やや粘性有、やや締り強い。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 粘性無し、締る、As-B混入に混入する。

Q-Q'



Q-Q'

SD-5

SD-1

Q-Q'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性無し、やや締る、As-B・砂粒混入する、白色系バミス粒層らを含む、にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土ブロック状少量。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) にぶい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土 砂隠主体、縦(径1cm以下)、ラミナみられる。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト質土・細砂・砂粒からなる、ラミナみられる。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らを含む、炭片(小)微量、黒褐色土(10YR2/2)ブロック状少量。

SD-5

R-R'

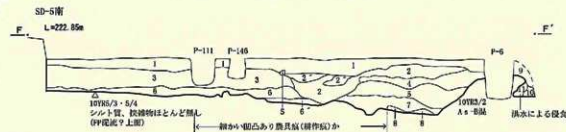


R-R'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らを含む、炭片(径1cm以下)少量、(10YR5/3)シルト質土・細砂層らを含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 僅かに粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らを含む、炭片(径1cm以下)微量、(10YR5/3)シルト質土無量、黒褐色土(10YR2/2)下層層らを含む。



第27図 C区 断面図 (3)

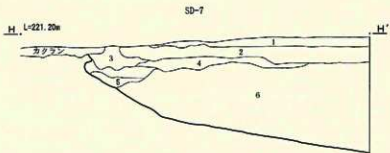
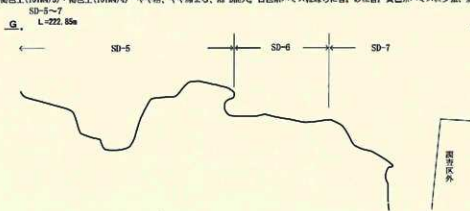


SD-5南 F-F'

- 1 濃い黄褐色土(10YR4/2) 僅かに粘、やや締まる、As-B-砂粒混入。小塊(厚1cm以下)埋らに含。白色系パミス粒埋らに含。
 - 2 灰黄褐色土(10YR5/2)・濃い黄褐色土(10YR5/3) 砂、シルト質からなる。ラミナとめられる。・・・洪水堆積層
 - 3 礫(径2cm以下)含。
 - 4 灰黄褐色土(10YR4/2)・濃い黄褐色土(10YR4/3) 僅か粘、やや締まる。砂粒・細砂・黄色系シルト質土(10YR5/3・10YR5/2)含。・・・水固による層理みられる。上約厚10cmほどの厚みで砂埋あり。
 - 5 灰黄褐色土(10YR4/2)・濃い黄褐色土(10YR4/3) 僅か粘、やや締まる。砂粒・As-B混入。白色系パミス粒埋らに含。細砂、黄色系シルト質土(10YR5/2・5/3)含。・・・3と良く似る。同一層の可能性高い。
 - 6 灰黄褐色土(10YR4/2)・濃い黄褐色土(10YR4/3) やや粘、締まる。As-B混入。白色系パミス粒埋らに含。炭片(小)少量。黄色系シルト質土(10YR5/2・5/3)ブロック状少量。
 - 6' 黄色系地山土(10YR5/3・5/4)ブロック状含。
 - 7 黒褐色土(10YR2/2)主体 粘なし、締まる。As-B混入。白色系パミス粒埋らに含。黄色系シルト質土(10YR4/2)・シルト質・細砂(10YR5/4・5/2)、ブロック状に混在。
 - 8 砂層
 - 9 灰黄褐色土(10YR5/2)・濃い黄褐色土(10YR5/3) 粘なし、やや締まり弱。砂粒含。縦(厚5cm以下)含。As-B含。
 - 10 濃い黄褐色土(10YR5/3) 粘なし、やや締まり弱。シルト質・細砂主体。
 - 11 黒褐色土(10YR2/2) 粘なし、締まる。As-B面に混入。シルト質・細砂(10YR5/3)含。
- * 2、3、4、5層は洪水に起因する堆積土。洪水層下に耕作痕?がみられる。

P-146横土

濃い黄褐色土(10YR4/2)・褐色土(10YR4/4) やや粘、やや締まる、As-B混入。白色系パミス粒埋らに含。砂粒含。黄色系パミス粒少量。炭片(小)少量。



SD-7 H-H'

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 僅かに粘性有、やや締まり弱い。白色系パミス粒少量。As-B混入する。砂粒含む。
- 2 濃い黄褐色土(10YR5/3・5/4) 砂粒・細砂からなる。粘性無し、やや締まり弱い。ラミナみられる。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 僅かに粘性有、やや締まる。As-B混入する。白色系パミス粒埋らに含む。濃い黄褐色土(10YR5/3)細砂・シルト質土少量。
- 4 灰黄褐色土(10YR5/2)・濃い黄褐色土(10YR5/3) 僅かに粘性有、やや締まり弱い。シルト質・細砂からなる。As-B含む。黒褐色土(10YR2/2)含む。ラミナみられる。
- 5 砂層 粘性無し。締まり弱い。黒褐色土(10YR2/2)含む。
- 6 砂埋層 埋入層大以下。



第28図 C区 断面図(4)

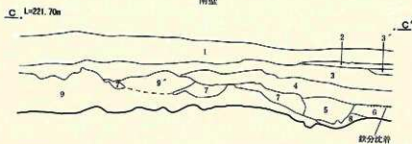
東壁



東壁 B-B'

- 1 1-1 黄褐色土(10YR4/3) やや粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らに含む、炭片(小)微量、総厚大以下少量。
- 2 2-1 黄褐色土(10YR4/3・10YR5/2) やや粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒(径5mm以下)層らに含む、角変(径1cm以下)微量。
- 2* 炭分希薄に比着する。
- 4 4-1 黄褐色土(10YR4/3) やや粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らに含む(黄色系バミス粒径5mm以下少量一級分沈着した角変が白色系バミス粒)、10YR5/3シト質土少量。
- 5 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、シト質土、As-B混入する、砂粒含む、輝砂(灰赤色土 2.5YR/2)、シト質土(黄褐色土 10YR6/3)含む。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)シト質土主体 灰黄褐色土(10YR5/2)シト質土、輝砂を含む、土層粒分比着顕著。
- 6* 輝砂(2.5Y/2 灰赤色土・2.5Y/3に多い赤褐色土)主体 灰黄褐色土(10YR4/2)シト質土少量。
- 7 砂粒層 総厚大以下、灰黄褐色土(10YR4/2)シト質土含む、CJRS-1層土。
- 8 8とほぼ同じ。
- 9 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らに含む、黒褐色土(10YR2/2)シト質土含む、黒色系地山土(10YR2/2)ブロック状少量、水の影響みられる。
- 10 黒褐色土(10YR3/2) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス粒層らに含む。
- 11 黒褐色土(10YR2/2) As-B混入土状、粘性無し、締る、黒褐色土(10YR3/2)As-B混入含む、白色系バミス粒層らに含む。
- 12 黒褐色土(10YR3/2) シト質土主体、黒褐色土(10YR2/2)As-B混入土ブロック状含む、に多い黄褐色土(10YR6/3)、に多い黄褐色土(10YR5/3)シト質土ブロック状含む、白色系バミス粒層らに含む、粘性無し、やや締る、砂粒含む。
- 13 黒褐色土(10YR2/2) 粘性無し、締る、As-B混入する、黒色系地山土(10YR2/2)As-B混入、黄色系地山土(10YR4/3・5/3・6/3)シト質土ブロック状やや密に含む。
- 14 黒褐色土(10YR3/2) 粘性無し、締る、As-B・砂粒含む、白色系バミス粒層らに含む、に多い黄褐色土(10YR4/3・5/3)シト質土少量、一級水山奥か。

南壁



南壁 C-C'

- 1 1-1 黄褐色土(10YR4/3) やや粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒(径5mm以下)層らに含む、炭片(小)微量。
- 2 2-1 黄褐色土(10YR4/3)・灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、締る、As-B混入する、白色系バミス粒少量、炭片(小)層らに含む、粘土ブロック(小)少量。
- 3 3-1 黄褐色土(10YR4/3・6/3) やや粘性有、やや締る、As-B混入する、白色系バミス(径5mm以下)少量、角変(径1cm以下)微量。
- 3* 砂粒含む、粒(径2cm以下)層らに含む。
- 4 4-1 黄褐色土(10YR5/3) やや粘性有、やや締る、As-B・輝砂混入する、白色系バミス粒層らに含む、黄色系バミス粒(径1cm以下)微量(炭分?酸化?)、に多い黄褐色土(10YR6/4)シト質土少量。
- 5 5-1 黄褐色土(10YR6/4)シト質土・細砂主体 粘性無し、やや締る、砂粒含む(径径2cm以下)、ラミナみられる、炭片(小)微量。
- 6 6-1 黄褐色土(10YR6/3)シト質土主体 僅かに粘性有、やや締る、輝砂・砂粒含む、径(径5mm以下)層らに含む、に多い黄褐色土(10YR6/3・6/4)シト質土ブロック状少量。
- 7 7-1 黄褐色土(10YR4/3・6/3) 粘性無し、やや締る、砂粒・As-B混入する、粒(径2cm以下)層らに含む、に多い黄褐色土(10YR6/4)シト質土少量。
- 8 灰黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締まり弱い、シト質土、As-B・砂粒混入する、小粒(径1cm以下)層らに含む。
- 9 砂粒層 総厚大以下、7層地層後のものであろう。

SD-6



SD-6

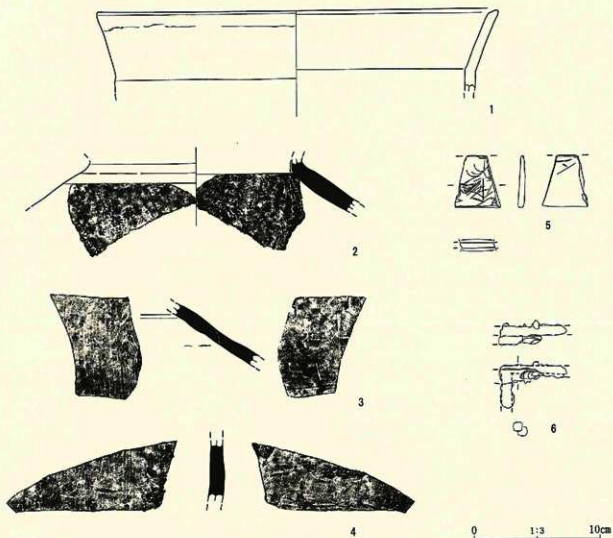


SD-6 SPD-6* E-E'

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘なし、やや締まり弱、As-B混入、輝砂含む、白色系バミス粒少量。
- 2 黄褐色土(10YR5/3) やや粘、やや締まり弱、シト質。
- 3 黒色系シト質土(10YR3/3・2/2)・黄色系シト質土(10YR6/4)ブロック(4と比べ種か)からなる、地山黒褐色土(10YR2/2)As-B混入土ブロック少量。
- 4 黒色系シト質土(10YR3/2・3/2)・黄色系シト質土(10YR5/4)ブロック(3と比べ全体に大粒)からなる。
- 5 地山黒褐色土(10YR2/2)As-B混入土主体 粘なし、やや締まり弱、As-B混入。
- 6 地山黒褐色土(10YR2/2)As-B混入土主体 黒色系・黄色系シト質土ブロック混入。

0 1:60 2m

第29図 C区 断面図(5)

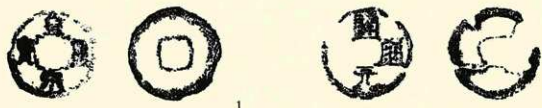


0 1:3 10cm



0 1:1 2cm
(古銭7-8)

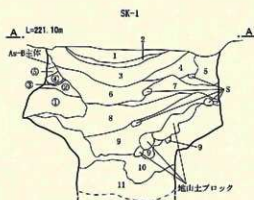
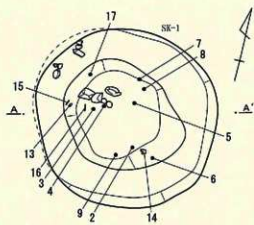
C区 SD-6 出土遺物



0 1:1 2cm

C区 SD-6 出土遺物

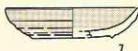
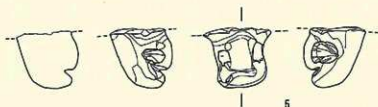
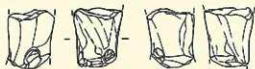
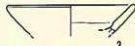
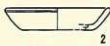
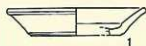
第30圖 C区 SD-5・6 出土遺物



SK-1 A-A'

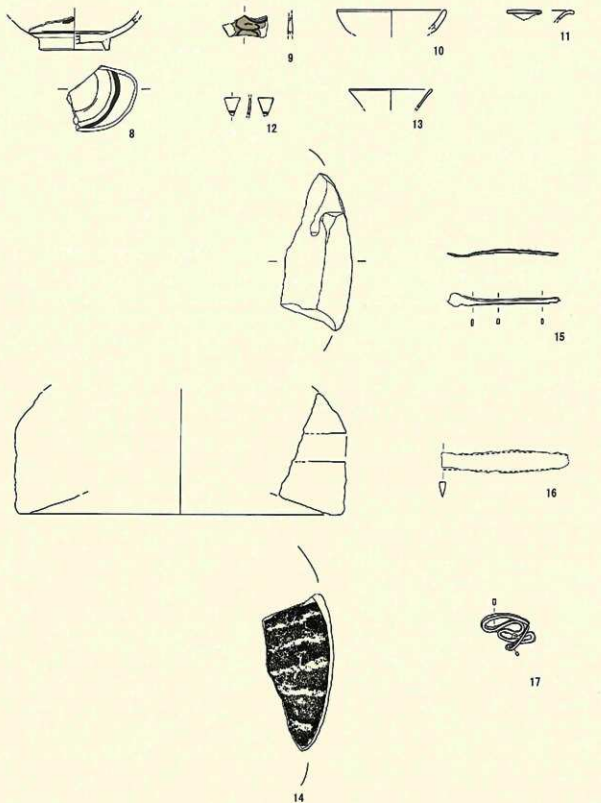
- 1 におい黄褐色土(10YR4/2) やや粘性有、やや締る、Ar-B混入する、白色系パミス粒 稀らに含む、砂(粗砂)・礫含む、縦径5cm以下・炭片(縦1cm以下)少量。
- 2 におい黄褐色土(10YR4/3) 黄色系地山土(10YR5/3・10YR5/3)ブロック状に含む、 やや粘性有、やや締まり強い。
- 3 におい黄褐色土(10YR5/2) やや粘性有、やや締る、土質相對に強い、Ar-B含む、白色系 パミス粒(縦5mm以下)少量、炭片(縦1cm以下)少量、炭土ブロック(4)少量。
- 4 におい黄褐色土(10YR5/3・10YR5/4) やや粘性有、やや締る、Ar-B混入する、白色系 パミス(縦5mm以下)稀らに含む、炭片(縦1cm以下)少量、炭土ブロック(4)少量。
- 5 砂礫層(標準大以下) におい黄褐色土(10YR5/2)シルト質土少量。
- 6 炭質 粘性無し、締まり強い、におい黄褐色土(10YR4/2)やや粘性有、やや締る、炭片 (縦1cm以下)稀らに含む、炭土ブロック(4)少量。
- 7 におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘性有、やや締る、Ar-B混入する、白色系パミス稀らに 含む、炭含む、炭片稀らに含む、炭土ブロック(4)少量。
- 8 炭質褐色土(10YR4/2) におい黄褐色土(10YR4/3) やや粘性有、やや締まり強い、Ar-B 混入する、炭片(縦1cm以下)少量、白色系パミス粒稀らに含む。
- 9 砂礫層 縦(縦20cm以下)、におい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土大ぶりのブロック状含む。
- 10 におい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土ブロック やや粘性有、やや締る、砂粒混入する、 大ぶりの地山土ブロック、一人為建設か
- 11 砂粒主体 ミナヲ認められる、褐色土(10YR4/4)シルト質土含む。
- ① におい黄褐色土(10YR5/3)シルト質土ブロック やや粘性有、やや締る。
- ② 黒褐色土(10YR2/2)シルト質土 やや粘性有、やや締まり強い、炭礫無し。
- ③ Ar-B主体
- ④ 黒褐色土(10YR2/2) 粘性無し、やや締る、Ar-B混入する。
- ⑤ Ar-B主体 下方に黒色土(10YR2/2)含む。

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

第31図 C区 SK-1 平面図・断面図・出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第32图 C区 SK-1 出土遺物(2)

第3表 遺物観察表

A区 SD-2

(): 復元値, [] : 残存量

番号	器種	流量 (cm)	①残存 ②色調 ③釉土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置	図・写真
1	軟質陶器 内耳瓶	口径 - 底径 11.1 器高 [7.7]	①口縁部破片 ②内面 にぶい棕色 外面 にぶい黒褐色 ③白色灰物、裏付	口縁部 飾。 外面 削。 内面 横溝。 16世紀	覆土	第18回 PL. 26
2	砥石	長 5.5 幅 4.0 厚 3.0 重 123g	断面形状	流紋岩	覆土	第18回 PL. 26

A区 SK-4

1	不明	最大巾 2.9 最小巾 2.9 厚 0.35 重 9g	環状鉄製品		覆土	第18回 PL. 26
---	----	-----------------------------	-------	--	----	----------------

A区 SK-7

1	かわらけ	口径 (7.4) 底径 (3.8) 器高 [1.9]	①体部 ②褐色 ③白色・黒色粒子、長石	体部 内面・外面 飾。 体部変換点に後、体部直線的に湾曲し、口縁部短く 外形、15世紀後半～16世紀。	覆土	第18回 PL. 26
2	石製品	長 14.4 幅 9.9 厚 6.3 重 1261g	断面不整形形状		2cm	第18回

A区 P-32

1	軟質陶器 鉢	口径 - 底径 11.1 器高 [7.7]	①底部～胴部破片 ②にぶい棕色 ③白色・黒色、赤色粒子	外面 底部～胴部急削。 内面 底部～胴部急削。 平底、胴部直線的に「ハ」の字に開く。	覆土	第18回 PL. 26
---	-----------	-----------------------------	-----------------------------------	--	----	----------------

A区 P-102

1	水滸透寶	外輪径 2.5×2.5 内輪径 2.05×2.16 郭径 0.55×0.55 厚 0.1 重 2g	対統真書、「明」	覆土	第18回
---	------	---	----------	----	------

A区 西障

1	黒字元寶	外輪径 2.35×2.3 内輪径 2.05×2.0 郭径 0.7×0.75 厚 0.1 重 2g	対統真書、「北宋」	覆土	第18回
2	水滸透寶	外輪径 - 内輪径 - 郭径 0.6×0.65 厚 0.1 重 1g	対統真書	覆土	第18回

B区 SD-1

1	元豊通寶	外輪径 2.36×2.35 内輪径 1.95×1.96 郭径 0.75×0.78 厚 1.3 重 3g	対統行書、「北宋」	覆土	第21回
---	------	---	-----------	----	------

C区 SD-5

1	軟質土器 内耳瓶	口径 (31.6) 底径 - 器高 [6.4]	①口縁部破片 ②内面 にぶい黄褐色 外面 黒褐色 ③白色粒子	口縁部・内面・外面 横溝。 15世紀後半～16世紀。	覆土	第30回
2	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [3.6]	①胴部破片 ②灰色 (自然釉あり) ③白色粒子	外面 胴部輪軸整形。 内面 付着物あり、カキ目、叩き目。 古代。	覆土	第30回
3	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	①胴部破片 ②褐色 ③白色粒子	外面 胴部カキ目、叩き目？ 内面 胴部輪あり、陰溝。 古代。	覆土	第30回
4	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	①胴部破片 ②褐色 ③白色粒子	古代。	覆土	第30回
5	石製品	長 2.9 幅 [1.8]、[3.6] 厚 0.45 重 10g	流紋岩 砥石を転用か		覆土	第30回
6	鉄製品	最大巾 5.4 最小巾 1.4 厚 0.7 重 15g	「L」字状と棒状が重なった状態		覆土	第30回
7	押付元寶	外輪径 2.4×2.4 内輪径 1.8×1.8 郭径 0.6×0.6 厚 0.1 重 2g	対統真書、「北宋」	覆土	第30回	
8	不明銭	外輪径 2.2×2.3 内輪径 1.7×1.8 郭径 0.6×0.6 厚 0.1 重 2g	解読不能	覆土	第30回	

C区 SD-6

1	皇宗通寶か	外輪径 2.45×2.45 内輪径 2.05×2.06 郭径 0.8×0.8 厚 0.1 重 1g	対統篆書、「北宋」	2cm	第30回
2	開元通寶か	外輪径 - 内輪径 - 郭径 厚 0.1 重 1g	対統真書、「唐」	1cm	第30回

C区 SK-1

1	かわらけ	口径 (11.0) 底径 (7.2) 器高 [2.2]	①口縁部～底部約 1/3 横 ②明赤褐色 ③白色・黒色粒子	内面・外面 横溝。 底部 回転糸切左回転。 底部平底、体部「ハ」の字に開き、口縁部短く外傾。 内面に横付着、16世紀後半。	覆土	第31回
---	------	-----------------------------------	-------------------------------------	--	----	------

2	かわらけ	口径 (8.4) 底径 (5.9) 器高 [1.7]	①口縁部～底部破片 ②明赤褐色 ③白色・黒色粒子	内面・外面 横溝。 底部 回転糸切左回転。	覆土	
3	かわらけ	口径 (10.2) 底径 - 器高 [2.3]	①口縁部～底部破片 ②灰赤色 ③白色・黒色粒子	外面 横溝。 内面 横溝。	覆土	第31区
4	飯脚	最大巾 4.6 最小巾 3.8 厚 3.3 重 82g		断面形状円形、土製品 長石、白色・黒色粒子、滑溝。	覆土	第31区 PL.26
5	飯脚	最大巾 4.7 最小巾 5.4 厚 4.5 重 82g		土製品 白色・黒色・赤色粒子、滑溝、一部黒灰。	覆土	
6	焼締陶器 突	口径 - 底径 - 器高 -	①破片 ②灰赤色 ③白色粒子		覆土	第31区
7	陶器 志戸呂内壳 皿	口径 (10.0) 底径 (6.4) 器高 [2.4]	①破片 ②灰褐色 ③白色粒子	内面・外面 横溝、底部凹輪縁切り、側出し高台、 体部窪所。 体部球形に滑溝。 大溝 3期末～4期前半相当。	覆土	第31区 PL.22
8	磁器 滑州窯	口径 - 底径 (5.6) 器高 [2.7]	①破片 ②灰白色 ③白色	高倉部「U」の字形、体部球形に滑溝。 滑州窯 16世紀後半～末。	覆土	第32区 PL.22 PL.26
9	磁器 染付蓮E群	口径 - 底径 - 器高 -	①破片 ②青白色 ③白色	16世紀後半。	覆土	第32区 PL.22
10	陶器 志戸呂内壳 皿	口径 - 底径 - 器高 -	①破片 ②灰褐色 ③白色粒子	大溝 3期末～4期前半相当。	覆土	第32区 PL.22
11	磁器 白磁蓮C群	口径 - 底径 - 器高 -	①破片 ②白色 ③白色	16世紀。	覆土	第32区 PL.22
12	磁器 染付蓮E群	口径 - 底径 - 器高 -	①破片 ②青白色 ③白色		覆土	第32区 PL.22
13	磁器 白磁小坪	口径 - 底径 - 器高 -	①破片 ②白色 ③白色		覆土	第32区 PL.22
14	石臼	口径 (26.0) 底径 (25.6) 器高 [9.65]	①破片	安山岩	覆土	第32区 PL.26
15	鉄製品	香さじ	最大巾 (8.9) 最小巾 (1.1) 厚 0.1～0.2 重 -g		覆土	第32区 PL.26
16	鉄製品	刀子?	最大巾 (10.0) 最小巾 (1.7) 厚 (0.4) 重 19g		覆土	第32区 PL.26
17	銅製品	不明	最大巾 0.4 最小巾 0.2 厚 0.2 重 10g		覆土	第32区 PL.26

しょうかんじべんざい
正観寺弁財遺跡

第1章 調査に至る経緯

第1節 調査に至る経緯

平成24年7月、開発業者から高崎市教育委員会文化財保護課に高崎市正観寺町字弁財666-2に個人住宅建設の計画があり、建設予定地に埋蔵文化財についての問い合わせがあった。建設予定地周辺部は広範囲にわたり、周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、近隣でも開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査が実施されていることを伝え、試掘調査の必要性を伝えた。これにより開発業者から依頼を受けた文化財保護課が試掘調査を実施したところ、ほぼ全面に遺構の存在が確認された。このため、再度開発業者と文化財保護課で保存にむけての協議を行ったが、建物建設計画の変更は困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。

第2章 調査の方法

第1節 試掘調査

平成24年7月17日、試掘調査は建物建設予定地約80㎡に南北2本のトレンチを入れた。その結果、トレンチの大部分で古墳時代から平安時代にかけての土師器や須恵器等の出土が認められるとともに住居の切り込み面や竈跡と考えられる焼土ブロック等が確認され、ほぼ全面に古代の遺構が残されていることが確認された。

第2節 本調査

正観寺弁財造跡の本調査は、建物建設予定地は地盤が弱く全面に地盤改良が必要であるということから、建設予定地全面を対象として調査を進めた。東西に長い計画区域であることと土置き場のことを考え、東側から掘削を始めた。測量については業者に委託し、国家座標(世界測地系2011)による基準杭2点と標高1点を設置してもらい、その杭をもとに調査地内に10mのグリッドを設定して調査を進めた。遺構番号は遺構ごとに確認順に付した。遺構実測図は平板を使用し1/20縮尺を基本とし、遺物集中場所や竈については1/10縮尺で手取りとした。また、遺構図はグリッドに沿った割付を基本とし、重複する遺構が認められた場合は遺構ごとに作成し、グリッドに合わせた。遺構・遺物の写真については、白黒35mmとカラーリバーサル35mmを利用し、補助的にデジタルカメラも使用した。

第3節 日誌抄

平成24年度

- | | |
|-----------|---|
| 平成24年8月2日 | 調査準備。 |
| 8月7日 | 表土掘削開始。遺構確認作業にて複雑な切りあい関係のある住居跡7軒と井戸跡2基を確認。休憩用テント・トイレ設置。 |
| 8月8日 | 1・2号住居跡調査進める。 |
| 8月20日 | 住居跡および周辺の調査続ける。 |
| 8月23日 | 3・7号住居跡調査終了後全景写真撮影。 |
| 8月29日 | 調査区全景写真撮影。調査終了。図面等もすべて終了。 |
| 8月30日 | 機械により埋め戻し後すべての発掘調査終了。 |

整理作業

平成27年10月1日～平成28年10月31日 各作業の合間に整理作業進めた。

第3章 遺跡の概要

第1節 遺跡の位置と周辺の歴史的環境

正観寺弁財遺跡は、高崎市街地の北東部約5.2kmにあり、榎名山の南東斜面に形成された扇状地形の端部付近で、北西から南東に向かって低くなっている所に存在している。榎名山からは、井野川・染谷川・天王川・唐沢川といった中小河川が東南流している。最も大きい井野川は高崎市北部の箕郷町に源を発し、本市北西から南東部へと小河川を合流しつつ流れている。この井野川と小河川の周辺部は後背湿地と台地とが複雑に入り組んだ地形を呈しており、台地上には各時代の遺跡地が数多く確認されている。

本遺跡は、以前高崎市教育委員会で調査を実施し縄文時代から平安時代にいたる集落跡や古墳跡・平安時代水田跡等を検出している正観寺遺跡群中にある。遺跡群の広がりは広範囲に及び、西方の縄文から中世に至る遺構・遺物を検出している西浦北遺跡を中心とした南部遺跡群があり、東方には多数の古墳から平安時代の集落跡や中世城館跡を検出した中尾遺跡がある。更に、北方には古墳時代から平安時代の集落跡・古墳と平安時代の水田跡・中世館跡等を検出している菅谷遺跡群があり、南の井野川近くの小八木向田地区では縄文から近世に及ぶ包蔵地が広範囲に確認されている。以上のように、本遺跡地周辺は各時代の遺跡が密に存在し、人々の生活が縄文時代より途切れることなく続き、現在に繋がっていることを物語っている。



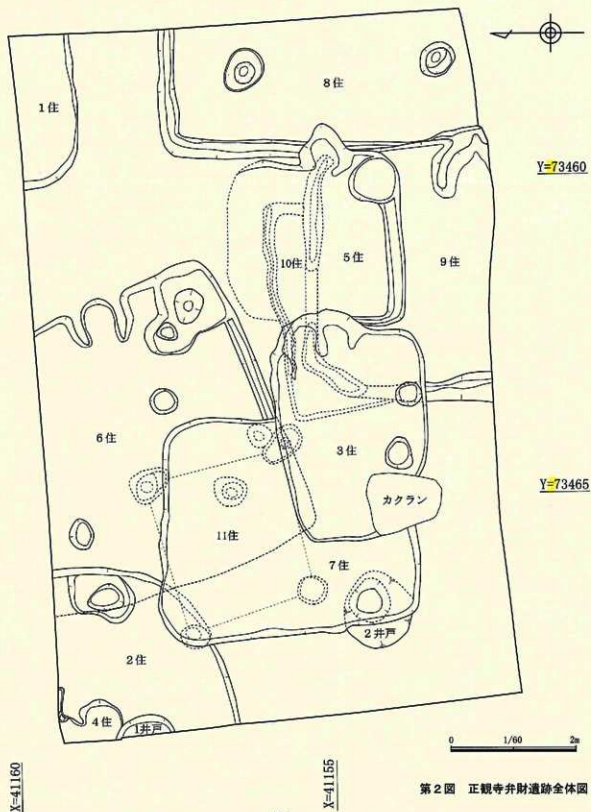
第1図 正観寺弁財遺跡周辺遺跡分布図

第1表 正観寺弁財遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡の概要	所在地	文献
1	正観寺弁財遺跡	古墳・奈良・平安・住戸、井戸。	高崎市正観寺町	本報告。
2	妙興寺	城跡。	高崎市小八木町宮前	新編「高崎市史」資料編3・中址
3	志々良戸遺跡	縄文・弥生・中世。	高崎市小八木町志々良戸	群馬県史観台報(1972)
4	木上ノ山遺跡	古墳。	高崎市小八木町志々良戸	中川村史、教育委員会報告第21集(1981)
5	染谷寺遺跡群(Ⅱ)	弥生・古墳・奈良・平安。	高崎市小八木町染谷、志々良戸	教育委員会第21集(1981)
6	市前遺跡群 (即湯北遺跡など)	縄文・弥生後～中世。	高崎市中央町	群馬町教育委員会(1980)(1984)
7	菅谷石塚遺跡	古墳・平安・中世。	高崎市菅谷町	群馬県歴史文化財調査会第2003
8	菅谷城跡	城跡。	高崎市菅谷町	『群馬町志』資料編1群馬町誌編纂委員会1998
9	正観寺加藤遺跡群(Ⅰ)	奈良・平安、住居。	高崎市正観寺町加藤	教育委員会第100集(1998)
10	正観寺遺跡群(Ⅳ)	弥生・古墳・奈良・住居。	高崎市正観寺町加藤	教育委員会第36集(1982)
11	金尾城	城跡。	高崎市中央町八本木	新編「高崎市史」資料編3・中巻 群馬日報本道管理書第6集(1983)
12	中尾遺跡	縄文・奈良・平安・律儀、城跡。	高崎市中央町天狗南	
13	包蔵地	縄文・弥生・古墳・奈良～中世。	高崎市平塚町西之巻	(1983年調査)
14	古墳	住居。	高崎市正観寺町天神久保	(1979年調査)
15	正観寺遺跡群Ⅰ区	古墳。	高崎市正観寺町天神久保	(1979年調査)
16	高観寺遺跡群(Ⅱ)	縄文・弥生・古墳～平安・住居、水田。	高崎市正観寺町、小八木町徳	教育委員会第14集(1960)

第2節 遺跡の概要

正観寺弁財遺跡の調査は、個人住宅建設に伴う発掘調査であり、調査面積は7m×11m程の約80㎡と狭い範囲であったが調査区域内の大部分が住居跡で、切りあい関係が複雑な遺跡であった。発見された遺構・遺物は、古墳時代から平安時代にかけての堅穴住居跡が11軒、平安時代と考えられる井戸跡1基と中世以降と考えられる井戸跡1基を検出した。いずれの遺構も重複関係が多いことや調査区域の関係から全容を知り得るような遺構はなかった。



第2図 正観寺弁財遺跡全体図

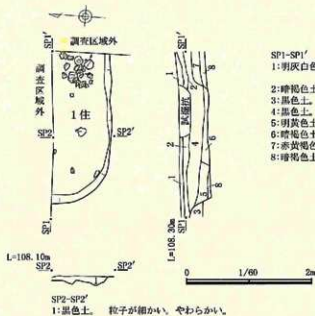
第4章 検出した遺構・遺物

第1節 住居跡

1号住居跡

調査区北東隅で検出された住居跡。住居跡南側の一部のみ確認できたが、他は調査区域外である。調査できた範囲内では切りあい関係は認められない。遺構確認面より床面までの深さは16cm程で、床面は固く締まっていた。規模や平面形については計測不可能であるが、おそらく隅丸方形の平面形を有する住居跡で、遺物の出土状況から竈は東壁のやや南よりに存在するものと考えられる。南壁を軸とした方位はN-85°-Eである。

遺物は東側の覆土中に比較的まとまって出土している。土師器甕・坏・須恵器羽釜等がまとまった形で発見されている。遺物から推定される住居跡の時期は9世紀後半から10世紀前半と考えられる。



第3図 1号住居跡

SP1-SP1'

1: 明灰白色土。

2: 暗褐色土。

3: 黒色土。

4: 黒色土。

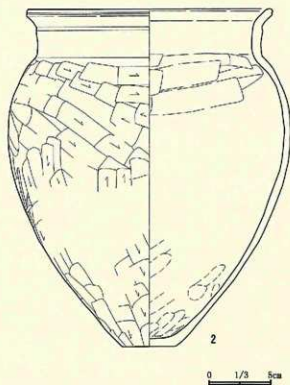
5: 明黄色土。

6: 暗褐色土。

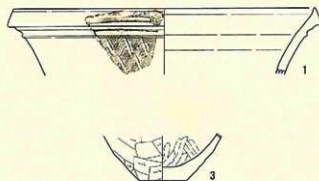
7: 赤黄褐色土。

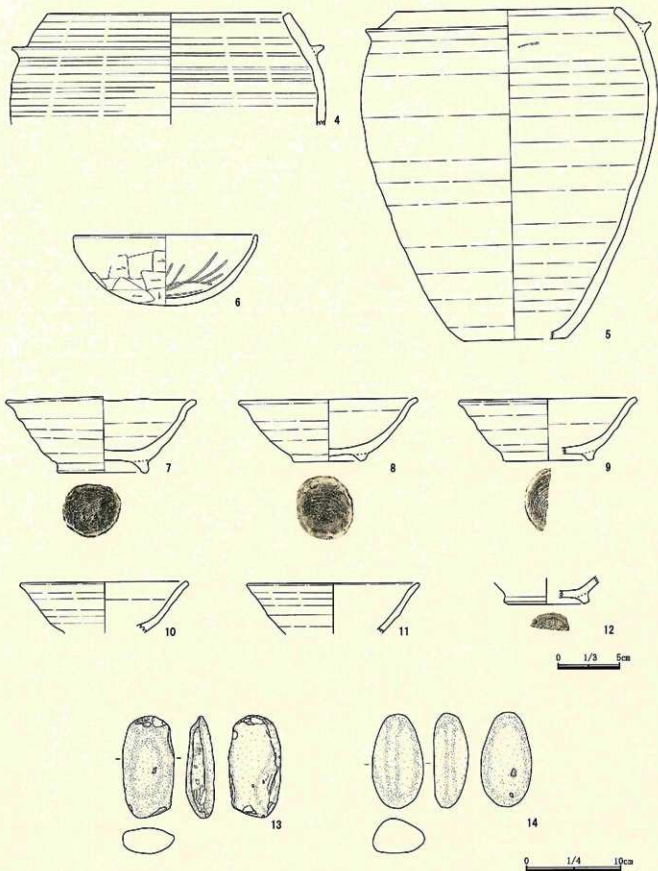
8: 暗褐色土。

現安土層。駐車場にしていたため砂、小礫の混入層。
ガチガチで固い。
ローム粒、軽石含む。固く締まる。
粒子の細かい土。しまり良。
浅層に軽石を含む。しまり良。
浅層に軽石多く含む。ローム粒わずかに含む。
ローム粒、軽石を少量含む。しまり良。
粘土と灰土の混入。1号住カマドの上と思われる。
粒子が細かい。フカフカしている。



第4図 1号住居跡出土遺物(1)



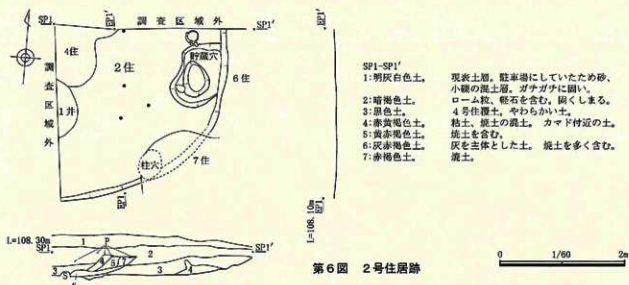


第5図 1号住居跡出土遺物(2)

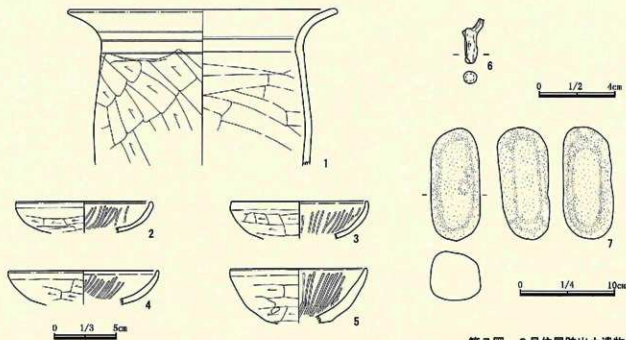
2号住居跡

調査区北西隅で検出された住居跡で6号住居跡の西北部を切って構築され、7号住居跡に東南部の一部を切られ4号住居跡と1号井戸跡に中央部を切られている。住居跡の大部分が調査区域外であり、確認されたのは、南北2.7m・東西2.6mで住居跡の東南部分のみである。このため、住居跡の全体像を把握することはできなかった。竈は検出されていないが、北側の調査区域境の住居跡東側の断面に焼土が流れたような層位が認められ、この部分の北側に竈の存在が考えられる。貯蔵穴と考えられる遺構は南東側で確認された。貯蔵穴は、東西約70cm程・南北100cm程を変形隅丸方形に掘り込み、さらに床面から20cm程深く掘られた東西40cm・南北60cm程の長楕円形の掘り込みを持つ遺構であるが、遺物の出土はなかった。遺構確認面から床面までの深さは5~10cm程と依存状況は良好とはいえなかった。

遺物は竈と考えられる場所の近くで甕が口縁部分を逆にした状況で検出された。遺物から推定される住居跡の時期は7世紀後半から8世紀代と考えられる。



第6図 2号住居跡

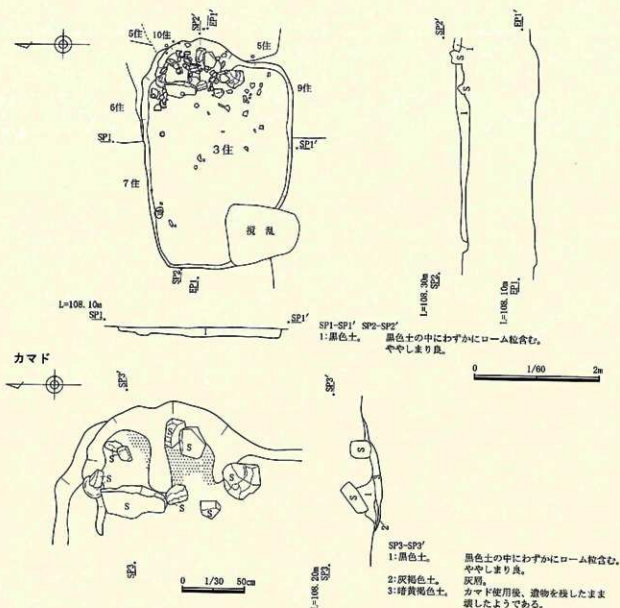


第7図 2号住居跡出土遺物

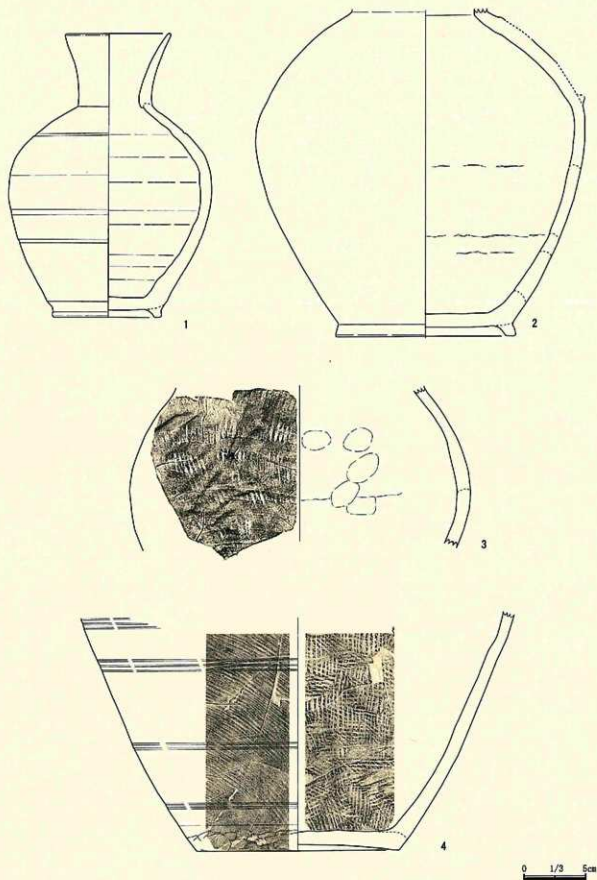
3号住居跡

調査区中央部のやや南側に検出された住居跡。本遺跡内で最も新しい時期と考えられる住居跡で、依存状況はあまり良くなかったが、全面調査の出来た住居跡である。5・6・7・9・10号住居跡を切って構築された東西3.2m・南北2.5mの東西に長い隅丸長方形の住居跡で、東壁の北寄りに同時期に使用されたと考えられる2基の竈跡を検出した。竈を主軸とした方位はN-90°-Eで、遺構確認面より床面までの深さは5~10cm程であり、壁や床面を捉えるのに困難をきたした。柱穴や周溝・貯蔵穴も確認されなかった。竈は2基並べて築かれており、袖石を3箇所置き2基の竈を築いていたものと考えられる。向かって左側の竈は焚口部天井に側面を打ち欠いたような細長く薄い石を乗せているが、右側の竈には認められなかった。また、燃焼部奥にも打ち欠いた拳大の石が数個両方の竈に認められており、必要な場所に石を置きロームや粘土で築いた竈であったと考えられる。

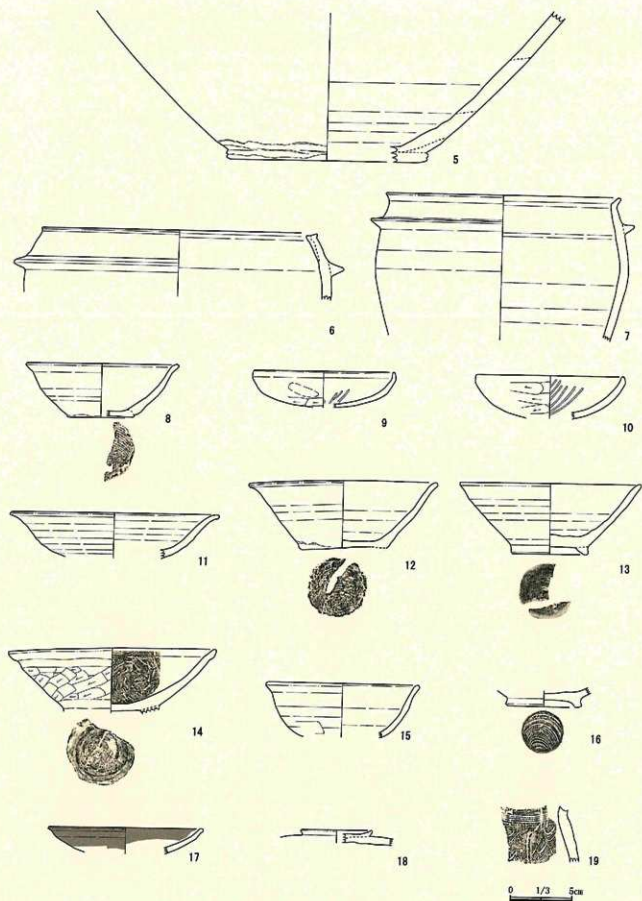
遺物は、両方の竈の焚口部周辺から燃焼部に集中して廃棄されたような形でまとまって検出されている。遺物から推定される住居跡の時期は10世紀代と考えられる。なお、一片だけ弥生時代後半の土器片が覆土中より出土している。



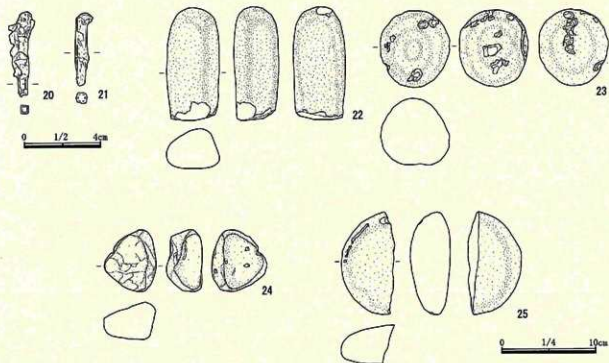
第8図 3号住居跡



第9圖 3号住居跡出土遺物(1)



第10図 3号住居跡出土遺物(2)

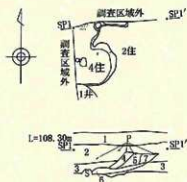


第11図 3号住居跡出土遺物(3)

4号住居跡

調査区北西隅で検出された住居跡で2号住居跡を切って構築され、1号井戸跡に南部の一部を切られている。しかし、住居跡の大部分が調査区域外であり、確認されたのは、住居跡の東南隅のみであり、住居跡の全体像を把握することはできなかった。このような中でも竈の南半分と住居跡南東隅は確認されており、竈を軸としたときの方位はN-85°-Eの隅丸方形か隅丸長方形の住居跡と推測することができる。北側壁面よりみた住居跡の深さは約40cm程であるが掘削確認面からの深さは10cm程で残存状況は良くなかった。竈は東壁部分に築かれているが、北側半分が調査区域外であるため詳細には知りえなかった。

遺物は境や壁の破片が数点認められたのみである。遺物から推定される住居跡の時期は9世紀後半から10世紀代と考えられる。



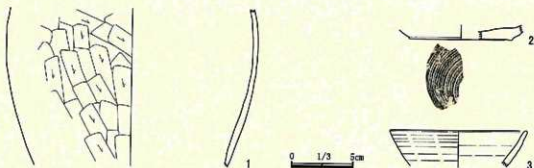
SP1-SP1'

- 1: 明灰白色土。
- 2: 暗褐色土。
- 3: 黒色土。
- 4: 赤黄褐色土。
- 5: 黄赤褐色土。
- 6: 灰赤褐色土。
- 7: 赤褐色土。

現表土層。駐車場にしていたため砂、小粒の風土層。ガチガチに固い。ローム粒、軽石を含む。固くしまる。4号住居跡土。やわらかい土。粘土、焼土の混入。カマド付近の土。灰土を含む。灰を主体とした土。炭土を多く含む。炭土。



第12図 4号住居跡

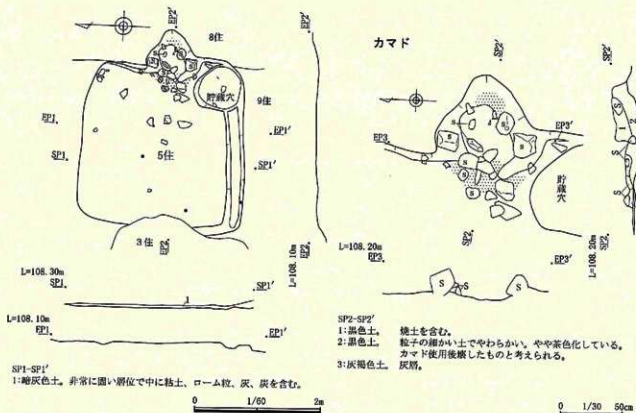


第13図 4号住居跡出土遺物

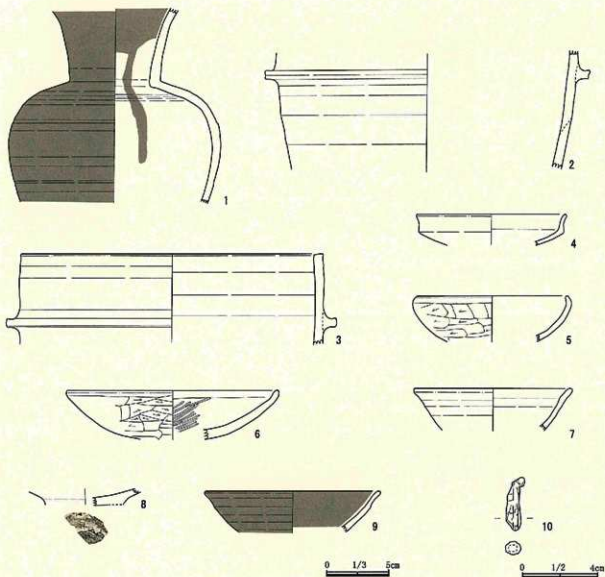
5号住居跡

調査区中央部のやや東側で検出された住居跡。8・9・10号住居跡を切って構築され、3号住居跡に西壁部分を切られている。東壁の中央部に竈を設置した、東西・南北共に2.8m程の隅丸方形の住居跡と考えられるが、北側部分の残存状況は悪く、床面より推定した部分を北壁として計測したものである。遺構確認面より床面までの深さは依存状況の良い所で5~6cmで、比較的残存状況の良かった南壁直下では幅15cm・深さ5cm程の周溝が確認されている。また、住居跡の南東隅部では直径50cm・深さ15cm程の浅い掘り込みが確認されており、貯蔵穴と考えられる遺構が検出された。竈を軸とした方位はN-90°-Eとしている。竈は焚口部分まで東壁を切り抜いて構築されているもので、両袖石の間隔は約40cm、焚口部から燃焼部奥までは60cmほどである。

遺物は竈およびその周辺部でまとまって、羽釜・埴・坏類の他、釘片と考えられる鉄製品も出土している。遺物から推定される住居跡の時期は10世紀代と考えられる。



第14図 5号住居跡

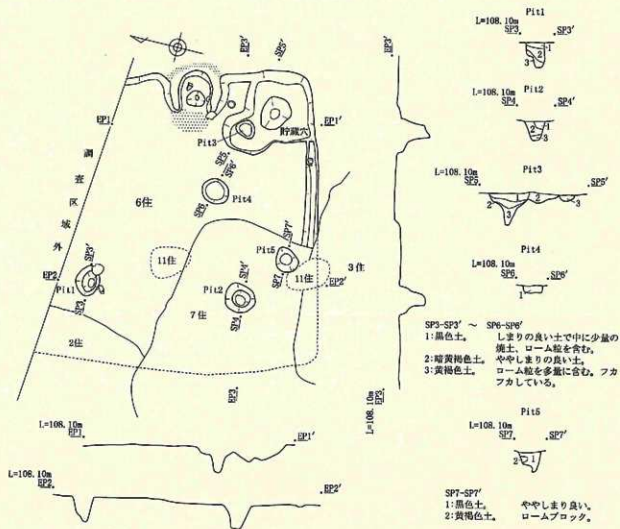


第15図 5号住居跡出土遺物

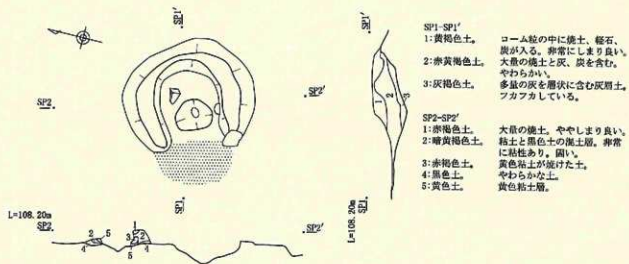
6号住居跡

調査区北側のほぼ中央部で検出された住居跡で、北部は調査区域外であった。竈周辺部以外は依存状況の悪い住居跡で部分的に3~10cmの覆土を認めることができた程度である。しかも、北側は調査区域外、西側は2・3・7号住居跡に切られている。このような状況ではあったが、東壁の中央部より僅かに南側に竈を設置し、竈の南側に貯蔵穴、住居跡の形に合わせた形で3基の柱穴、南壁部には周溝が確認された。竈を軸とした方位はN-67°-Eとしている。竈は焚口部から燃焼部のほとんどが住居跡内に構築されており、僅かに燃焼部奥が壁を斜めに切り込んでいる。両袖間の間隔は約40cm、焚口部から燃焼部奥までは70cm程である。貯蔵穴は、東南隅の壁面下部に一辺100cm程方形状に約20cm掘り込み、その中央部に直径30~40cmの楕円形で深さ20cm程のピットを掘り込んでいる。柱穴は直径40~50cm・深さ70cm程の円形状のもので、柱穴間の間隔は2.5~2.75m程である。南壁部で確認された周溝は幅20cm深さ10cm程のものである。

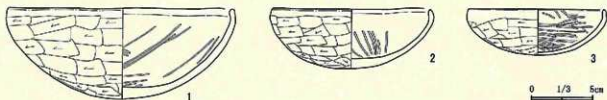
遺物は竈の周辺部で坏のみを検出している。遺物や住居跡の特徴から5世紀後半から6世紀代の住居跡と考えられる。



カマド



第16図 6号住居跡

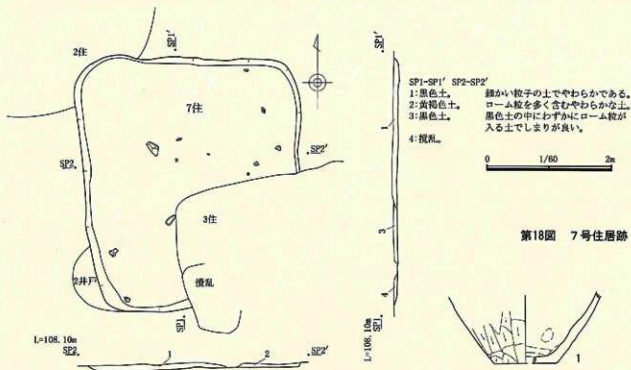


第17図 6号住居跡出土遺物

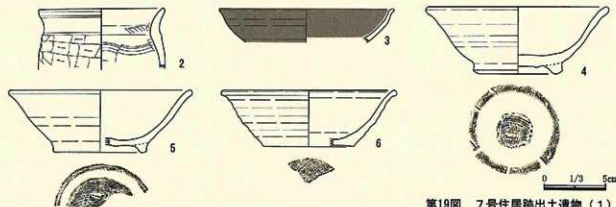
7号住居跡

調査区中央部の西隅で検出された住居跡で2・6号住居跡と2号井戸跡を切って構築され、3号住居跡に竈を含めた東南部の4分の1程切られている。このような状況の中で確認できたのは、東西3.5m・南北4m程の南北に長い隅丸方形の住居跡で、長軸を主軸とした方位はN-0°-Eとしている。遺構確認面から床面までの深さは7cm前後で、床面は硬くしまっている部分が多かったが柱穴は認められなかった。

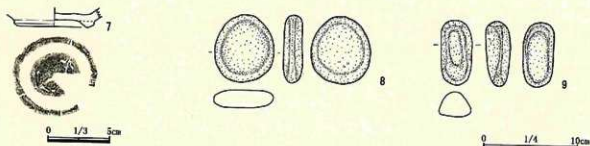
遺物は土師器壺・須恵器埴類の他、全面に磨き跡の残る磨り石状の石製品が出土している。遺物の特徴から9世紀後半～10世紀頃の住居跡と考えられる。



第18図 7号住居跡



第19図 7号住居跡出土遺物(1)

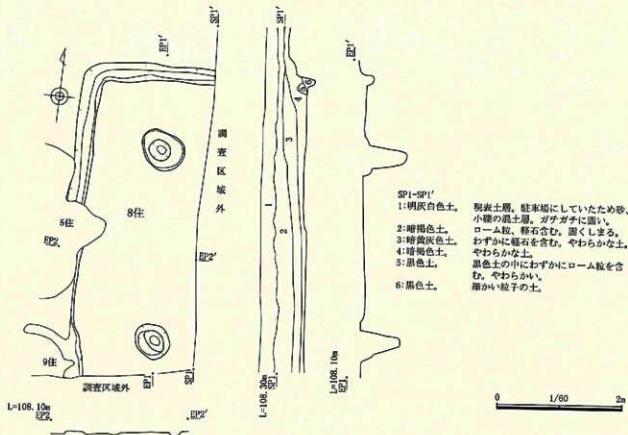


第20図 7号住居跡出土遺物(2)

8号住居跡

調査区南東隅部で検出された住居跡で、5・9号住居跡に西部を切られ、住居跡中央部から南部にかけては調査区域外である。このような状況の中で確認できたのは、北壁と西壁の一部と2基の柱穴および壁直下の周溝のみであった。遺構確認面から床面までの深さは12~13cm程であり、床面は硬く締まっていた。また、2基の柱穴間の間隔は約3m、確認できる南北の長さは5m以上あり本遺跡地内で確認された住居跡のなかでは大型の住居跡と考えられる。

遺物は土師器の壺片と坏片のみである。遺物の特徴から6~7世紀代の住居跡と考えられる。



第21図 8号住居跡



第22図 8号住居跡出土遺物

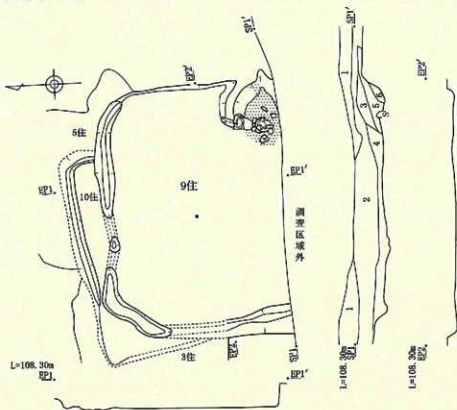
9・10号住居跡

9号住居跡は調査区南の途中で検出された住居跡。3・5号住居跡に北部を切られ、竈の一部を含めた住居跡の南側は調査区域外である。このような状況の中で確認できたのは、住居跡東壁部に築かれた竈部分と西壁の一部と壁直下の周溝の一部および3・5号住居跡の床面下から確認された周溝と考えられる遺構のみであった。東壁の中央やや南側と考えられる場所で確認された竈は、南側の約3分の1が調査区域外となるため詳細は不明であるが、焚口部天上に2個の底部を欠いた礎の中に粘土を入れたものを横に並べ、天井部の強化を図っている。竈を主軸とした方位はN-88°-Eとしている。南北の規模は不明であるが、東西は3.9mで、西側の壁直下では幅20cm・深さ7cm程のU字状の溝が確認されており、全周していたものと考えられる。遺構確認面から床面までの深さは12~13cm前後で、床面は固くしまっている部分が多かった。

遺物は土師器甕・坏類の他、鎌と考えられる鉄製品の一部が出土している。遺物の特徴から7世紀代の住居跡と考えられる。

10号住居跡は3・5・9号住居跡によりほぼ全面を切られており、5号住居跡の床面下から住居跡北東部分の周溝の一部を確認したのみである。

遺物の出土もなく時期も不明である。

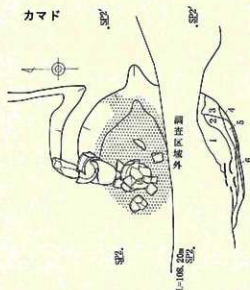


SP1-SP1'

- 1: 明灰白色土。 現表土層。駐車場にしていたため砂、小礫の混土層。固い。
- 2: 暗褐色土。 黒色土の中にローム粒、軽石含む。固くしまる。
- 3: 黄褐色土。 ロームを主体としたしまりの良い土。カマド用材と考えられる。
- 4: 黒色土。 細かい粒子の上とわずかな浅間C軽石の混土。
- 5: 暗赤褐色土。 粘土と粘土の混土層。
- 6: 黒色土。 粘土、わずかな軽石の混土層。

0 1/60 2m

第23図 9・10号住居跡



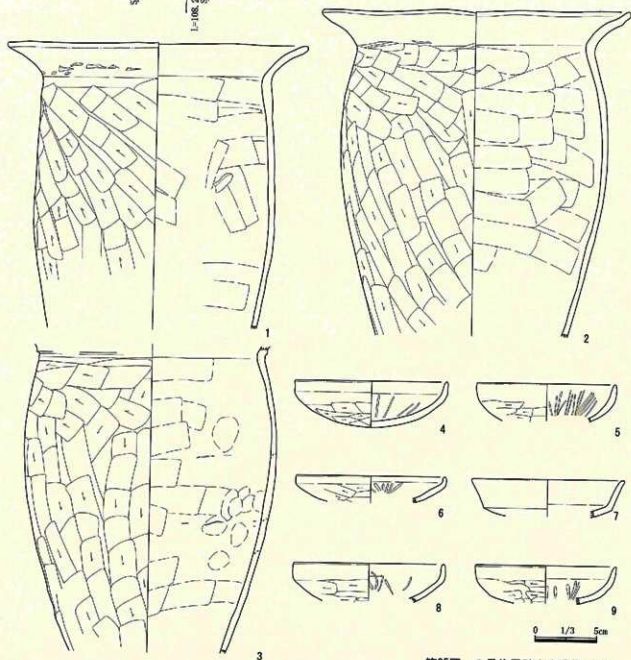
SP2-SP2'

- 1:黒色土。
- 2:黒色土。
- 3:赤褐色土。
- 4:暗灰色土。
- 5:暗灰色土。
- 6:灰褐色土。

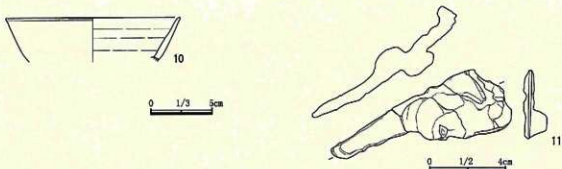
中に粘土と灰土、軽石を含む非常にしまりの良い土。
 粒子の細かい上でわずかに軽石が入る。
 粘土が焼かれた土。
 灰磚と黒色土の混土質。
 灰を多量に含むやわらかい土。
 灰質。

0 1/30 50cm

第24図 9号住居跡



第25図 9号住居跡出土遺物 (1)

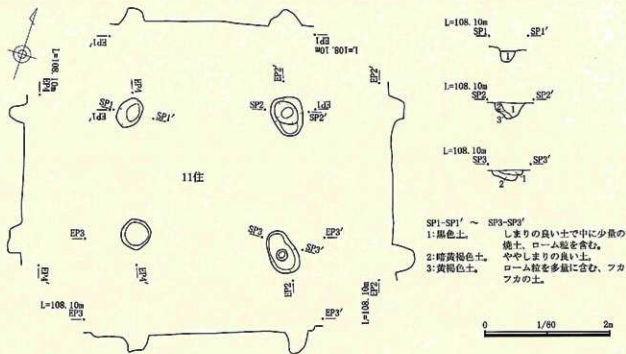


第26図 9号住居跡出土遺物(2)

11号住居跡

11号住居跡については、2・3・6・7号住居跡により大部分を切られており詳細は不明であるが、確認された部分のみ記述することとした。各住居跡の床面下から柱穴4基を確認しており住居跡としたが、7号住居跡の西方部で住居の壁と考えられる部分が検出されず掘立柱建物跡の可能性もある。

遺物の出土もなく時期不明である。



第27図 11号住居跡

第2節 平安時代・中世以降井戸跡

1号井戸跡

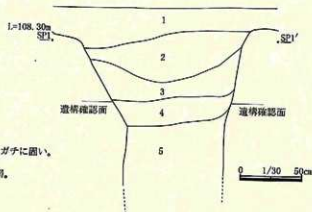
調査区西北隅部で検出された井戸跡で、2・4号住居跡を切って構築されている。西部は調査区域外となるため、約半分のみ調査することのできた井戸跡で、断面から見ると上面で直径約1.3m、上面から約70cm下がったところの直径が約80cmであり、そのまままで掘り込まれているルート状の形態を持つ井戸跡と考えられる。1m20cm程掘り下げた場所で多量の水が湧き出た為、下面まで下げることは出来なかった。覆土中に多量の浅間山B軽石が含まれることから中世以降の井戸跡と考えられる。

遺物の出土はなかった。



SP1-SP1'

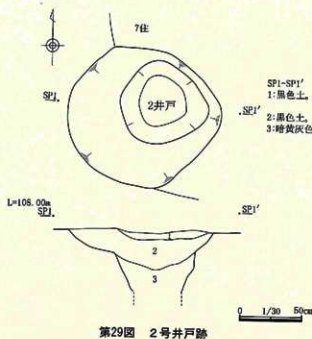
- 1: 明灰白色土。 現表土層。駐本場していたため砂、小礫の混入。ガチガチに固い。
 2: 明黄色土。 浅間0礫石を多く含む。ローム粒わずかに含む。
 3: 明黄色土。 黒色土とローム粒が浅間0礫石の中にまばらに入るような形。
 4: 暗赤色土。 黒色土を多く含むと同様な土。
 5: 黒色土。 黄色土が中心で浅間0礫石、ローム粒が入る。



第28図 1号井戸跡

2号井戸跡

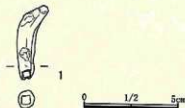
調査区西南部で検出された井戸跡で、1層の部分が7号住居跡の床と考えられるため、7号住居跡より古い井戸跡である。確認面は直径約1.2m、確認面下約30cm程で直径60cm程となる。ロート状を呈した井戸跡と考えられるが確認面より40cm程下で湧水が激しく調査は不可能となったため、詳細は不明である。覆土2層面より1点のみであるが鉄製品が出土している。時期は平安時代の井戸跡と考えられる。



第29図 2号井戸跡

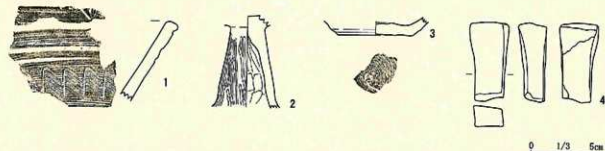
SP1-SP1'

- 1: 黒色土。 粒子の細かい土でしまりが良い中に小粒の礫石(浅間0礫石)を含む。
 2: 黒色土。 1層の部分が7号住居の床と考えられるため、住居跡より古い。
 3: 暗黄灰色土。 やわらかな土で中にロームブロックを含む。



第30図 2号井戸跡出土遺物

遺構外出土遺物



第31図 遺構外出土遺物

第2表 1号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	釜 (須恵器)	口縁部	紫、 白色基物、 石英粒含む。	良好。	NS/ 灰	24.0(推)	ロクロ成形。口縁部下に 6mm幅沈線めぐらす。	外：口縁部ロクロナデ。6mm幅 の筋による波状文様あり。 内：ロクロナデ。	
2	壺 (土師器)	口縁～ 底部	普通 砂粒、石英 粒多量含む。	良好。 やや硬質。	2.5YR5/8 明赤褐	19.7(推) 27.1 4.2	口縁部外反し「コ」の字 状を呈す。口縁下3mm幅 沈線めぐらす。胴部上半 丸みを付す。底部小さい。	外：口縁部から肩部ココナデ。 頸部と肩部の境に強いヘラ ナゲによる筋を持つ。肩部 から胴部、底部ヘラケズリ。 内：口縁部、胴部ココナデ。肩部 ヘラナゲ。胴部下半コビナデ。	
3	壺 (土師器)	胴部～ 底部	粗。 雲母少量含 む。砂粒多 く含む。	やや良好。 やや軟質。	10YR4/2 灰黄褐	3.8(推)	底部小さい。	外：胴部、底部ヘラケズリ。 内：6mm幅のヘラナゲ。	
4	羽釜 (須恵器)	口縁～ 胴部	やや密。 砂粒、石英 粒含む。	やや良好。 硬質。	2.5Y3/1 黒褐	19.0(推)	ロクロ成形。口縁部内傾。 踵部貼り付け。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	外面ロクロ 目が集積状 に成る。
5	羽釜 (須恵器)	口縁～ 底部	やや粗。 砂粒、片岩、 石英粒、小 礫含む。	良好。	5YR6/4 にぶい橙	18.0(推) 26.7(推) 8.2(推)	ロクロ成形。口縁部から 肩部短く内傾。体部上半 やや丸みを持つ。ロクロ 目明顯。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
6	罎 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 砂粒、石英 粒多量含む。	良好。 やや硬質。	5YR7/6 橙	14.4(推) 5.7(推)	口縁部わずかに立つ。 底部ゆるやかに内湾。丸底。	外：口縁部ココナデ。体部から 底部手持ちヘラケズリ。 内：口縁部ココナデ。体部ナデ。 ヘラミガキ。	
7	埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	粗。 白色部粉、2 ～7mm小礫 多く含む。	良好。	10YR7/2 にぶい黄 橙	15.1 6.0 7.3	ロクロ成形。口縁部外反。 底面回転糸切り後付け高 着。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	残存率90%
8	埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	紫。 1～2mm小礫 含む。	良好。 硬質。	10YR7/3 にぶい黄 橙	14.3(推) 4.9 5.8	ロクロ成形。口縁部外反。 体部わずかにふくらみ を持つ。底部回転糸切り後 付け高着。(付け方難)	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	外面、内面、 底部に煤付 着。 残存率80%
9	埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	やや密。 砂粒、石英 粒を含む。	良好。 硬質。	10YR6/2 灰黄褐	14.3(推) 5.0 7.0(推)	口縁部外反。高台部作り 難。底部回転糸切り後付 け高着。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	外面、内面、 底部に煤付 着。 残存率30%
10	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	やや密。 砂粒多く含 む。	良好。 硬質。	10YR5/1 褐灰	13.6(推)	口縁部外反。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
11	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	やや粗。 砂粒多く含 む。	やや良好。 やや硬質。	2.5Y7/2 灰黄	13.8(推)	口縁部わずかに外反。体 部中央はつきりとした稜 線あり。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
12	埴 (須恵器)	高台部	やや粗。 1～2mm小礫 含む。	良好。 やや硬質。	10YR5/2 灰黄褐	6.8(推)	底部回転糸切り後付け高 着。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	

石製品

番号	器種	特徴・形跡	残存状態	材質	長さ (mm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
13	蕨籬石	白っぽい模様が見える(暗灰色)。	完形	泥岩	10.9	5.5	3.0	250.0	
14	蕨籬石	良く削られた丸い石。	完形	安山岩	10.1	5.5	3.7	280.0	

第3表 2号住居跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	長胴甕 (土師器)	口縁～ 胴部	やや粗。 長石、輝砂 多量含む。	やや良好。	5YR7/4 にぶい橙	21.6	口縁部大きく外反。	外：口縁部ココナデ。頸部ヘラ ケズリ感あり。頸部ヘラナ ゲ。胴部ヘラケズリ。 内：ヘラナゲ。	

第4表 2号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
2	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 砂粒多く含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	11.0(推)	口縁部内湾。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部から 底部半持ちヘラケズリ後ナ デ。 内：ヨコナデ。 ヘラミガキ。	
3	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 細砂多く含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	11.0(推)	口縁部内湾。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部から 底部半持ちヘラケズリ後ナ デ。 内：ヘラミガキ。	
4	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 細砂多く含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	12.0(推)	口縁部やや内湾。	外：口縁部ヨコナデ。体部から 底部半持ちヘラケズリ。 内：ヨコナデ。	
5	高杯 (土師器)	杯部	やや粗。 長石、砂粒 多く含む。	良好。 やや軟質。	5YR6/6 橙	11.0(推)	口縁部やや内湾。 器内厚い。	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ。 内：ヨコナデ。	

鉄・石製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
6	釘			鉄	2.4	0.4		1.5	
7	葺石		片形	安山岩	12.0	5.3	5.7	500.0	

第5表 3号住居跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	長頸壺 (須恵器)	口縁～ 底部	密。 微砂含む。	良好。 硬質。	5Y7/1 灰白	5.4 22.6 5.8	ロクロ成形。胴部均等に 開く。付け高台。	外：ロクロ成形。胴部2～3mm幅 沈みめぐらす。(消えている 部分あり) 内：ロクロナデ。	最大径胴部 中央やや上。 (16cm)
2	高台付壺 (須恵器)	胴部～ 高台部	やや密。 細砂含む。	やや良好。 硬質。	10YR8/2 灰白	14.2	ロクロ成形。胴部輪積み 砥鉢。付け高台。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
3	壺 (須恵器)	胴部	やや密。 3～5mm小顆 含む。	良好。 硬質。	N6/ 灰		ロクロ成形。胴部丸みを 持つ。外面均しく締めあり。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。指頭圧痕。	
4	大甕 (須恵器)	胴部～ 底部	やや密。 細砂含む。	良好。 硬質。	N6/ 灰	16.0(推)	ロクロ成形。胴部直線的 に開き立ち上がる。底 部平。	外：楕状工具で斜め方向に調整 痕あり。その長等間隔で平 行沈み敷き入れ。 内：叩き締め後樹状工具で縦横 に調整痕あり。	
5	大甕 (須恵器)	胴部～ 底部	やや密。 1～3mm小顆 多く含む。	良好。 硬質。	N6/ 灰	15.4	ロクロ成形。胴部やや密。 薄的に開く。底部平。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
6	羽釜 (須恵器)	口縁～ 胴部	やや粗。 砂粒多く含む。	良好。 硬質。	2.5YR7/4 淡赤橙	22.0(推)	ロクロ成形。口縁部内湾。 跨部貼り付け。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
7	羽釜 (須恵器)	口縁～ 胴部	やや粗。 砂粒。3～8 mm小顆多く 含む。	良好。 硬質。	2.5Y6/1 黄灰	18.8(推)	ロクロ成形。口縁部短く 外反。跨部貼り付け。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
8	杯 (須恵器)	口縁～ 底部	やや粗。 細砂2～4mm 小顆多く含む。	良好。 硬質。	7.5YR7/2 明黄灰	12.2(推) 4.3 5.3(推)	ロクロ成形。口縁部外反。 体部中央に條を押し、底 部回転糸切り難し。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	残存率60%
9	杯 (土師器)	口縁～ 底部	普通。 砂粒含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	11.3(推) 2.8(推)	口縁部やや内湾。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。底部手持 ヘラケズリ。ユビナデ。 内：ヘラミガキ。	
10	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 細砂含む。	良好。 軟質。	5YR7/6 橙	11.0(推)	口縁部短く立ち上がる。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部手持 ちヘラケズリ。 内：ナデ後ヘラミガキ。	

第6表 3号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
11	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	普通。 砂粒多く含む。	良好。 硬質。	7.5YR7/1 明褐色	16.7(推)	ロクロ成形。ロクロ目明瞭。口縁部大きく外反。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
12	埴 (須恵器)	口縁～ 底部	やや粗。 長石、粗砂 多量含む。	良好。 硬質。	7.5YR7/1 明褐色	15.0 7.0	ロクロ成形。口縁部外反。ゆがみあり。底部回転糸切り。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	高台部欠損。
13	埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	普通。 1～3mm小礫 含む。	良好。 硬質。	10YR8/1 灰白	14.5(推) 6.7 6.2(推)	ロクロ成形。口縁部わずかに外反。胴部回転糸付け高台。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	残存率50%
14	埴 (須恵器)	口縁～ 底部	普通。 霰母、2～7 mm小礫多く 含む。	良好。 硬質。	10YR8/2 灰白	16.6	ロクロ成形。口径下7mm幅ヘラ状工具による沈跡めぐらす。	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。体部下ロクロナデ。内：ロクロナデ。ヘラナデ。底部爪跡あり。	残存率80%
15	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	粗。 2～3mm小礫 多く含む。	やや良好。 硬質。	10YR7/3 にぶい黄 褐色	12.2(推)	ロクロ成形。口縁部外反。体部中央線を待つ。	外：口縁部から体部中央ロクロナデ。体部中央から下半ヘラケズリ痕あり。 内：ロクロナデ。	
16	埴 (須恵器)	高台部	やや粗。 細砂含む。	やや良好。 硬質。	10YR4/1 福灰	6.0	ロクロ成形。底部回転糸切り後付け高台。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
17	埴 (灰輪陶器)	口縁～ 体部	密。 微砂含む。	良好。 硬質。	2.5Y7/1 灰白	12.2(推)	ロクロ成形。口縁部短く外反。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	外内面施釉。
18	蓋 (須恵器)	蓋部	密。 微砂含む。	良好。 硬質。	2.5YR/2 灰白	横み径 5.7(推)	ロクロ成形。横み部貼り付け。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
19	蓋 (土師器)	頸部～ 胴部	やや粗。 砂粒多く含む。	普通。	5YR7/6 黄			外：頸部環状文右回り2連止め。胴部波状文。 内：ナデ。	帯状工具による文様。弥生土器。

鉄・石製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
20	釘			鉄	4.6	0.3		6.2	
21	釘			鉄	3.9	0.35		2.1	
22	磨石		一部欠損	安山岩	12.2	5.7	4.9	500.0	
23	磨石		完形	角閃石 安山岩	8.3	7.4	7.3	220.0	
24	磨石		完形	安山岩	6.6	5.7	3.9	100.0	
25	磨石		半分欠損	安山岩	11.0	5.5	4.3	300.0	

第7表 4号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	甕 (土師器)	胴部	やや密。 細砂含む。	やや良好。 やや硬質。	5YR4/3 にぶい赤 褐色		胴部やややみを待つ。器内薄い。	外：ヘラケズリ。 内：丁取にナデ。	
2	坏 (須恵器)	底部	普通。 細砂含む。	やや良好。 硬質。	2.5YR/1 灰白	8.3	ロクロ成形。底部回転糸切り。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
3	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	やや密。	良好。 硬質。	2.5YR/1 灰白	11.0(推)	ロクロ成形。ゆるやかに外傾。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	

第8表 5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	長頸壺 (灰釉陶器)	頸部～ 胴部	密。 微砂含む。	良好。 硬質。	2.5YR/1 灰白		ロクロ成形。 頸部、口縁に向かい外反 肩丸みを持つ。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	付けがけか、 最大径胴部 16.8cm。
2	羽釜 (須恵器)	胴部～ 胴部	やや粗。 長石、2～4 mm小粒多く 含む。	良好。 やや硬質。	7.5YR/6 橙		ロクロ成形。 胴部貼り付け。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
3	羽釜 (須恵器)	口縁～ 胴部	やや粗。 砂粒、2～3 mm小粒多く 含む。	良好。 硬質。	7.5YR/4 にぶい橙	24.2(推)	ロクロ成形。口縁部長く 立ち上がる。胴部貼り付 け。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
4	坏 (土師器)	口縁～ 体部	普通。 1～2mm小粒 含む。	やや良好。 やや硬質。	7.5YR/6 淡黄橙	12.0(推)	口縁部下端に使を持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	
5	坏 (土師器)	口縁～ 体部	やや密。 1～2mm粒含 む。	良好。 やや硬質。	5YR/6 橙	12.8(推)	口縁部内湾。体部丸み を持つ。	外：口縁部ヨコナデ。体部ヘ ラケズリ。 内：回転ヘラナデ。	
6	高坏 (土師器)	口縁～ 体部	やや粗。長 石、砂粒多 く含む。	やや良好。 やや硬質。	5YR/6 橙	17.0(推)	口縁部わずかに立つ。 体部円状に広がる。	外：口縁部ヨコナデ。体部、底 部ヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。体部ヘラ ミガキ。	
7	埴 (須恵器)	口縁～ 体部	やや粗。 1～2mm小粒 含む。	良好。 硬質。	5YR/1 灰白	12.6(推)	口縁わずかに外反。体部 直線的に広がる。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	
8	埴 (須恵器)	底部	普通。 砂粒多く含 む。	良好。 硬質。	7.5Y/1 灰白		ロクロ成形。 底部回転糸切り。 付け高台。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	高台部剥離。
9	埴 (灰釉陶器)	口縁～ 体部	密。	良好。 硬質。	N8/ 灰白	14.0(推)	ロクロ成形。 口縁部やや外反。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	釉粒。

鉄製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
10	釘			鉄	2.9	0.4		2.0	

第9表 6号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	坏 (土師器)	口縁～ 底部	普通。 1～2mm小粒。 長石、細砂 多く含む。	良好。 やや軟質。	2.5YR/6 橙	18.4 7.4	口縁部内湾。 体部から底部丸みを持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部から 底部手持ヘラケズリ。 内：ナデ後ヘラミガキ。	ほぼ完形。
2	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 長石、3～5 mm小粒含む。	やや良好。	5YR/6 橙	12.8 4.8	口縁部内湾。 体部から底部丸みを持つ。 丸底。	外：口縁部ヨコナデ。 内：ヨコナデ後ヘラミガキ。	
3	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 細砂含む。	良好。 やや硬質。	5YR/6 橙	11.0 3.7	口縁部やや内湾。体部か ら底部丸みを持つ。丸底。	外：口縁部ヨコナデ。体部から 底部ヘラミガキ後ナデ。 内：ヨコナデ。ヘラミガキ。	ほぼ完形。

第10表 7号住居跡出土遺物観察表 (1)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	埴 (土師器)	胴部～ 底部	普通。 細砂含む。	やや良好。	2.5YR/6 橙	5.1(推)	胴部直線的に開く。 平底。	外：ヘラケズリ。 内：ナデ。指頭圧痕。底部ヘラ ナデ。	
2	小室甕 (土師器)	口縁～ 胴部	やや密。	良好。 やや硬質。	5YR/6 橙	10.2(推)	口縁部短くやや外反。頸 部に段あり。	外：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ ケズリ。 内：器状ヘラナデ。	

第11表 7号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
3	埴 (灰釉陶器)	口縁～ 胴部	密。	良好。	5YR8/1 灰白	14.0(推)	ロクロ成形。器内薄い。 口縁端部外反。体部丸みを 持つ。	外: ロクロナデ。 内: ロクロナデ。	内外面施釉。
4	埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	やや粗。 2～5mm小礫 多く含む。	良好。 硬質。	2.5YR7/1 明赤灰	14.8(推) 5.4 7.2	ロクロ成形。口縁部外反 底部回転糸切り後付け高 台。	外: ロクロナデ。 内: ロクロナデ。	残存半50%
5	埴 (須恵器)	口縁～ 高台部	密。 2～3mm小礫 含む。	良好。 硬質。	2.5YR7/3 浅黄橙	14.8(推) 5.0(推) 7.4(推)	ロクロ成形。口縁部外反。 底部回転糸切り後付け高 台。	外: ロクロナデ。 内: ロクロナデ。	内外面の大部分 10YR3/1 黒褐
6	埴 (須恵器)	口縁～ 底部	密。 微砂含む。	良好。 硬質。	2.5YR8/1 灰白	14.0(推) 4.5(推) 7.3(推)	ロクロ成形。ロクロ目明 瞭。底部糸切り履し。	外: ロクロナデ。 内: ロクロナデ。	
7	埴 (須恵器)	高台部	やや密。 2～3mm小礫 含む。	良好。 硬質。	2.5YR8/1 黄灰	6.4	ロクロ成形。糸切り後付 け高台。	外: ロクロナデ。 内: ロクロナデ。	

石製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
8	磨石	円形。平たい。	完形	安山岩	7.1	6.3	2.1	140.0	
9	磨石	槽円形。	完形	安山岩	6.9	3.3	2.6	130.0	

第12表 8号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	甕 (土師器)	胴部～ 底部	やや密。 1～3mm小礫 含む。	良好。 やや硬質。	7.5YR5/4 にぶい褐	10.0(推)	底部から胴部直線的に狭 く。	外: コロヘラナデ後タテヘラミ ガキ。 内: ヘラナデ。	
2	坏 (土師器)	口縁～ 体部	やや密。 細砂含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	11.2(推)	口縁部下端に不明瞭な棱 を持つ。	外: 口縁部ヨコナデ。 底部ヘラケズリ後ナデ。 内: 丁寧なナデ。	
3	坏 (土師器)	口縁～ 体部	やや密。 細砂含む。	良好。 やや硬質。	7.5YR7/6 橙	12.0(推)	口縁部下端に不明瞭な棱 を持つ。丸底か。	外: 口縁部ヨコナデ。体部ヘラ ケズリ。 内: ヘラナデ後粗いヘラミガキ。	

第13表 9号住居跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	長胴甕 (土師器)	口縁～ 胴部	やや粗。 2～3mm小礫 多く含む。	やや良好。 やや硬質。	5YR7/6 橙	24.0(推)	口縁部「く」の字状大き く外反。口縁部ヘラ痕跡。 胴部ストレートぎみ。	外: 口縁部ヨコナデ。ヘラ痕跡。 胴部ヘラケズリ。 内: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ ナデ。	
2	長胴甕 (土師器)	口縁～ 胴部	やや粗。 2～4mm小礫 多く含む。	やや良好。	5YR7/6 橙	24.5(推)	口縁部「く」の字状外反。 胴部上半やや丸みを持つ。	外: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケ ズリ。 内: 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラ ナデ。	
3	長胴甕 (土師器)	胴部～ 胴部	普通。 長石、粗砂 含む。	やや良好。	5YR7/6 橙		胴部4mm幅沈めぐる。 胴部上半やや丸みを持つ。	外: 胴部下ヨコヘラケズリ。胴 部タテヘラケズリ。 内: ヘラナデ。指頭圧痕。輪積 み痕跡。	
4	坏 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 2～4mm小礫 多く含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	12.2 3.7	外口縁部下端に棱を持 つ。丸底。	外: 口縁部ヨコナデ。底部手持 ちヘラケズリ後ナデ。 内: ヘラミガキ。	ほぼ完形。

第14表 9号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
5	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 灰石含む。	やや良好。 やや硬質。	2.5YR6/6 橙	11.0(推)	口縁部短く立ち上がる。 丸底か。	外：口縁部ヨコナデ。底部手持 ちヘラケズリ。 内：ヘラミガキ。	
6	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 2～3mm小粒 含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 橙	12.0(推)	口縁部わずかに立ち上 がる。丸底か。	外：口縁部ヨコナデ。底部手持 ちヘラケズリ。 内：ヘラミガキ。	
7	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 細砂含む。	やや良好。 やや軟質。	5YR7/6 にぶい橙	12.1(推)	口縁部外反。 口縁部下縁に稜を持つ。 丸底か。	外：口縁部ヨコナデ。底部ケズ リ後ナデ。 内：口縁部ヨコナデ。ナデ。	
8	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや粗。 3～5mm小粒 含む。	やや良好。 やや硬質。	7.5YR6/3 にぶい橙	12.0(推)	口縁部わずかに内湾。 口縁部下縁に稜を持つ。 丸底か。	外：口縁部ヨコナデ。底部手持 ちヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。 ヘラミガキ。	
9	杯 (土師器)	口縁～ 底部	やや密。 灰石、細砂 含む。	良好。 やや硬質。	5YR6/6 橙	11.2(推)	口縁部下縁に稜を持つ。 丸底か。	外：口縁部ヨコナデ。底部手持 ちヘラケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。ナデ。	
10	埴 (須恵器)	口縁～ 底部	密。 砂粒含む。	良好。 硬質。	10YR5/1 褐灰	14.0(推)	ロクロ成形。 口縁部外反。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	

鉄製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
11	鉄鏃			鉄	4.7	9.6		35.5	

第15表 2号井戸跡出土遺物観察表

番号	器種	特徴・形態	残存状態	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	釘			鉄	4.0	0.4		5.7	

第16表 遺構外出土遺物観察表

番号	器種	部位	胎土	焼成	色調	口径 器高 底径 (cm)	器形・成形	整形・調整	備考
1	大甕 (須恵器)	口縁部	密。 灰砂含む。	良好。 硬質。	5YR/1 灰白		口縁部外反。 3本の沈線あり。	外：ロクロナデ。波状文。 内：ロクロナデ。	
2	高杯 (土師器)	脚部	やや密。 粗砂含む。	良好。	2.5YR6/6 橙		脚部漏斗状に開く。	外：ヘラミガキ。 内：ヘラナデ。	
3	杯 (須恵器)	底部	やや密。 2～4mm小粒 多く含む。	良好。 硬質。	5Y7/1 灰白	6.0(推)	ロクロ成形。 底部回転糸切り磨し。	外：ロクロナデ。 内：ロクロナデ。	

石製品

番号	器種	特徴・形態	残存状態	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
4	砥石	半分欠損	4面使用痕跡あり。 2面は、えぐれる程の使用 痕あり。	砥沢石	6.4	3.1	2.2	55.9	

